

師範學校
編輯小學讀本
翻列

635

明治九年十月刊

師範學校編輯

小學讀本

明治七年
八月改正

文部省刊行

小學讀本第一

特 59
638

第一 凡地球上の人種ハ、五

分とあり、亞細亞人種、歐羅巴

人種、馬米人種、亞米利加人種、

亞弗利加人種、是あり、日本人

ハ、亞細亞人種の中あり

人ハ、賢きものと愚なるもの

とあるハ、多く學ぶと學ばざると、由りてあり、賢きもの

ハ、世に用ゐられて、愚なるものハ、人は捨てらるること、常



田中義廉 編輯
那阿通高 校正

小學讀本 第一

明治九年九月刊

小學讀本

第一冊

小學讀本第一

第一

凡地球上の人種ハ、五ノ

分トシテ、^{アフリカ}亞細亞人種、^{エウロパ}歐羅巴

人種、^{アメリカ}馬米人種、^{アメリカ}亞米利加人種、

^{アフリカ}亞弗利加人種、是ナリ、日本人

ハ、^{アフリカ}亞細亞人種の中ナリ

人ノ賢キモノト愚カキモノ

ト有ルハ、^{マナ}多ク學ぶト學バざると、^ヨ由リテ、^{マナ}多ク賢キモノ

ハ、^{モチ}世ニ用ゐられて、^{ステ}愚カキモノハ、人ニ捨テラる事トナリ



田中義廉 編輯
那阿通高 校正

特59
638

小學讀本 第一冊

の道^{ミチ}あるは、幻^{ヨウ}稚^シのときより、能^ヨく學^{マカ}ひて賢^{トク}きものとなり、必^{カナラズ}無^ム用の人と

あることありき、○幻^{ヨウ}稚^シのときハ先^{マツ}

日用^{ニチヨウ}什器^{ジキ}の名^ナを記^キして、其^{ソノ}用^{ヨウ}の方^{カタ}を

知るべし、○筆^{フデ}ハ、字^ジを寫^シり、又^{マタ}書^エを寫^シる具^グあり、○算盤^{ソロバン}ハ物^{モノ}

敷^カふる用^{ヨウ}ハ供^{キヤウ}を、○文庫^{ブンコ}ハ書籍^{シヨセキ}を納^イる箱^{ハコ}あり、○算^{タンス}筒^{トウ}ハ

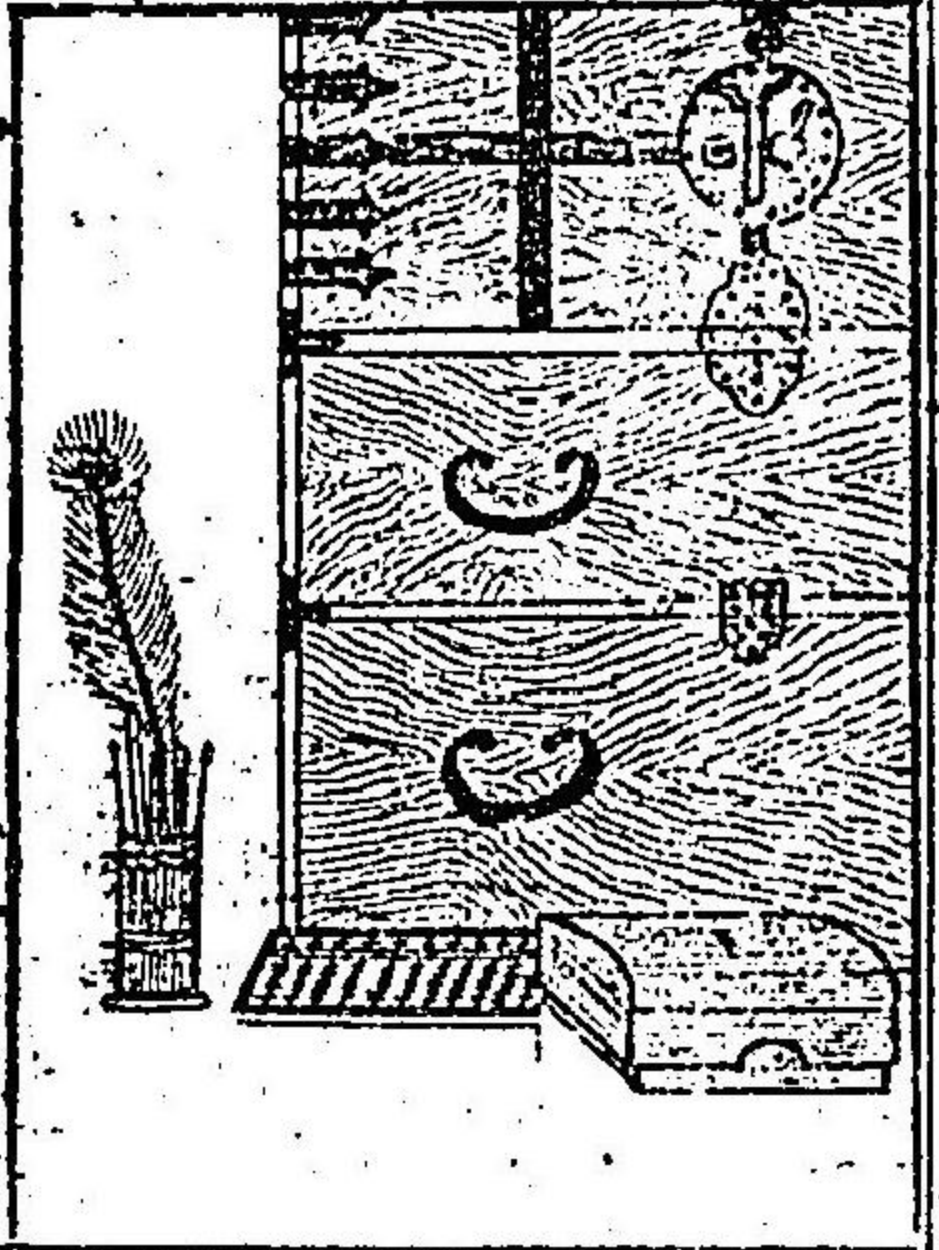
衣裳^{イセヤウ}などを入^イる器^キあり、○又^{マタ}平生^{ヘイセイ}食^{シヨク}をへきもの

の名^ナを記^キし、これ^{コレ}を調^{テウ}理^リして、食^シ物^{モノ}とな^ナる

法^{ホウ}を知^チるべし、○食^シ物^{モノ}とな^ナるべきもの、

種^{シユ}々^々あり、○第^{ダイ}一^{イチ}ハ穀^{コク}物^{モノ}なり、○穀^{コク}

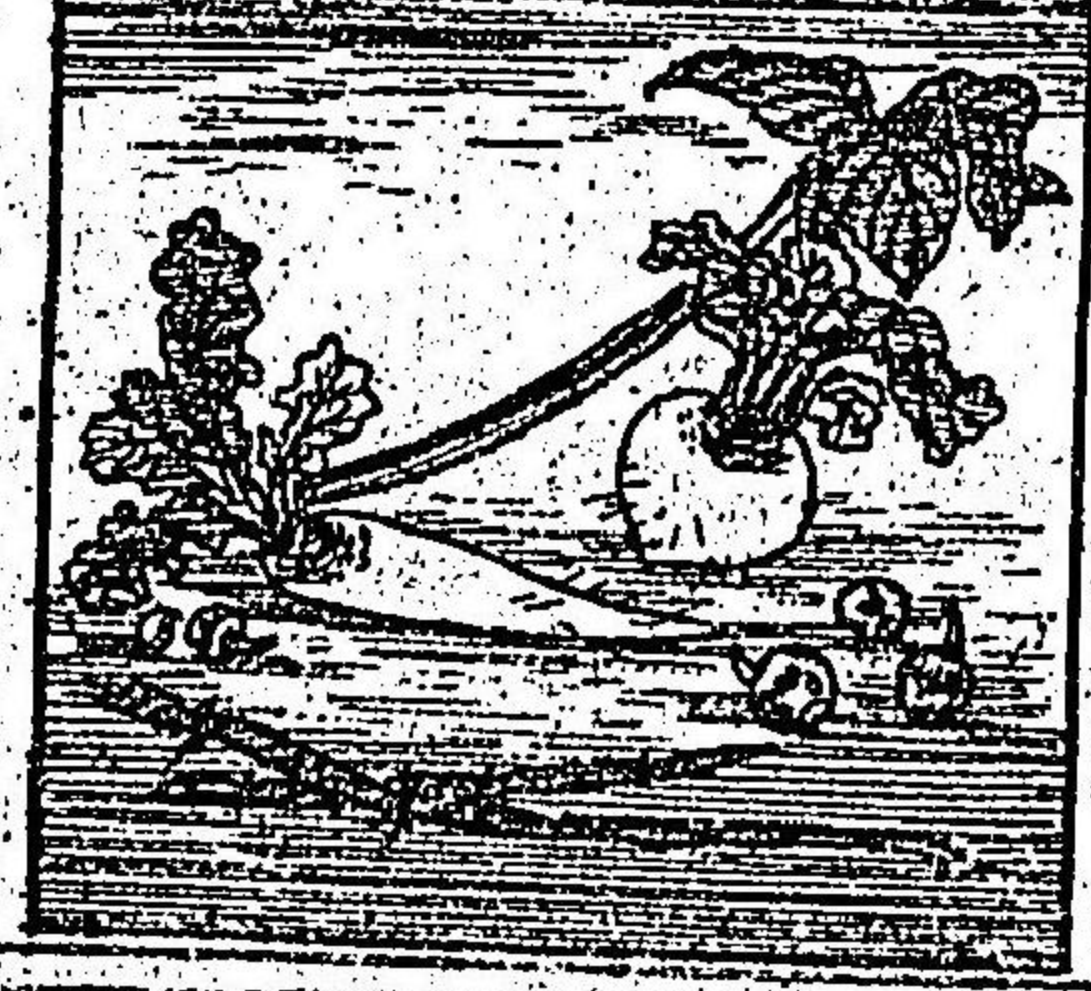
物^{モノ}とハ、稻^{イネ}、麥^{マク}、豆^{マメ}、粟^{ムギ}、黍^{コメ}の類^{ルイ}をいふ、○此^{コレ}等^{トウ}ハ、



皆^タ田^タ畠^{ハタ}より作りて、其^{ソノ}實^ミを取^トり、或^シハ炊^カき、或^シハ炙^イりて、食^シ物^{モノ}とな^ナるあり、○第^{ダイ}二^ニハ肉^{ニク}類^{ルイ}あり、○肉^{ニク}類^{ルイ}とハ、魚^{イサ}、鳥^{トリ}、獸^{シムル}、肉^{ニク}

の類^{ルイ}をいふ、此^{コレ}等^{トウ}ハ、或^シハ炙^イり、或^シハ煮^ニて、食^シ物^{モノ}とな^ナるあり、○第^{ダイ}三^{サン}ハ菓^{クワ}あり、○

菓^{クワ}ハ、葡萄^{ブドウ}、梨^リ、梅^{ウメ}、桃^{モモ}、柿^{カキ}、橙^{ダイダイ}、密^{ミツ}、柑^{カン}の類^{ルイ}をいふ、○此^{コレ}等^{トウ}ハ、多^{オホク}く生^ナじて、食^シり、又^{マタ}鹽^{シホ}に漬^{ヅク}けて、食^シ物^{モノ}とな^ナるもあり、○第^{ダイ}四^シハ菜^{サイ}蔬^ソの



類^{ルイ}あり、○此^{コレ}等^{トウ}ハ、畠^{ハタ}より植^ウて作るもの、野^ノより自^ジ生^シするものとあり、○多^{オホク}くハ、煮^ニて食^シり、又^{マタ}鹽^{シホ}漬^{ヅク}とな^ナるもあり、○凡^{オソ}て菜^{サイ}ハ、

葉^{エフ}と根^ネとを、食^シ物^{モノ}とな^ナり、又^{マタ}實^ミを食^シ物^{モノ}とな^ナるもあり、○此^{コレ}の如^{カド}く、平^{ヘイ}生^{セイ}用^{ヨウ}ある食^シ物^{モノ}什^ジ器^キをハ、能^ヨく心^{シン}を留^ルめて、忘^{ワスレ}るること

とありき」 ○人業は八種々ありて、其學ぶべきところ各異あり、然れども先ツ書を読み、字を寫し、物を數ふること、學ぶを第一の務と爲、これを普通の學といふ。○この學を爲さざれば、何れの業をも習ふこと能はば、○故は人ハ、六七歳に至るまで、皆小學校に入りて、普通の學を從ふべし。○小學校ハ、士農工商とも、必學ぶべきの業を授くる所あり、○學校は、到りてハ、何事も、一心は、師の教は、順ひ、勉強して、學ぶべし。○何事を、學ぶとも、勉強を、第一と爲、勉強せざれば、學問は、上達せらるること能はず。○一事よても、記し得る所ハ、能く心を用ひて、忘るべからず。○初より、多く記せんとせざれば、却て忘るるものあり、故は、怠るく、日毎は

一事を、記し得て、忘れざるときハ、其記し得る所の事、自歳と共に積もりて、多きに至るべし。○他人の、一こび、讀む所ハ、百たびも、こびを讀み、他人の、十こび、習ふ所ハ、千たびも、これを習ふべし。○斯の如く、勉強して、怠りなければ、必多く、事を記し、得らるべきなり。○愚ふるものも、多く事を記し得るときハ、無用の人たることを、免るべし。○學校にてハ、授業の暇は、遊歩の時間あり。○此時間ハ、遊歩場に出で、身を動かし、心を慰むべし。○怠なく、勉強したる後ハ、遊歩するハ、いと樂とあるものあり。○故は、遊歩を樂とせんと、おもたず、授業の時間ハ、怠りなく、勉強をべし。○遊歩場は、出て、男兒の、戯るる技ハ、種々あり、いと、決して、危き

遊をバ、あはべららば、○輪を廻
 へ、紙鳶を飛む、球を投ぐる
 等を、宜いとす、○朋友相集りて
 遊ぶときハ、自擅よして、他人の
 樂を妨ぐべからば、○女子の遊
 ハ、男兒と異りて、走り旋るふと
 の、戲をバ、あはべららば、○朋友
 を、伴ふひて、遊ぶ時ハ、心を和ら
 げて、何事も親しくせべし

第二 我等ハ、河の中にて遊ばん
 とき、岸の邊ハ、水淺きゆゑ、水

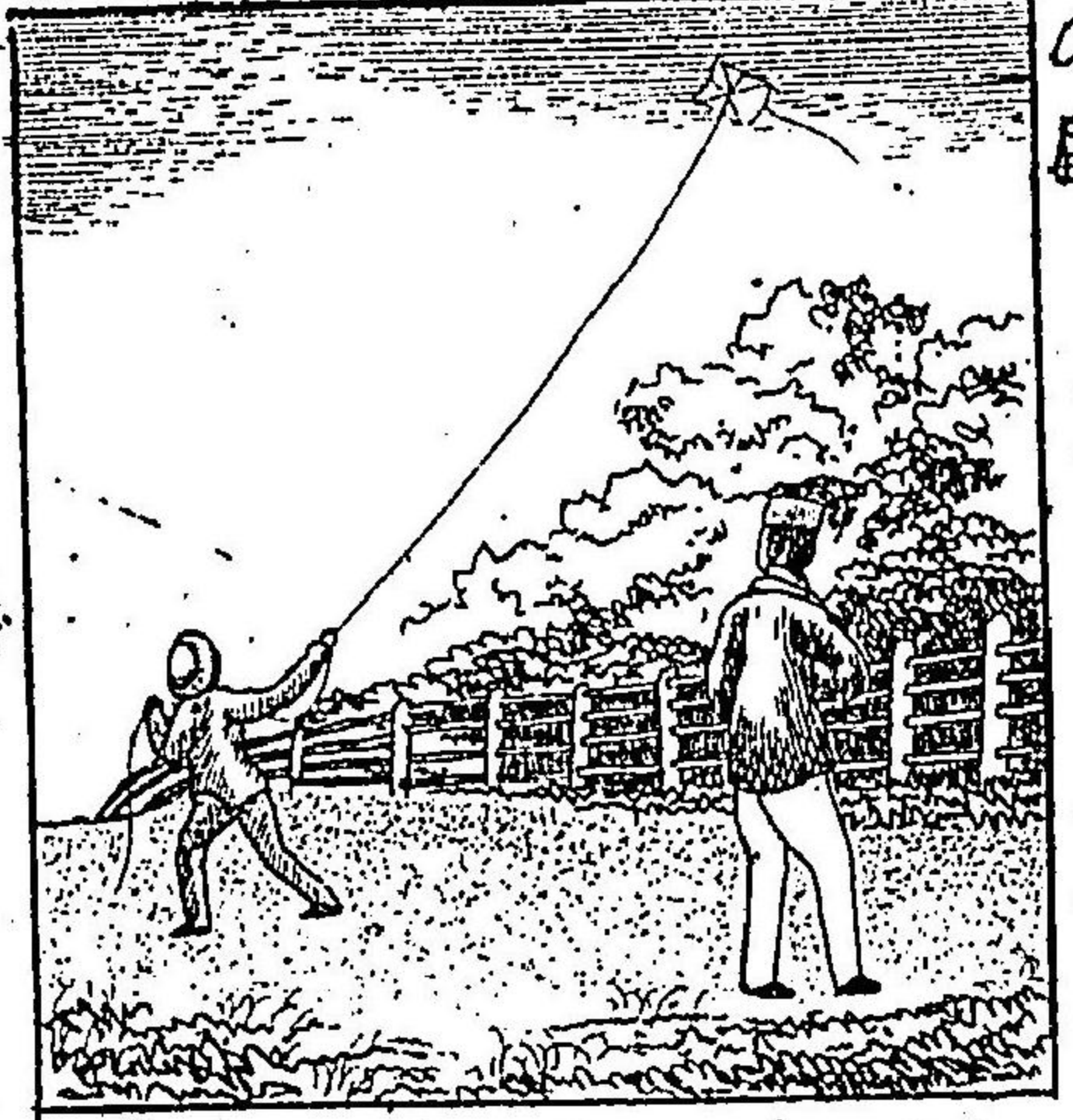


入りて、遊ぶことを得べし、○河の
 正中ハ、深きゆゑ、遊ぶべからば、若
 し深き所ハ、沈むときハ、復出づること
 と能はざるべし、○汝の衣裳ハ、濕ひ
 たまば、陸よ上りて、これを乾かすべし、
 ○汝ハ、この小舟ハ、来らんとするり、
 ○小舟ハ、覆へり易き故、漫よ乗るべ
 からば、もし過つ時ハ、水ハ、陥りて、其
 命を失ふことあるべし、



此兒ハ、新しき紙鳶を持
 てり、○彼ガ、糸を持ちて、走るを見よ、○彼ハ、紙鳶を高く飛
 べせんと、思ふあり、○汝も、紙鳶の颯るを、欲するり、○紙鳶

の、颯りたるときい、能く心を用およ。○糸の樹は纏ふこと



あるべし。○彼は、新しき帽を持って
り。○其舊き帽は、破きたるゆゑよ、
新しく、買得たるあり。○新しき帽
を、心を用
おて、或は毀
り、或は濡を



べめらば、○凡て、新しき時より、大切
は持てば、後までも、破き難し。故に、何
物よても、鹿末よをべめらば、若し心
用おせりて、毀つことあらば、その罪を、免るべめらば

○此猫を見よ。恣に臥床の上よ坐せり。これよき猫よあら

ば。○汝ハ猫を追ひ退くることを得

べ。○否、手を出さば、必猫は噛まる

べ。○猫ハ他所よ、追遺るべきや、又

此所よ留め置べきや、○猫ハ此室の

中よ留め置と雖、臥床の上よ上るこ

とをバ、許さべらば、○汝ハ此猫の

鼠を捕を見たりや、○見とり、夜間よ、

鼠を捕ふること、屢あり。○汝ハ小舟よ、乗ぎる人を見たる

や、彼ハ何如よして、其舟を行るや、○彼ハ、櫂を以て、小舟を漕

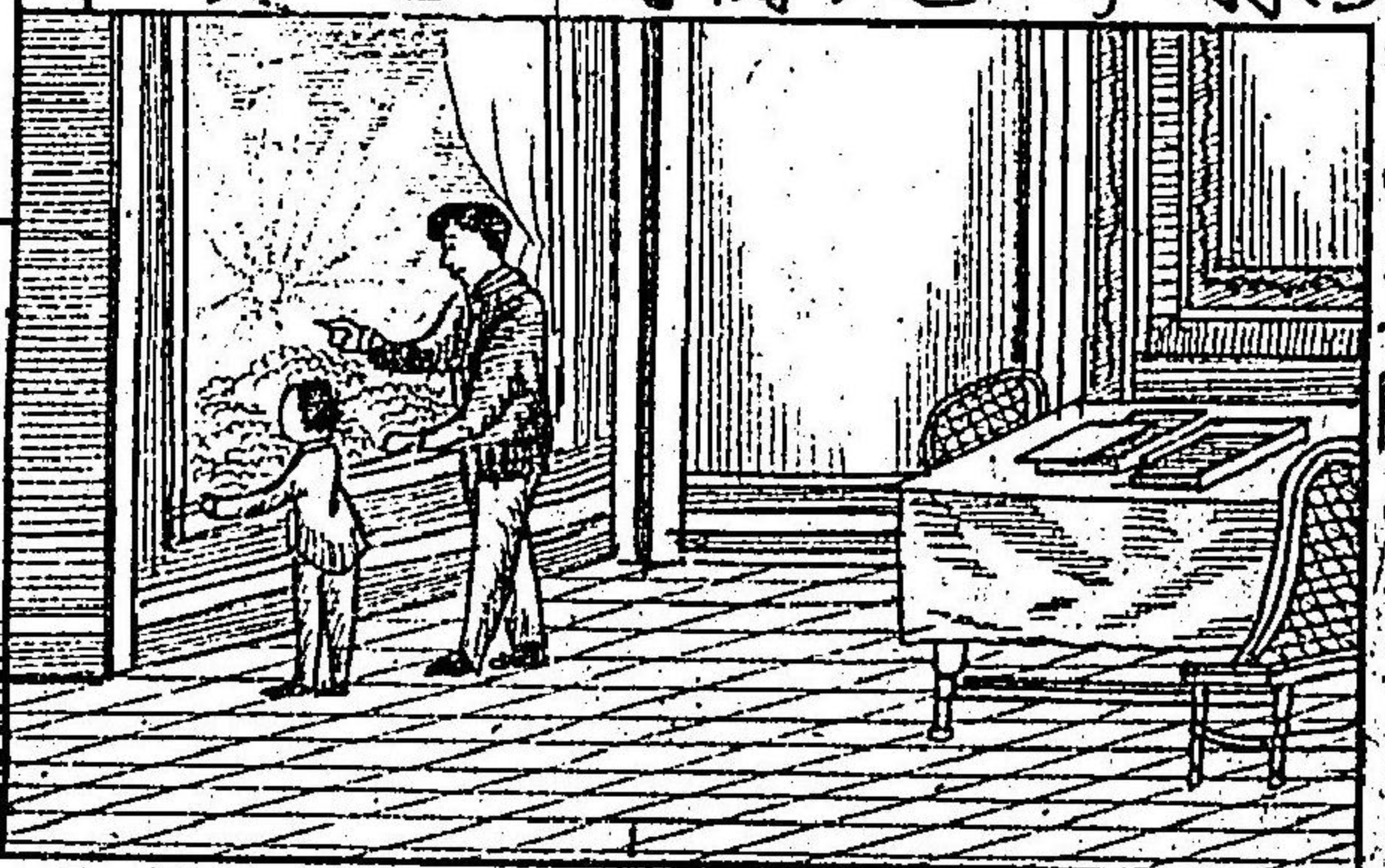
けり。○群兒相集り、球を投げて、遊ひ居たり。○彼等の棒を



持てるハ、投げたる球を受留るを以て、
 樂とするあり、若其球を受留ること、能
 けざる者、バ、負とするあり、○此球ハ、
 柔キ一て、堅キもの、あらざるゆゑ、人
 中りても、傷くこ
 とあり、○此ハ、善キ
 遊、あれども、熱キ日
 ハ、早く、これを止めよ、酷キ熱サに
 觸るゝときハ、身を害ふを以て、あり、○
 太陽の、昇りたるときハ、我等の起き出
 つべき、時の、来たるありと思ふべし、○



太陽の昇りたる後、までも、猶寢所、目、そことあり、○我
 等ハ、太陽を、ハ、見ること、得、きども、其出、さ、と、見、る、こ、と、あ
 り、○汝ハ、太陽の、赤キ、を、見、る、こ、と、あ、り、と、や、大、陽、の、赤、キ、と
 きハ、大、抵、早、そ、る、も、の、あ、り、○こ、れ、ハ、林、
 檜、の、樹、あ、り、○汝ハ、此、樹、の、蕾、を、見、る、こ
 と、あ、り、○此、樹、ハ、紅、キ、蕾、満、ち、り、○此、蕾、を
 ハ、取、べ、ら、ら、ば、○暫、過、ぐ、れ、バ、其、蕾、皆、開
 き、美、し、き、花、と、あ、る、の、み、あ、ら、ば、後、ハ、ハ
 實、を、結、び、て、其、味、甘、キ、果、と、あ、れ、バ、あ、り、○
 彼、兒、ハ、牝、雞、を、養、へ、り、○雞、ハ、穀、物、を、食
 べ、る、こ、と、速、あ、り、○こ、れ、嗜、む、こ、と、あ、り、



ることあし、然むども、共よ遊ぶこと
をハ、好まざるあり。○彼子ハ、彼小女
の為、親切ありや。○然り、彼子の親
切あることハ、小女の、蹶き倒むざる
為、手を執り導くを見て、も知るべ
し。○彼二人ハ、道よ、迷ふべきり。○否
彼子ハ、能く道を知むるゆゑ、二人
とも、道に迷ふことあり。○彼等ハ、林
の中を、過ることを、恐るゝ。○否、恐るゝことあり。○小女
の母ハ、彼子の恐るゝことあきを、知りて、これを任せたる
ゆゑ、親切よ、道きて、家よ在ると、同く、安全あらむる



あり。○若又家よ、歸らんとするときハ、自
在よ、歸り得らるべし。○汝ハ、杖を獲へ
る、老人を見たるり。○彼老人ハ、路傍の石
の上よ、息ひ、其手を杖の上よ、置けり。○彼
の顔と、其白髪あるよ由りて、年老たるを
知り、又年老たるよ由りて、體の屈みたる
を、知むり。○何よ由りて、彼ハ杖を、携ふるや。○老人ハ、杖の
為、歩行を、杖あくてハ、歩行し難し。○彼ハ、年老とむむとも
起つことと、歩行することハ、得べし、然むども、急よ、走ること
能ハば、時々、途上よ、休きて、息を續き、杖よ、頼りて、徐よ、歩
行するなり。○爰よ、五人あり。○汝ハ、此人の、年老たるを、知



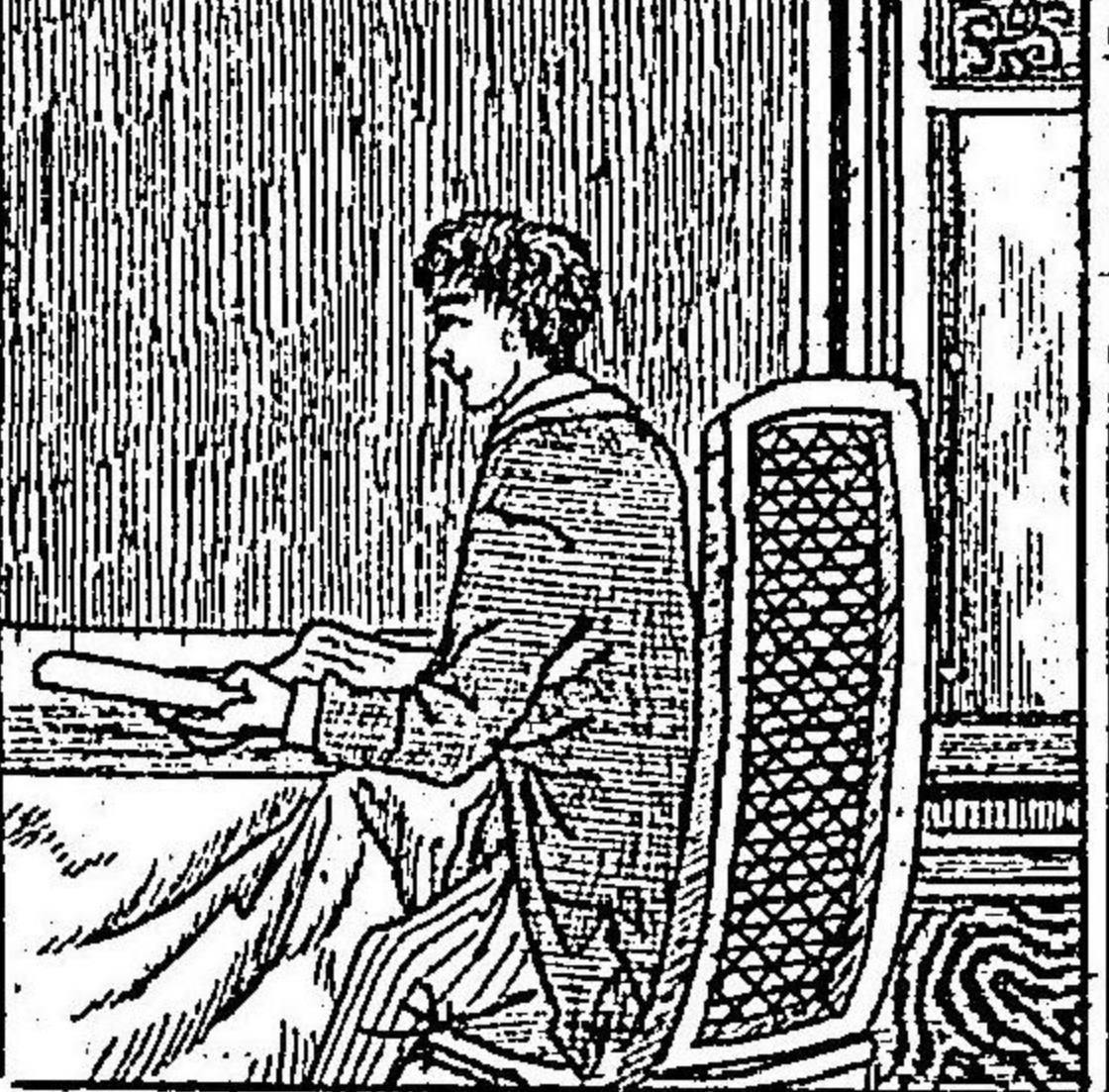
れりや。○此人ハ白き鬚あまきバ老人あるべし。○此人等ハ手よ杖を持ちたる老人と、同トく、年老たり。○然きども、其身ハ猶壯健あるゆゑ、杖よ頼らずして自在に歩行せることを得る



あり。○彼等の持ちたる、笛の名をバ、何といふそ。○此ハ喇叭あり。○彼等ハ、樂隊の、兵卒ゆゑ、此笛を吹くことを鍛錬せるあり。○此笛ハ、兵隊の行列を整ふる、合圖よ用ゐる。又ハ、祝日の音樂よ用ゐるものあり。○此笛ハ、管長として先



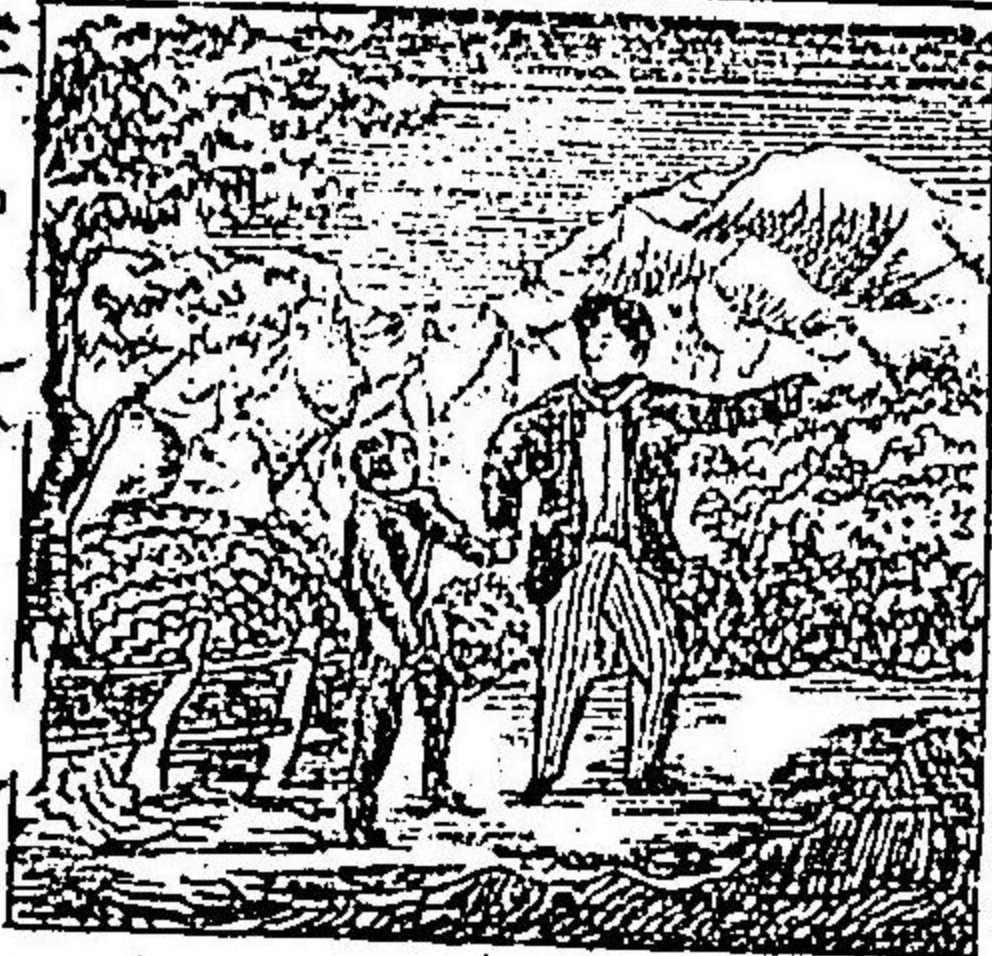
の開きたるものゆゑ、鼓を發せると、最大あり。○汝ハ、此人の、服紗の中、何るりの書冊ありと思ふ。○否、これハ、巻物あり。○然らバ、書冊の、次第を數ふるとき、何故、巻一、巻二と云ふや。○この唱ハ、漸く、轉るあり。古ハ、只、巻物にて、書冊あり



ざるゆへ、巻一、巻二と、呼びたり。其後、の書冊出来りても、猶昔の唱よ、治とへるあり。○良き老人ハ、我が好む、隨ひて、間ふ所を教へ、又能く、小兒を愛する。○然り、彼ハ、小兒の、善きものを愛せれども、惡しき小



兎をバ、決して愛せざることあり。○善
 き小兒あれば、好んで、何事をも教ふ
 るあり。○汝は、此女子を見とる。○
 何故、其手を上げて、をるや。○彼女
 子ハ籠ニ鳥ヲ入ル置キとれども、心を用ゐること深めし
 る故、鳥ヲ養ひ得、彼籠ヲ持テ、即其鳥逃去リテ、直ニ
 林の中ニ飛び入りたるあり。○此とき、敬馬きて、手を擧ぐと
 も、再捕ふること能はざれば、何の用よ。○立つべのらば、○
 彼の鳥を逃がしたるを、吾ハ却テ、甚喜べり。鳥ハ自由ある事
 を好むものあれば、あり。○汝ハ鳥の性を、知らりや。○鳥ハ
 木ニ在ること好んで、果を造り、兒を養育す。○鷓鴣ハ小

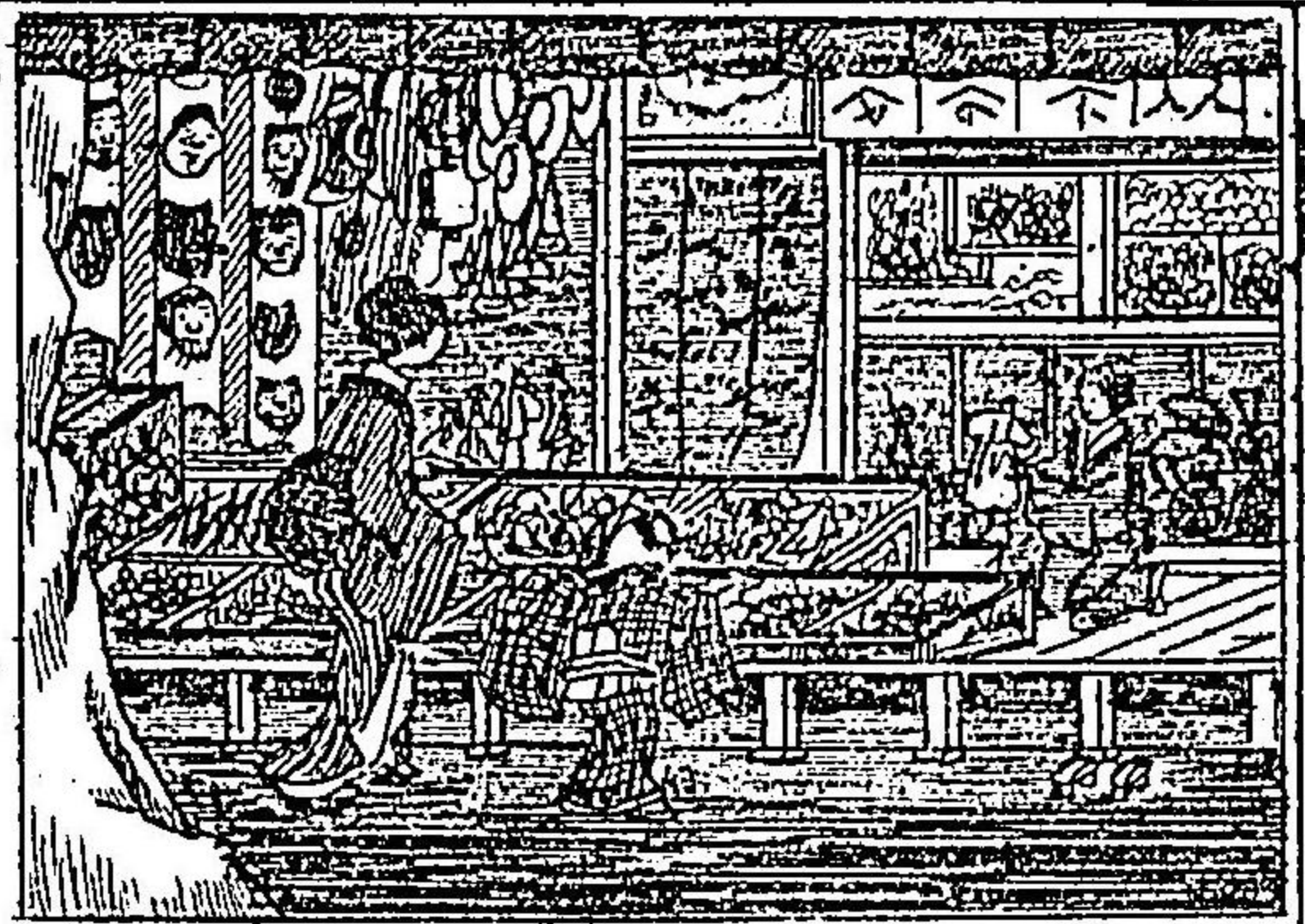


鳥マテ、棘の間ニ、巢ヲ管ミ、鷓鴣ハ、水鳥ニ
 テ、水ノ邊ニ、巢ヲ造ルなり。○かゝる鳥ハ、頭
 ノ毛冠アリ。○是ハ、諸鳥ノ、林間又ハ、水
 上ニ遊ぶハ、天然ノ
 性あれば、これを捕へて、苦むるハ、善
 きこととあらば、



第四 此女子ハ、愛すべき人形ヲ持テリ、これ等ハ、遊ぶニ宜
 しく、具あり、必大切ニ、弄ぶべし。○人形ヲ舞むるときハ、静
 しく、動クとして、毀るべからば、○母ハ、小兒ニ、向ひテ、何事ノ人形ヲ
 求めんとせざるやと、問ふ。小兒ハ、自好む所ヲ、指シ示せる
 あり。○此小兒ハ、人形ノみを、弄びテ、倦めるときハ、何事

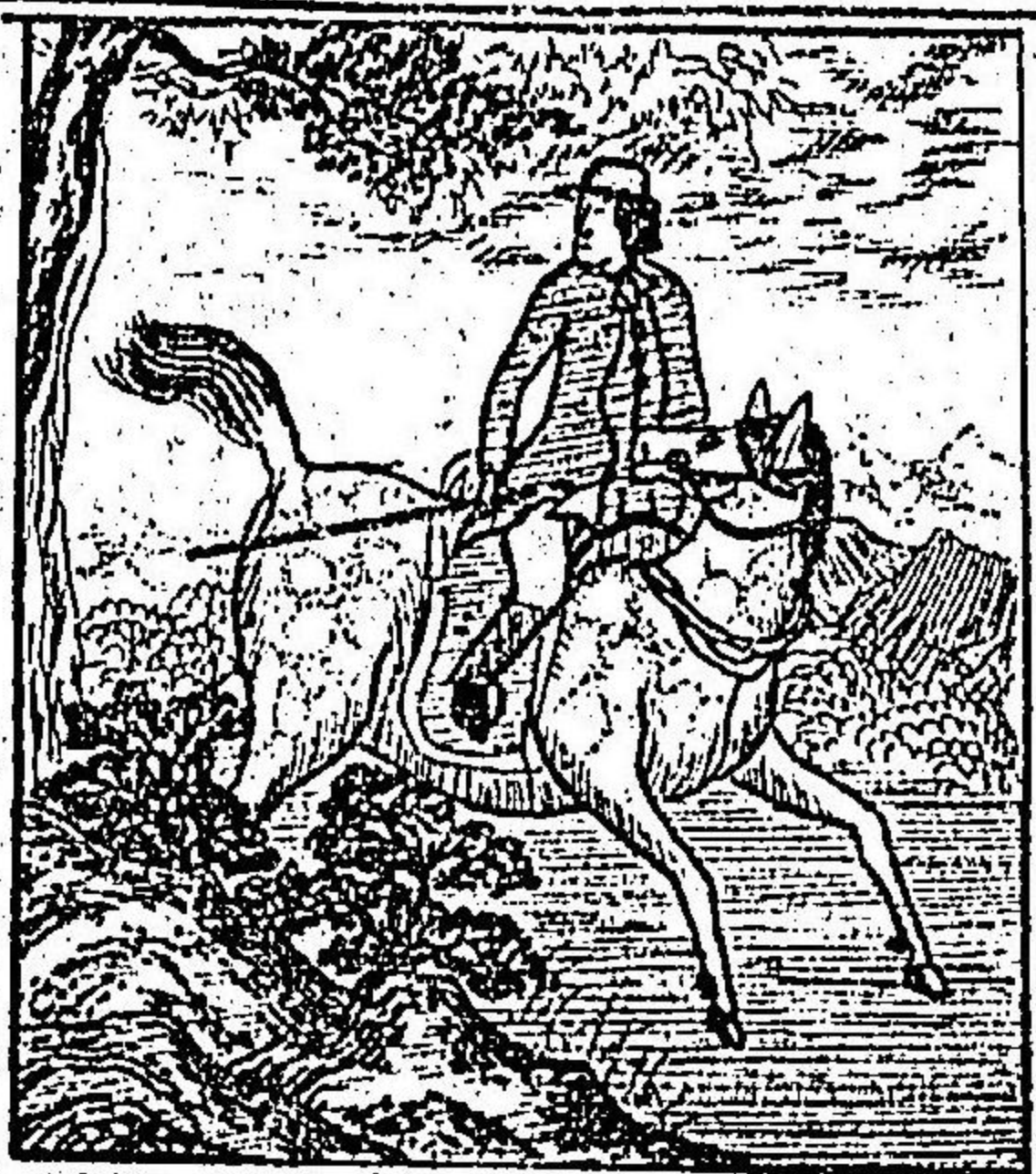
鳥詩本 卷



をふりや、○毬を弄ぶことを好むあるべし、○此店よ、列福する品ハ、皆小兒の好むものなれども、此小兒ハ、静る娘ハ、名よ、人形を愛して、能く心を用ね、これを損ひ毀るこ
とふし、○梟ハ、終日密樹の枝よをり、夜よ入さば

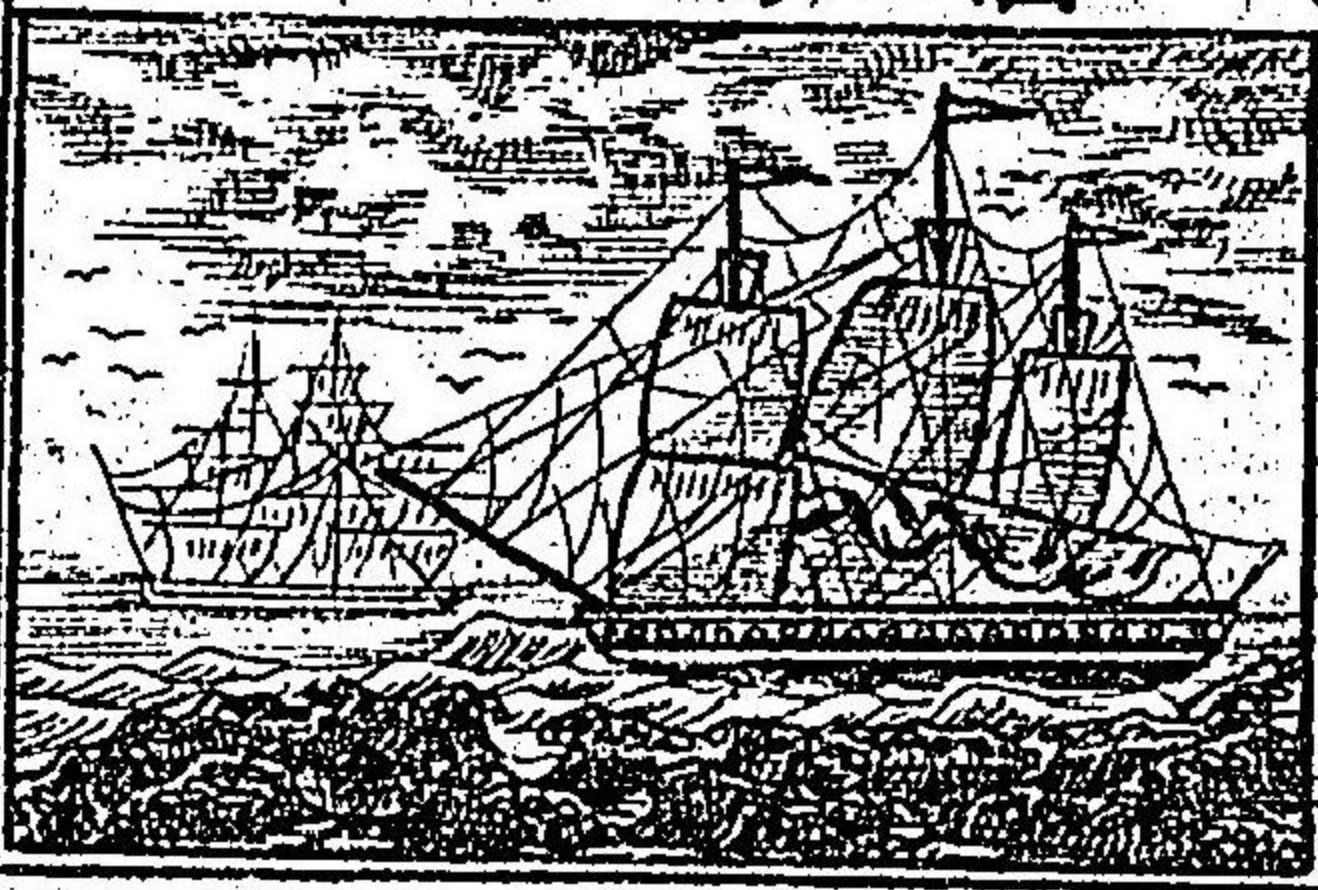


始めて、飛び翔るなり、○此鳥ハ、眼力甚強きゆゑ、晝間ハ、却て物を見ること能はず、暗夜よ明らあること人の能く日中よものを見るがごとし、○馬よ乗する人あり、○汝ハ、馬よ乗することを好む、○我ハ、馬よ乗することを好めり、

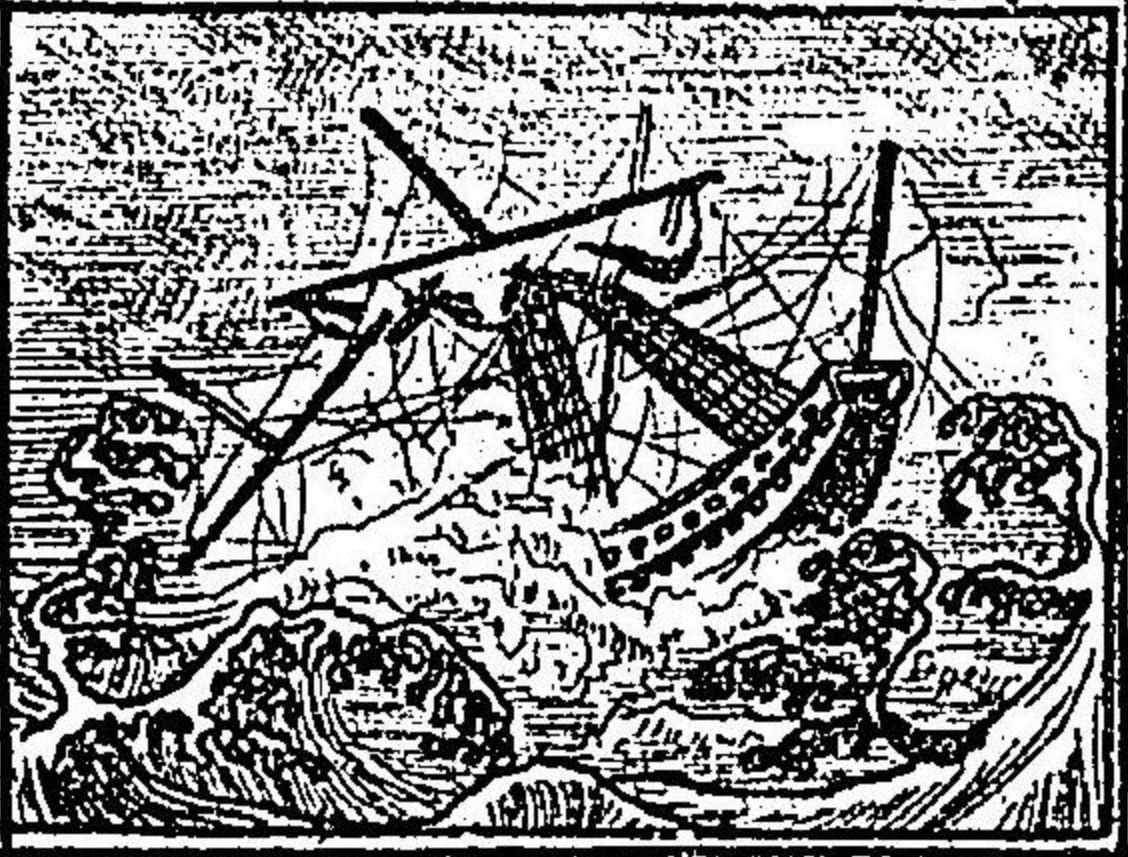


然きども、彼の如く、疾く走ることを好まば、徐よ歩ますることを好めり、○此馬ハ、何故よ、疾く走るや、○馬ハ、彼よ、鞭うさるゆゑよ、其痛よ堪へずして、疾く走るあり、○爰よ小船と、

大船あり、小船よ入、二本の檣あり、大船よハ、三本の檣あり、汝ハ、檣の用をきりや、○檣ハ、凡て帆を揚ぐる為よ、設けらるあり、○汝ハ、海を渡るに、小船よ乗することを好む、○風吹きて浪の立つ時ハ、我ハ、船よ乗りて、海を渡ることを好まば、其覆らんとを畏る



るゆゑあり、○これハ、蒸氣船ありや、○否、蒸氣船みあらば、帆前船あり、○爰ハ、暴風の日、海上に浮びたる船あり、播を折き、帆を破きて、甚危き状あり、○此船ハ、帆前船あるべし、も、蒸氣船あり、斯る難み、懼ること少からん、○これハ、軍艦ありや、○否、商船あり、船の腹に、炮門あり、○此小兒ハ、幼年あるゆゑ、水の深き処に入り、と能をば、○此小兒ハ、何をあさんとするや、○これハ、蓮の小き葉と、大なる葉とを、採らんとするあり、○も、岸より、遠く離れて、行くときハ、水も、漸深くあるゆゑ、み歸ること、能はざるべし、○一人の男ハ、帽を被りて、左の手み、杖を持てり、○此人ハ、此



家の主人よて、今他所へ、出で、行かんとする状あり、○帽を手よ、持ちさる人ハ、上著を、著せりて、肘を、慰へせり、これハ、この家の、僕として、事を、やせよ、便あるがゆゑあり、○僕ハ、今主人の、出で、行きて、後にも、終日、空しく、暮れ、ことを、欲せば、して、其為、を、べ

き事を、問ふところあり、○人ありて、草を、積み上げたり、此草の、乾きたるを、枯草と云ふ、○枯草ハ、車よ、載せて、これを馬よ、引かせ、直よ、小屋よ、運び入る、○草





ハ、枯て乾くを待ち、速よ小屋よ運び入るべし、もろ雨よ遇ふ時ハ、再濡るものあり、○此枯草ハ、牛馬の食とふべし、○馬ハ、枯草と麥ときを食せれども、其最好むものハ、麥あり、○人よ耳目口鼻あり、○鼻ハ、香を嗅ぎ、耳ハ、聲を聞き、口ハ、食を味ひ、又思ふことを言ひ、目ハ、物を見るものあり、○鼻と口とハ、只一つよして、目と耳とハ、二つあり、○耳と目と二つありて、口ハ、一つあり、見聞く如く、言語を多くせべゆらば、○又人よ二つの手と二



つの豆とあれども、口ハ、只一つゆゑ、話をハ少くして、業をハ多くせべし

第五鶴ハ、大なる鳥よして、雛の間ハ、其羽毛茶色あれども、生長

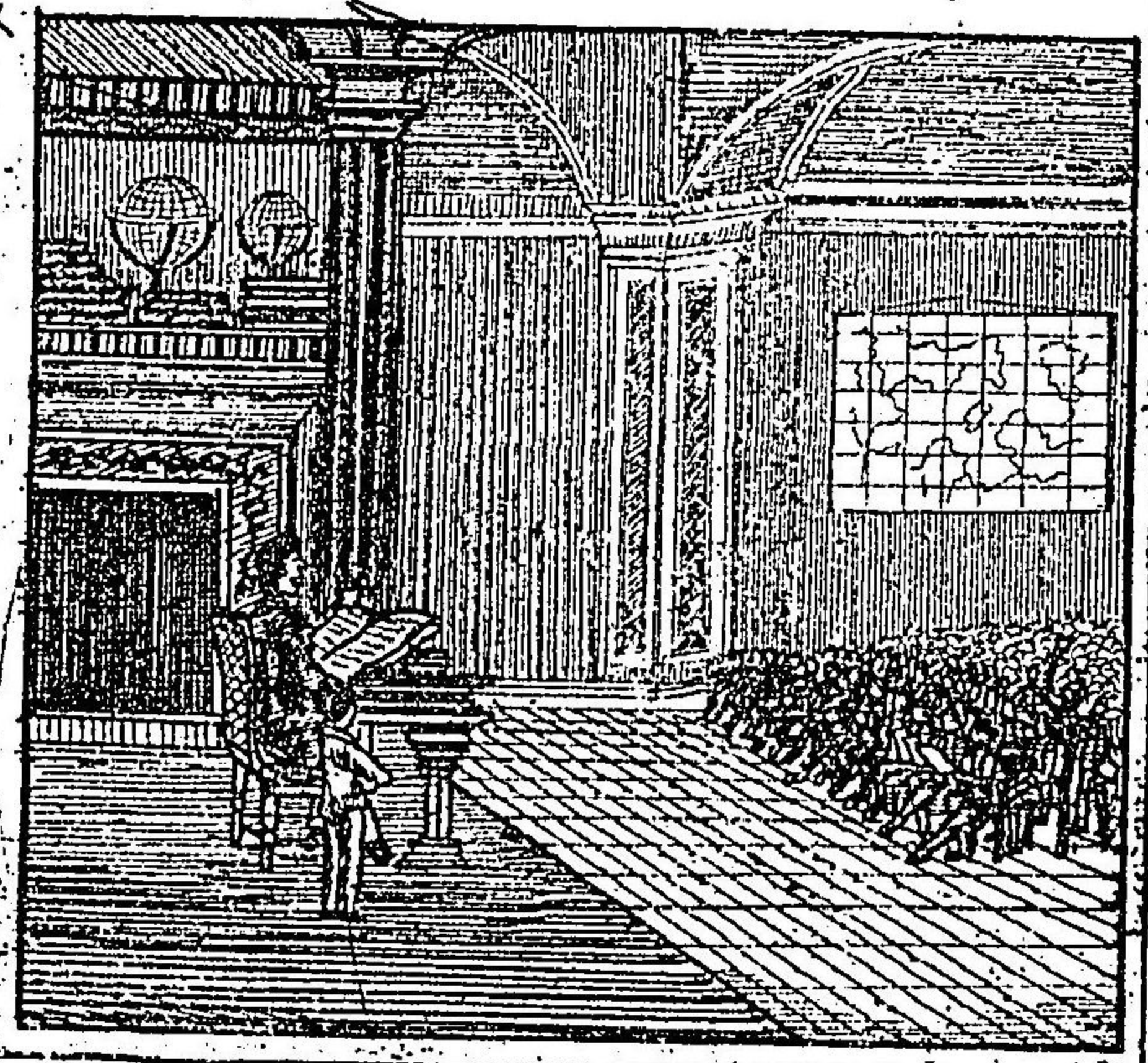
して、後ハ雪の如く白くあるあり、○此鳥ハ、長き頸よて、長き脛



あり、○此鳥の卵ハ、大よして、白きものあり、○此類の鳥を、浅水鳥といへり、浅水を涉りて、魚を食とみせども、水上よ浮ぶこと多く、夜ハ、樹上よ眠るゆゑあり、○學校ハ、教師入り来

たり、數多の男兒と、小女子とあり、○此小兒等ハ、皆書を讀

み、字を習へり。○校中カウチウは、石盤と、紙と、書籍とあり。○汝ハ、學校ガクニ、行くことを、好む。○汝ハ、書シヤを讀み、又語ゴを綴ツヅることも、能くす。○吾ハ、書シヤを讀むことも、好めども、未能く讀むことを得じ。○今日ハ、寒き日あり。○雪ハ、一様イチヤウニ、地上チノウニ、積ツキもせり。○小兒ハ、氷コウの上を滑スへることを好む。○此遊ハ、甚危きものゆゑ、能く心を用ゐずバ、あるべからじ。○も、顛テンび倒るることあり。○身ミを傷ケふへト。○賢ケンき小兒ハ、か



る。危き遊を、好むこと多く、只遊歩場ソウバウニ、遊アソぶのみ。○此兒ハ、手を伸べて、卵タマゴを取らんとす。○巢ネストの中ナカニ、ハ、數多の卵あり。○これハ、鶏トリの卵あり。○鶏ハ、巢の傍ナカニ、在りて、飛トビひ去らば、これハ、卵タマゴを取らるることを、憂ウレふるゆゑあり。

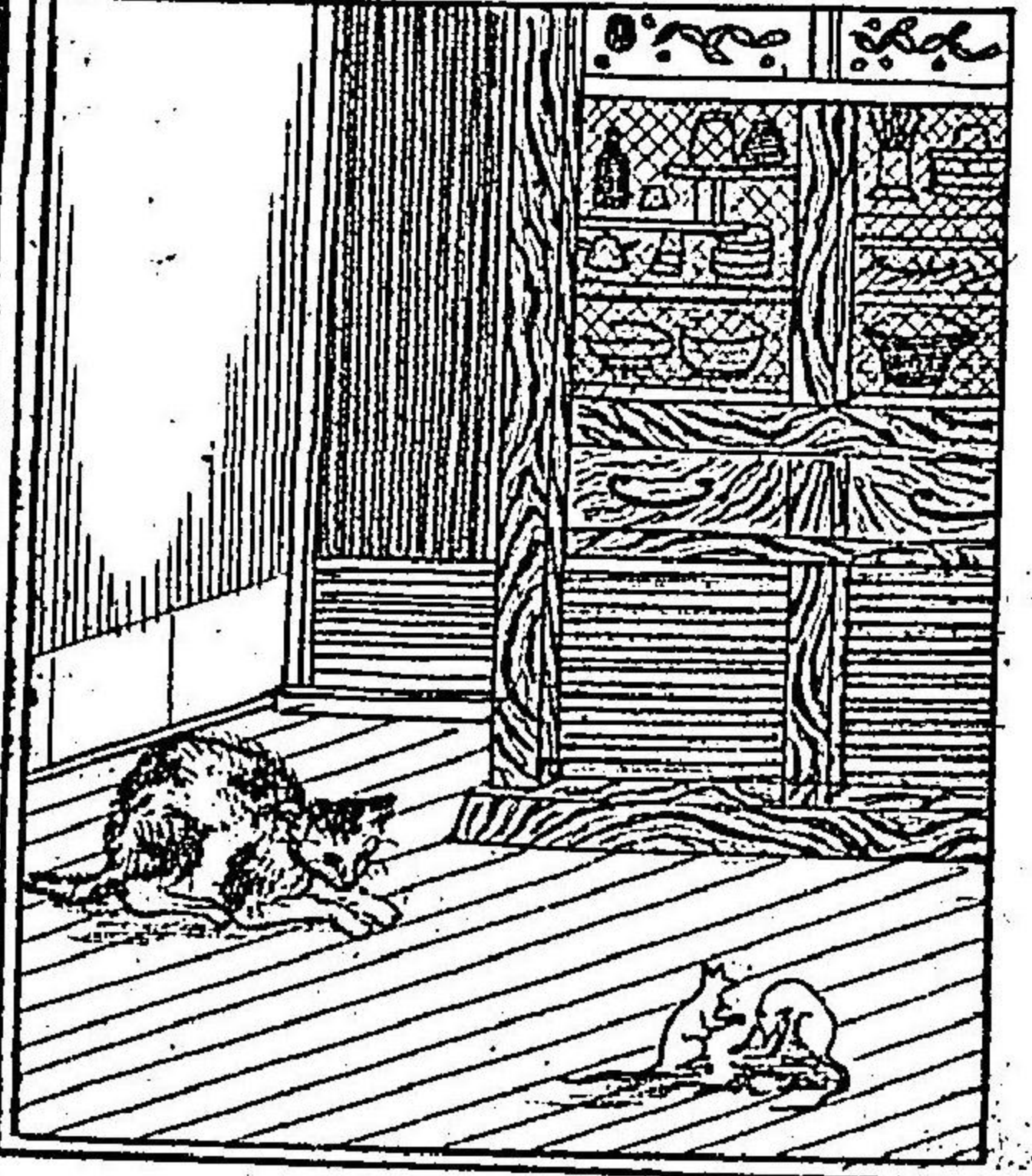
○鶏の卵タマゴは小あるものと、大あるものとあり。其種類シユルシの異ヘちるゆゑあり。○瞿麥タデトウと、桔梗キキヤウとの花あり。○小兒ハ、桔梗の花ハナを採トり、娘ハ、瞿麥の花ハナを手テニ、持モてり。○瞿麥の





花ハ多く紅色あり、○桔梗の花ハ紺色あり、瞿麥ハ多種ありとも概夏、花を開くあり、○數多の鼠あり、鼠ハ日中、出つることあり、○夜半、至りて各出で、遊べり、○此出で、遊

ぶときハ梁を歩き、棚に登り、厨に入りて、食類を竊み食ひ、○然きども猫の聲を聞くとときハ驚きて、一時、静まり、忽穴の中へ逃げ入るあり、○故に猫は猫の居る處ハ出で、あそぶことあり、



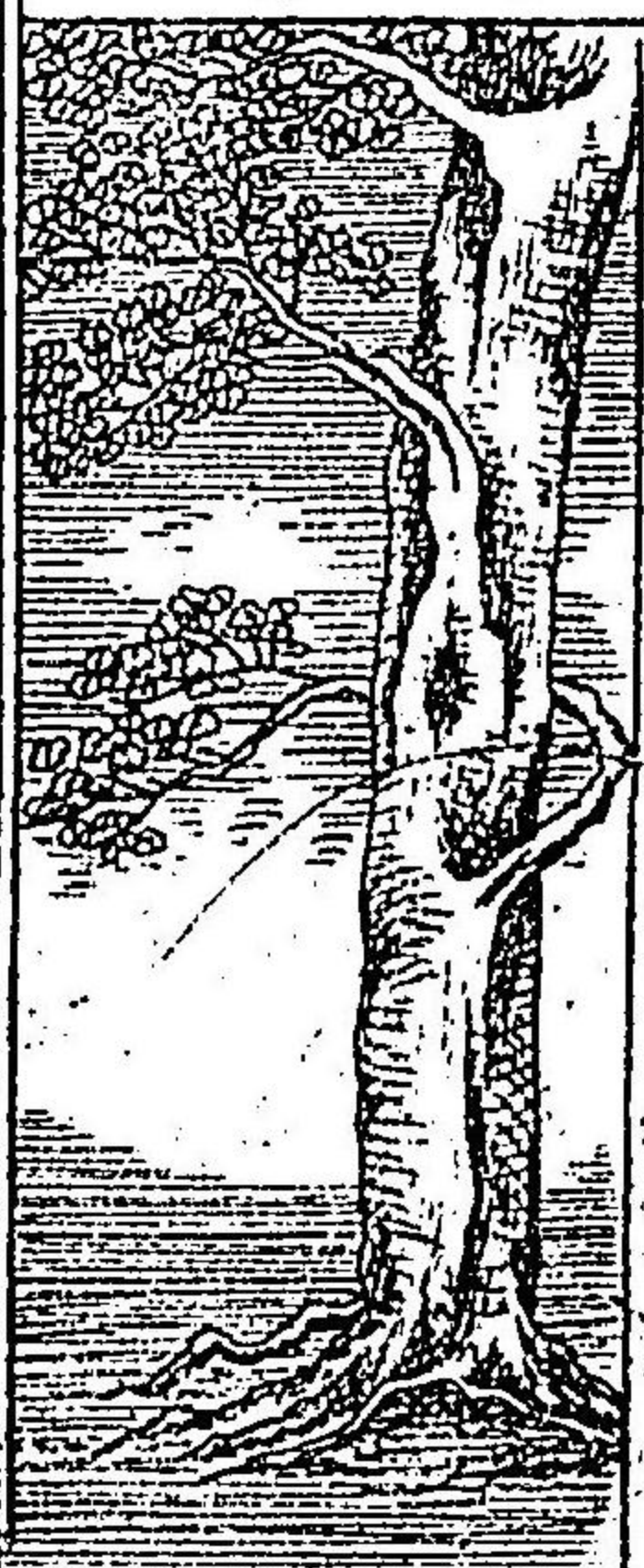
り来る、雛の云ふ、今日ハ、農夫父子来りて、ぬく麥の熟せるうへハ、最早他人の力を待つは暇あらば明日ハ、自川り取るべくとて、歸せりと云へり、○親鳥ハ、これを聞きて、然らば我等も疾く此處を立ち去るべし、農夫ガ、自川り取らんと決りたるうへハ、必日を延むべくといへりとぞ、○親鳥の言實、理あり、他人は依りて、事を成さんとする者ハ、恐るゝは是らされども、自為さんと決する時ハ、須臾も猶豫せざるへけきあり、されば人々、皆自為さんことを志して、他人の力をば、頼むべからば、
第五、今花園、善き種子を蒔きて、善き植物を生ぜしめ、美しき花を開のしめんとする、園中、蔓せる雑草を抜き

ハ、野讀本

取らざるときは、蒔たる種子を害して、成長すること、能わざらむ。○今、此處は、花園の、雑草を、抜き去る、圖を、出して、以て、これを示さん。○地は、もとよきものありども、善き種子を蒔めざれば、よき植物を生じ、美しき花を、開くこと、能はず。又、芽既に萌出たるときは、能く培用せざれば、生長ゆるること、能はず。雑草は、こぼれ及んで、種子を蒔けざるときも、自生長し、これを抜き去らざれば、大に蔓りて、善き植物を害し、ついに、こぼれを、枯らし、盡せしに至るべし。○人の心は、もと、善きものありども、



たる、老人あり、且も不自由にて、目も朦朧し、ふれり、然きども、此老人も、初めは、小兒にて、今の汝等の如く、疾く走り、まじり、遊び、戯れしあり。○今ハ、且も、顛ころし、ゆゑ、小兒の、肩に、倚りて、立てり。○見よ、此老人ハ、これを、一年に、譬ふまば、冬の時侯の、至るちり。○汝等も、冬の時侯に、至らざる前、學問を、勤めて、世間の利益を、考へ、出で、春の、萬物を、生長するが如く、せざらば、いほるべからむ。○爰に、梶の大木あり。○汝ハ、此木の、年を経る、數を、知るる、○此木



の年を経たる、數を知らんことを欲せし、横し、切りて、木理の輪を數へ見るべし。○木理の輪ハ、年毎、一つの外ハ、生ぜざるものなれハ、輪の數にて、其経たる年の數を知らるるなり。○木理の輪ハ、大概木の心より、増すものなれども、布ハ外面より、増すものなり。○汝等、毎朝早く起きて、神を拜し、先今朝まで、無難に過ぎたるも、神の賜あり、かく夜明くる毎、日光を、給ふより、て、父母の恙なき、顔を見ることを得るも、皆其恩ありと、謝をべし。○さて、其後、吾を導きて、幸を興へ、必過無くらまめんことを祈るべし。



第六此人等ハ、小舟を乗り、網を以て、魚を捕り、海濱に歸まるなり。○網を海上より引きて、魚を捕ふるときハ、鱗あるも、鱗なきも、大あるも、小あるも、同しく、其中より、入りざるものあり。○汝ハ、此處に居る、三人の男を見たり。○又彼等の捕へたる、數多の魚を見れば、○海中の魚ハ、其種類多くして、大あるものと、小あるものと、良きものと、良からぬものとあり。○一人の男ハ、小魚をとり、良からざる魚をバ、取りて、海中へ、投げ入きたり。○一人ハ、大ある魚を籠に入らし、所より、○入きたる魚の、此籠は満ちたる



魚を籠に入らし、所より、○入きたる魚の、此籠は満ちたる



ときハ、我が家よ、持ち歸るあり、○此地を、何如ある處と、思ふぞ、○花園あり、○此處は、數多の、美しき花あり、○左の手
 又、鋤ツルを持ち、右の手は、帽を持ちたる小兒
 あり、小兒の後、杖を持ちたる娘あり、○
 汝ハ、此園を、此小兒と、娘との為、設け
 る所ありと思ふ、○又この小兒等を喜
 びて遊ぶと、思ふ、○一人の娘ハ、瓜ウリを、入
 きたる籠カゴを持ち、○汝ハ、花園に遊ぶと
 き、漫ヒラに、花を折り、又果を取るべし、○
 爰ハ、果を、摘み入きたる籠あり、○この果
 ハ、葡萄と、梨子あり、○籠の外は、樹りたる



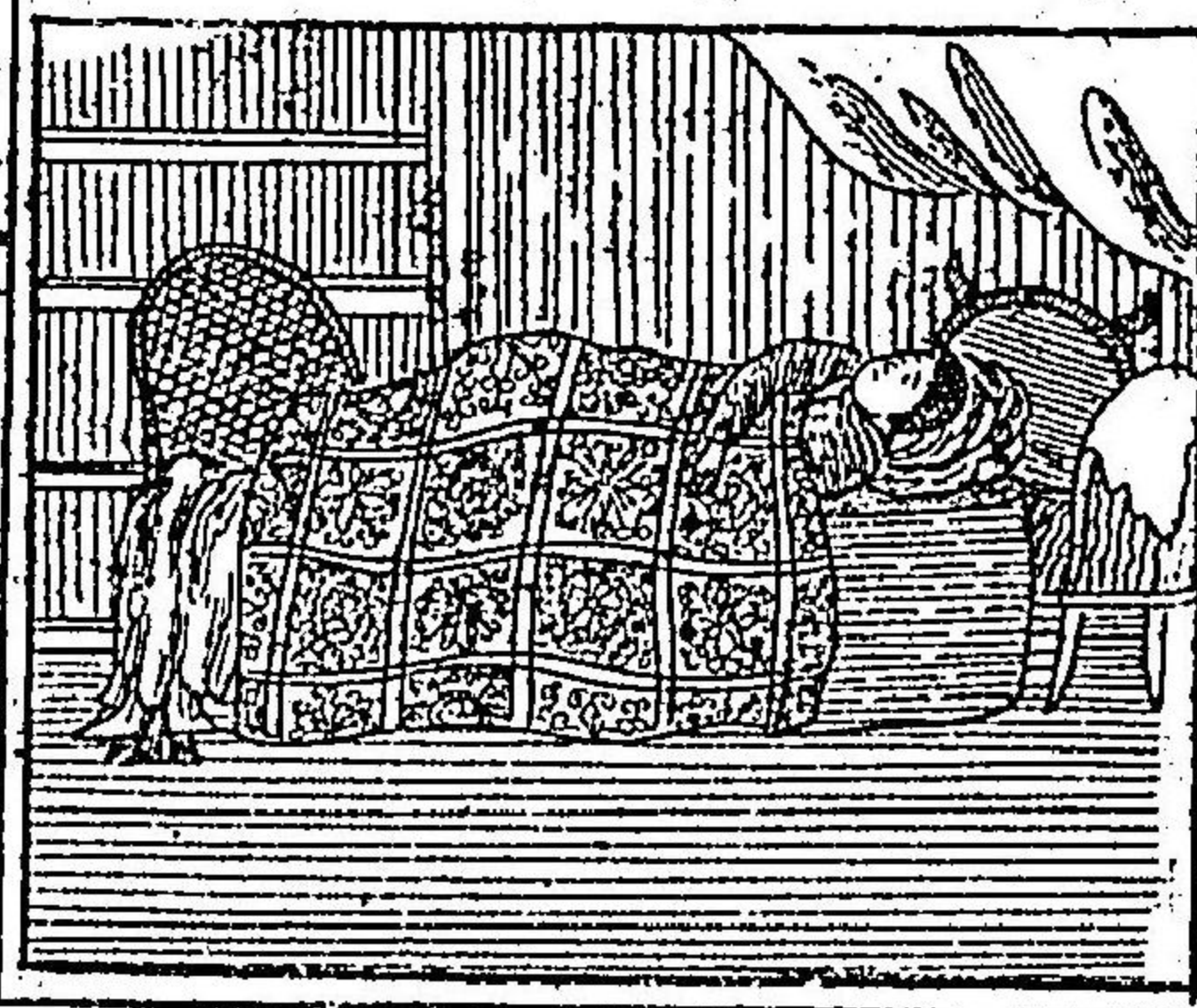
ハ、葡萄の蔓ツルあり、○其影ハ、籠の左に在り、然
 きハ、太陽ハ、何きの方よ、ありといふことを、知
 れりや、○太陽ハ、籠の右よ、あ
 るべし、○此畫ハ、日の出の景ケイ
 色あり、○今日ハ、暗きとる、天テン
 氣ゆへ、啼く鳥ハ、木より木よ、飛び遷る、
 ○草ハ、青々として、葉ハ、露ツユを、帯オビたり、○數
 多の、農夫ノウブハ、野に出で、或ハ、畠ハタを耕し、或
 ハ、草を、芟シきり、○農夫ハ、暗きとる日ハ、
 必、野に出で、働くものと、知るべし、
 暗天ハ、働うざれば、露雨ツユアメに、遇ふとき、耕す



ことを得ばして、穀菜を得ることあり。○
 今ハ、日中よりたり。○大陽の、照ちば處
 ハ、甚熱し、然きども、樹の蔭ハ、較涼しきゆ
 ゑ、臥しつゝる牛と、立ちつゝる牛あり。○又
 一匹の牛ハ、熱さを、消せんが為、河へ行
 て、水を飲まんとす。○河の上ハ、橋あり。○人
 ハ、日中よりありつゝるゆゑ、皆晝飯を、食する
 為、家より歸きり。○日暮よりありつゝり。○人
 ハ、野より、歸り来り、牛ハ庭よりあり。○一
 人の女ハ、庭より出で、牛の乳を、疊シホり桶ウケに、満ミつゝめ、これを、
 牛酪ギウラクと製セイせんとなす。○此時男子ハ晝間、焚ヒりつゝる草を、積ツみ、



入の知らざる所と、思ひて假カりも、悪
 事アクコトを、忍シび罰バチを、蒙カフふるあり



又テ、置ける、穀を、収ウケめんが為、極めて、
 忙イサし、今日も、務ツメを、果ツきつゝるときハ、明日
 の業サマ、妨サマげあるが故あり。○神ハ、常ツネに、我
 を守マモるゆゑ、吾ワレハ、獨ヒトリよ、暗ツラ夜ヨは、歩ツ行クき
 るをも、恐オソるゝことあり。○又、眠ネムりつゝる時
 にも、神の、守マモりあるゆ
 ゑ、暗ツき所も、恐オソるゝ
 ことあり。○神ハ、暗ツき
 所も、明アキラみ見ミるものゆ

○人の、知らざることをも、神も、能く知る
ゆゑよ、善きものよは、善きを與へ、悪きもの
よは、禍を與ふるあり

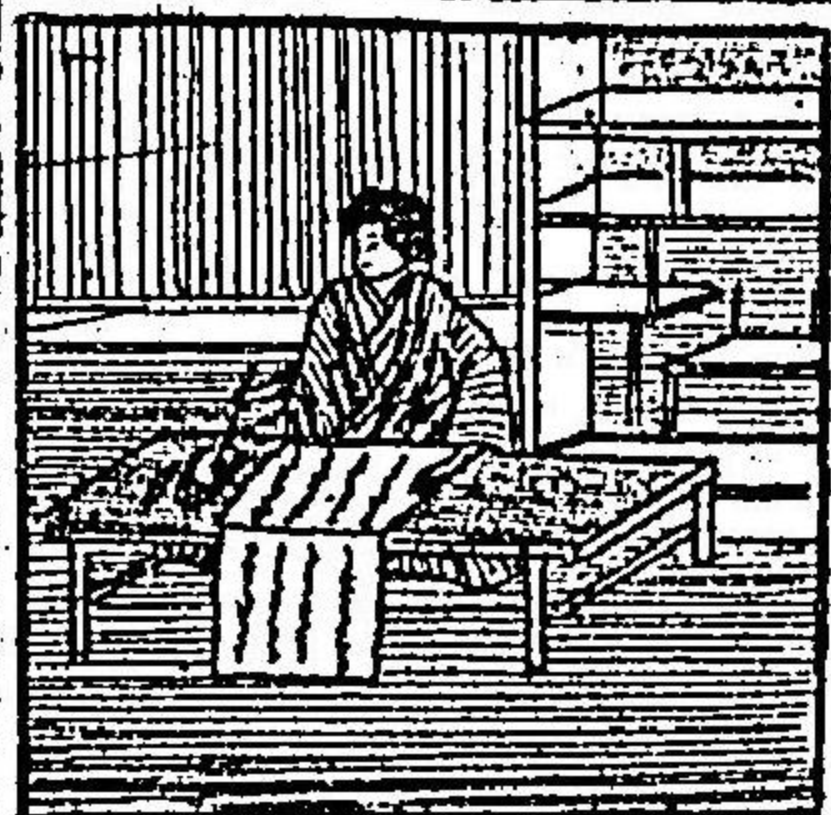
第七 汝は、物を數へ得るなり。○父も、汝は、
十一の、林檎を與へて、母も、また五の、林檎
を、與へるとき、幾箇の、林檎を得たり



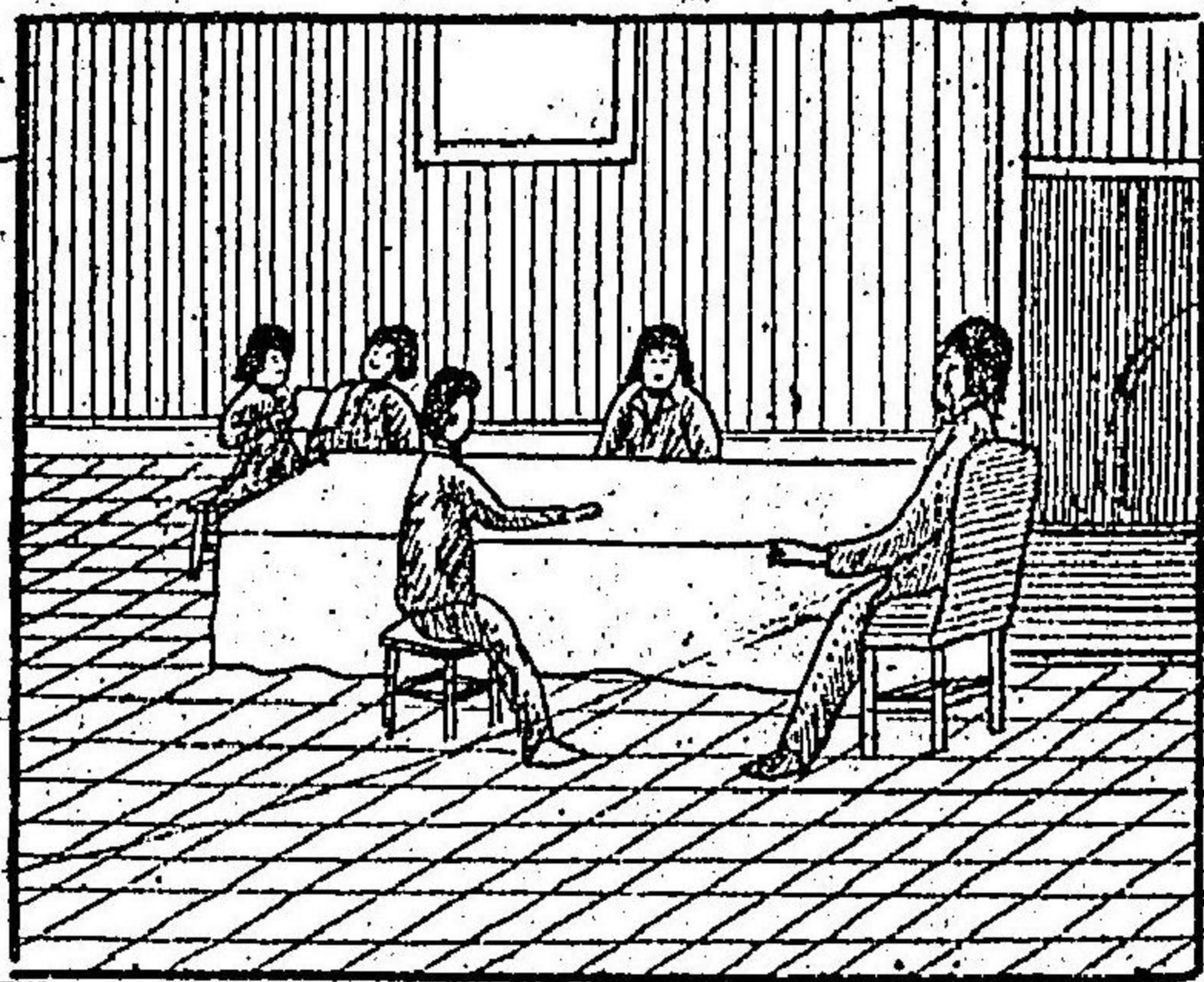
と、思ふなり。○十六の、林檎あり。○然り、汝等ハ、物を數ふるこ
とを、學ぶへし。○大なる數と、小き數とを、知るへし。○汝ハ、
石盤又ハ、紙ハ、數字を、書得るなり。○も、數字を、書き得るハ、
格めて、これを、書くことを、學ぶへし。○物の數を、知りざる
し、愚人あり。 ○盆の上、十一の、梨あり、この中、母ハ、三



人よ、贈ること能む。○このゆゑよ、
汝等ハ、文字を、書くことを、學ぶべし、



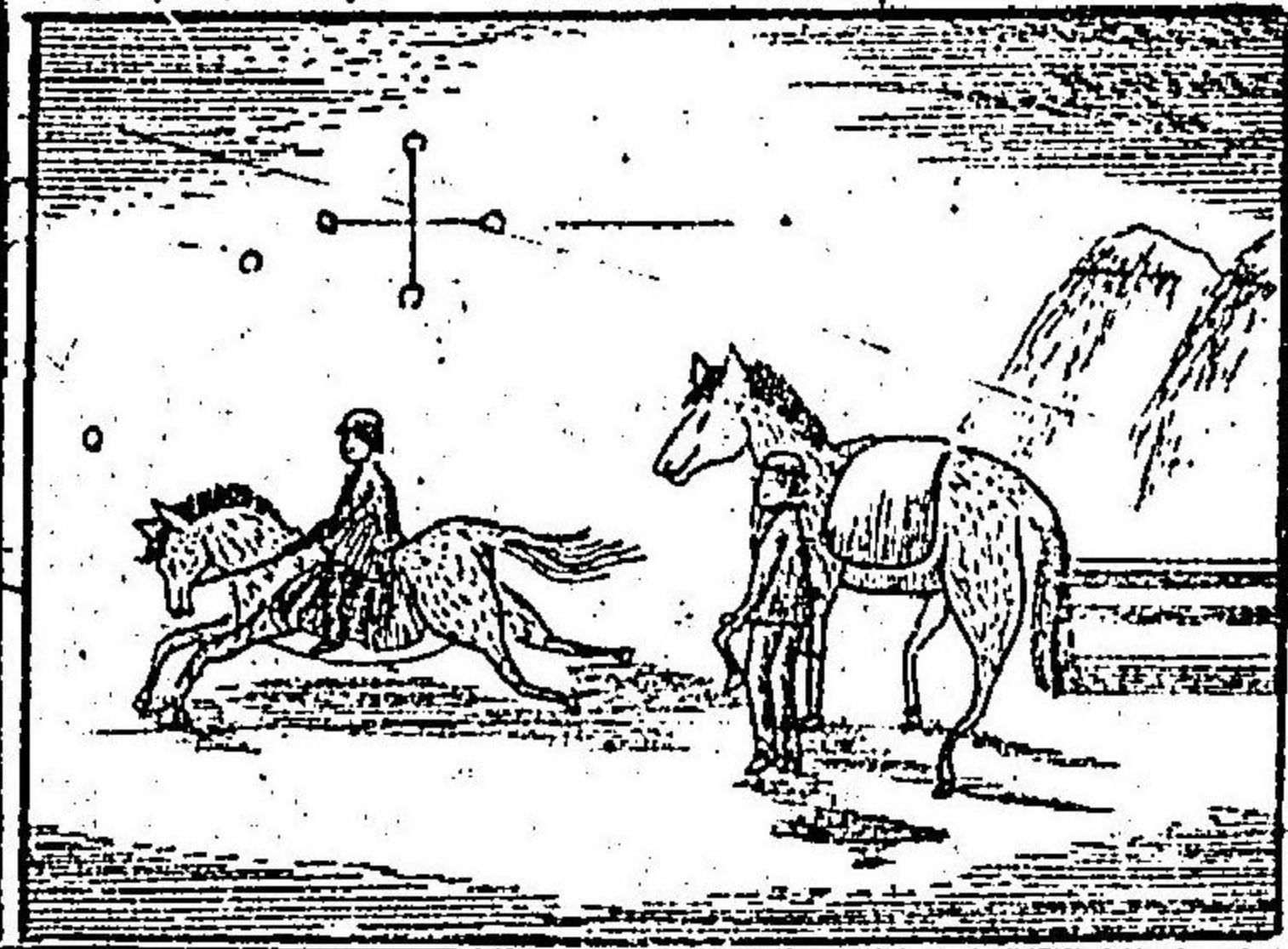
○汝等ハ、文字を、讀み
得るなり。○文字を、讀む
ことを、知らざれば、人より、贈りたる、書状を
も、讀むこと能はば、○又書籍を、讀み得ざる



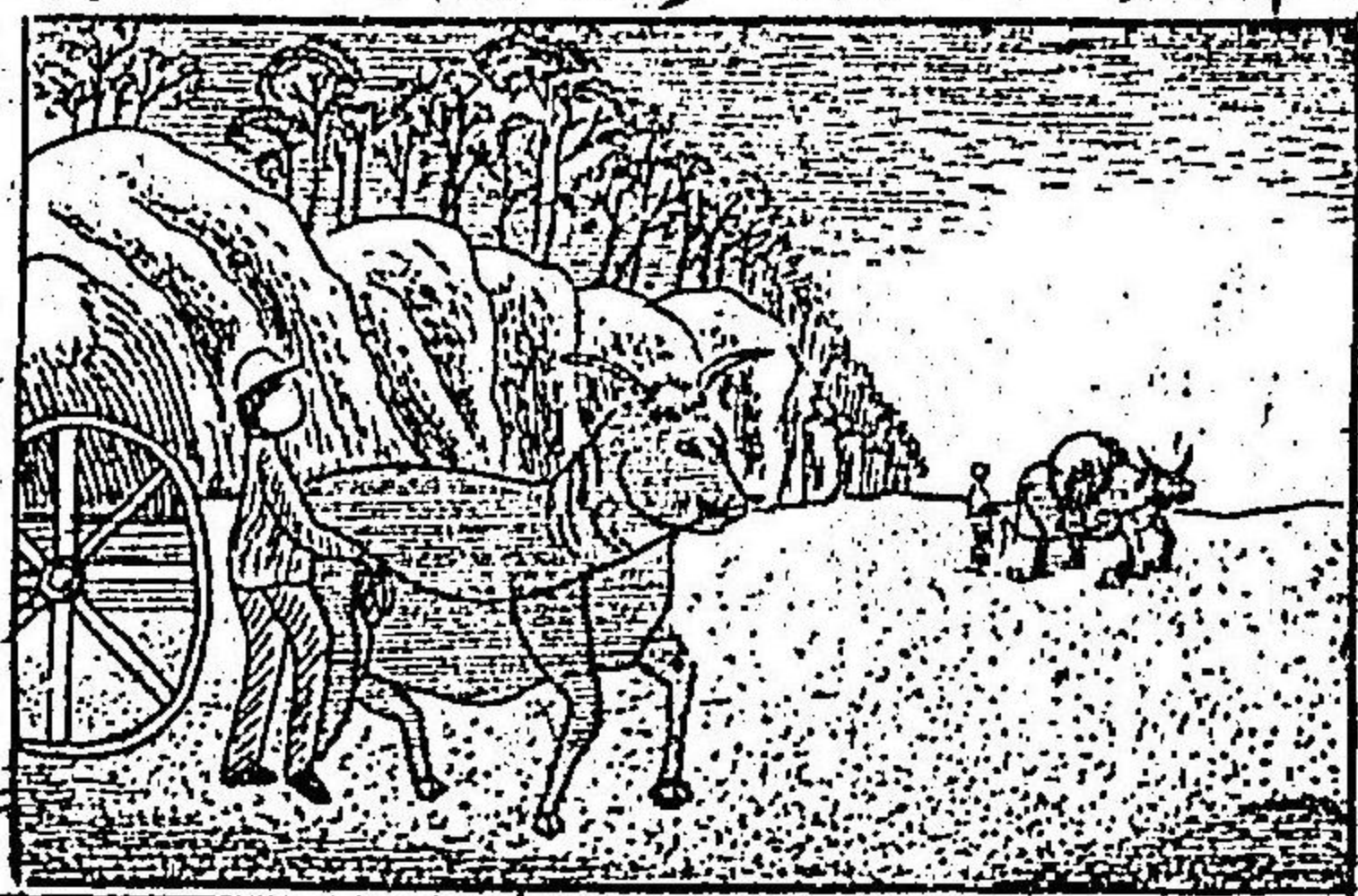
持ち去りたり、然らば、残りたる、梨子ハ、幾箇
と、あきりや。○残りたるハ、八箇あり。○汝等
ハ、文字を、書き得る
なり。○文字を、書き得
ざるるときハ、書状を、

川學講義 卷一

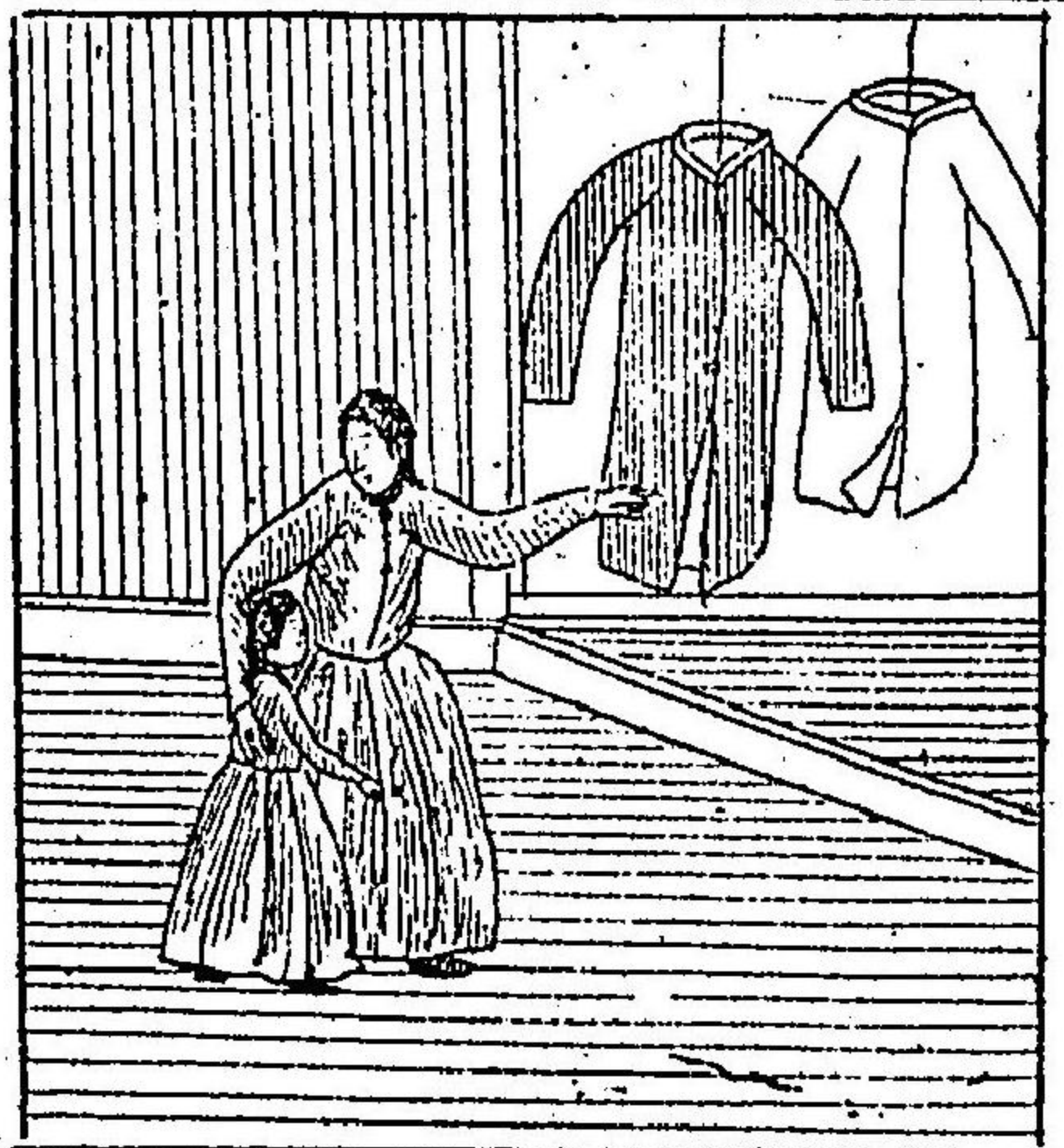
ときい、事を知ること能くば、○事を知らざる人の、縦才ありと雖用は、適せざるあり○ゆゑ、文字を讀むことを知らざる者を、同じく、愚人といふあり○さし、汝等、務めて、文字を讀むことを學ぶべし○馬は、實用は適すべき畜類あり、陸地は於て、荷物を運ぶに、馬は、不便あり○馬は、畜類の大なるものにて、顔長く、鬣あり○背の上は、荷を負ひて、速き、輸るも、あり、人を載せて、速く走るとあり、又車を引くも、あり○牛も、馬と同じく、實用は便ある、畜類にして、能く車を引き、又、荷を負



ひて、遠く、輸るものあり○それども、牛、人を乗せて、走ること能はず○牛の肉は、食物とありて、能く滋養をなす、又、牛より、乳汁を、齎り取ることを得るなり○汝の着る衣、服は、何といふ、織物ありや○上衣は、糸織にして、羽織は、黒羅紗あり○汝は、緞と、木綿と、羅紗の中は、何き、尤、暖なるものと思ふや○羅紗は、毛織なれば、第一は、暖なり



ひて、遠く、輸るものあり○それども、牛、人を乗せて、走ること能はず○牛の肉は、食物とありて、能く滋養をなす、又、牛より、乳汁を、齎り取ることを得るなり○汝の着る衣、服は、何といふ、織物ありや○上衣は、糸織にして、羽織は、黒羅紗あり○汝は、緞と、木綿と、羅紗の中は、何き、尤、暖なるものと思ふや○羅紗は、毛織なれば、第一は、暖なり

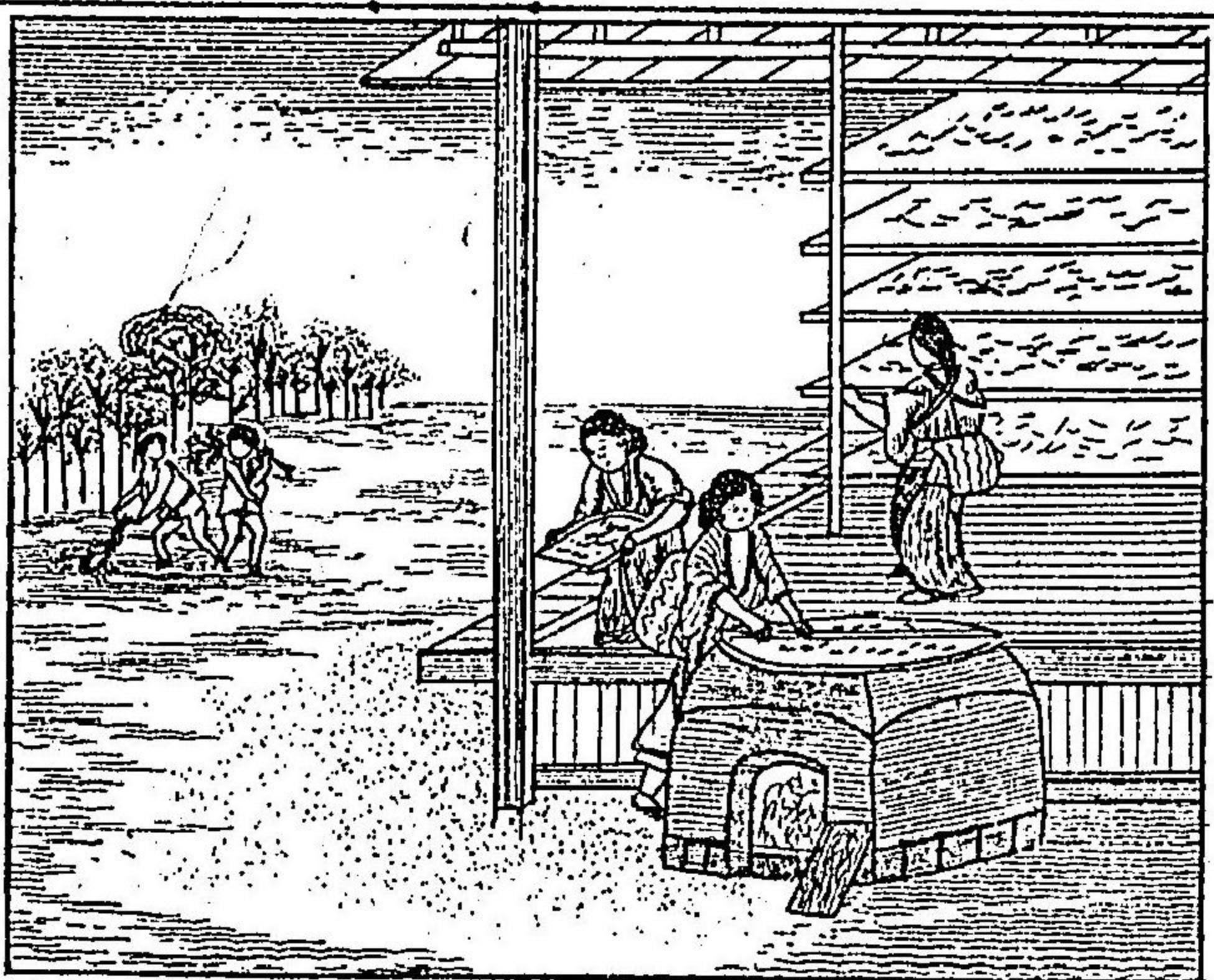


り、其次を木綿とい、絹も又其次ふ
 り、○爰よ、白き單衣と、紺色の單衣
 あり、○汝へ、何を暖なりと思ふ
 や、○白き色へ、太陽の熱を引くこと、
 少きゆゑよ、夏の涼しと雖、冬へ寒
 し、○紺色へ、太陽の熱通ひ易きゆ
 ゑよ、冬へ暖なりと雖、夏へ暑し、○人々、暑
 多く、白衣を着、
 冬ハ多く、紺色の衣裳を着るへ、この理よ
 よりてあり、○爰
 よ、二枚の圖あり、皆人の働く狀を畫けり、○初
 の圖へ、田よ
 下どりて、秧を植るところあり、○この人へ、
 腰も、脛も、露を
 せり、これ働くよ、便なるがゆゑあり、○次
 の圖ハ、稻を刈り



て、我家よ、持ち歸る所なり、○又稻を
 持きて、米を取る所を見るべし、○此
 人々の衣へ、汗よ濡ひて、乾くときふ
 し、○農夫と此の如く、働らざれば、穀
 物を得ること
 あり、○汝等、穀
 物を食する毎
 よ、農夫の苦勞を想ひ、粒々皆辛苦よ
 り出でたるを、知りて、其業を怠るべ
 らば、○これハ、蠶を養ひ、絲を繅る所
 あり、○數多の女、皆朝早く起き、夜中





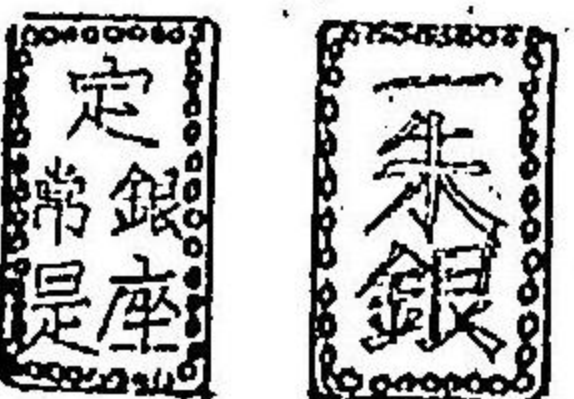
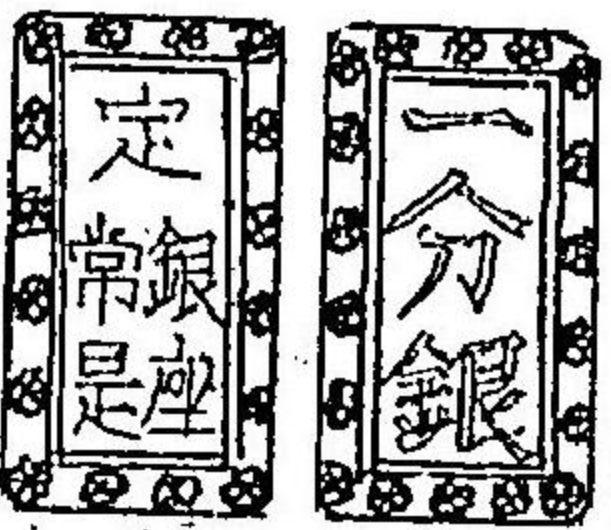
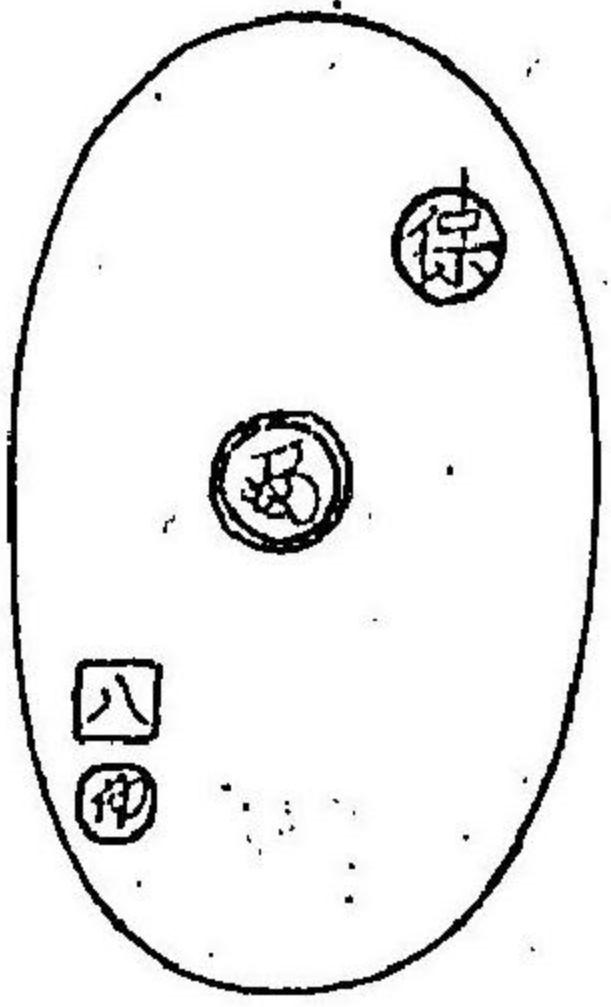
ときよハ、心蠶を養ひ絲を取る人々の苦勞を忘るべからば、

までも、眠らばして、髪も結さず
 日々息ふ間ふく、働けり。○又二
 人の男あり、桑を採る所あり。○
 此男ハ、野に出で、耕す人と同
 しく、肘も脛も露まじ、力を盡し
 て、働けり。○此の如く、數多の男
 女の、苦勞して、製するよ、非され
 ば、糸も生ぜず、絹も得ること能
 まば、○汝等、暖ある、衣を著る

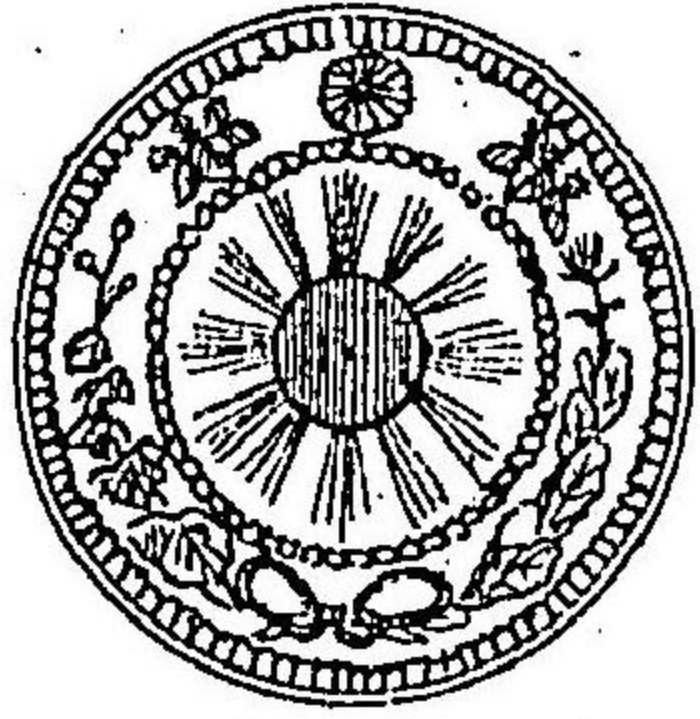
爰は種々の貨幣あり



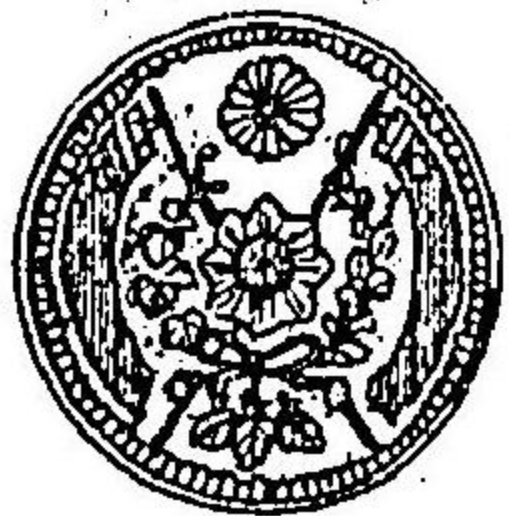
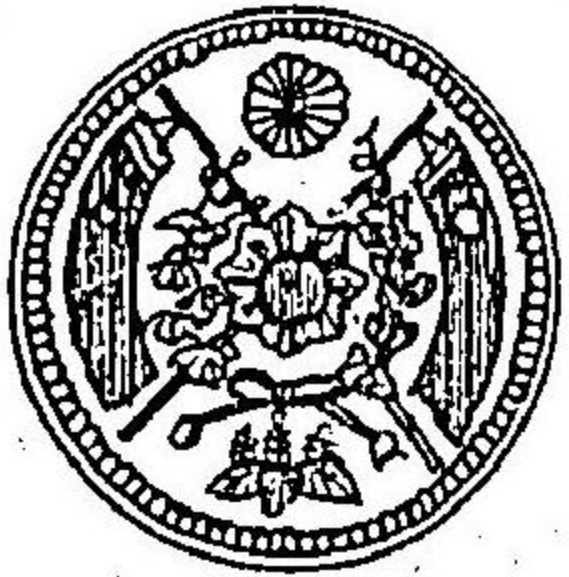
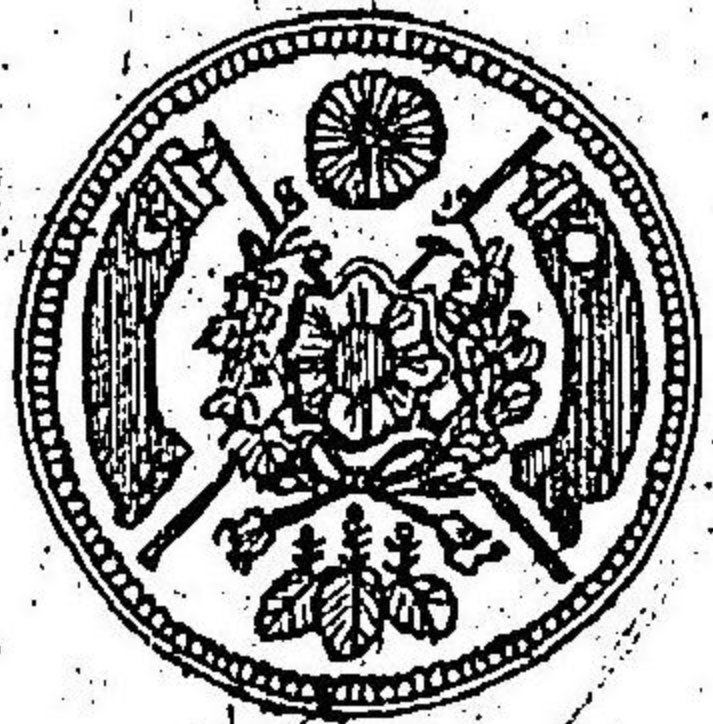
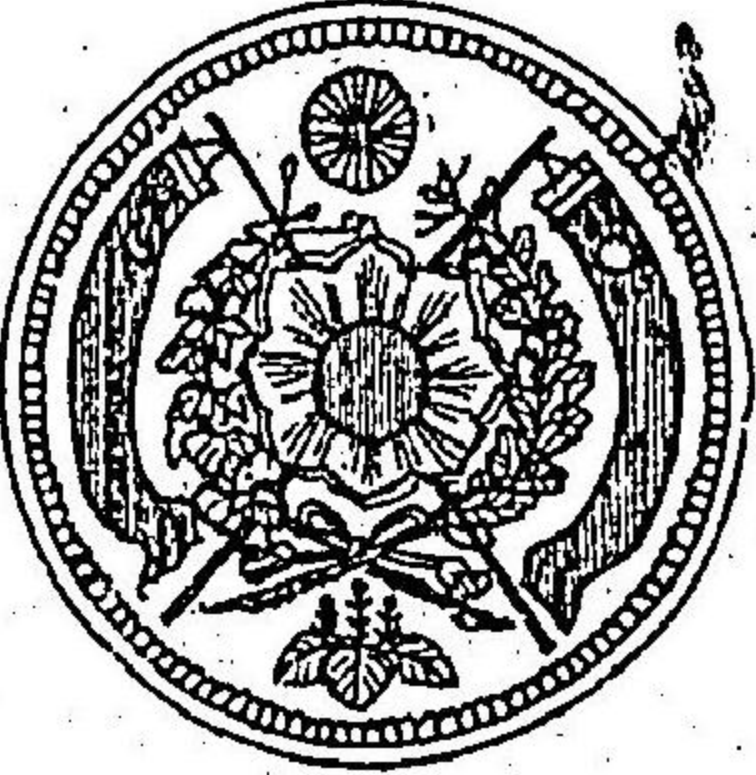
右四品の貨幣を錢といふ、幕府政を執るときより、今日
 までも通用するものはあり



此五品の貨幣を金と云ふ幕府政を執る時通用せしものなり



右五の貨幣を銀貨幣と云ふ



右五品の貨幣を金化貨幣と云ふ



右三品を銅貨幣と云ふ、
 此三種の貨幣ハ朝廷の發行よて當今の通用あり、
 ○小銅錢一箇を一厘といひ、十厘を一錢といひ、百錢を一圓と云ふ、故に十二錢半ハ金貳朱、當より二十五錢ハ一分、當より五十錢ハ二分、當よりあり

小學讀本第一終

稿本 二男英流画刻
 門中英富松書刻

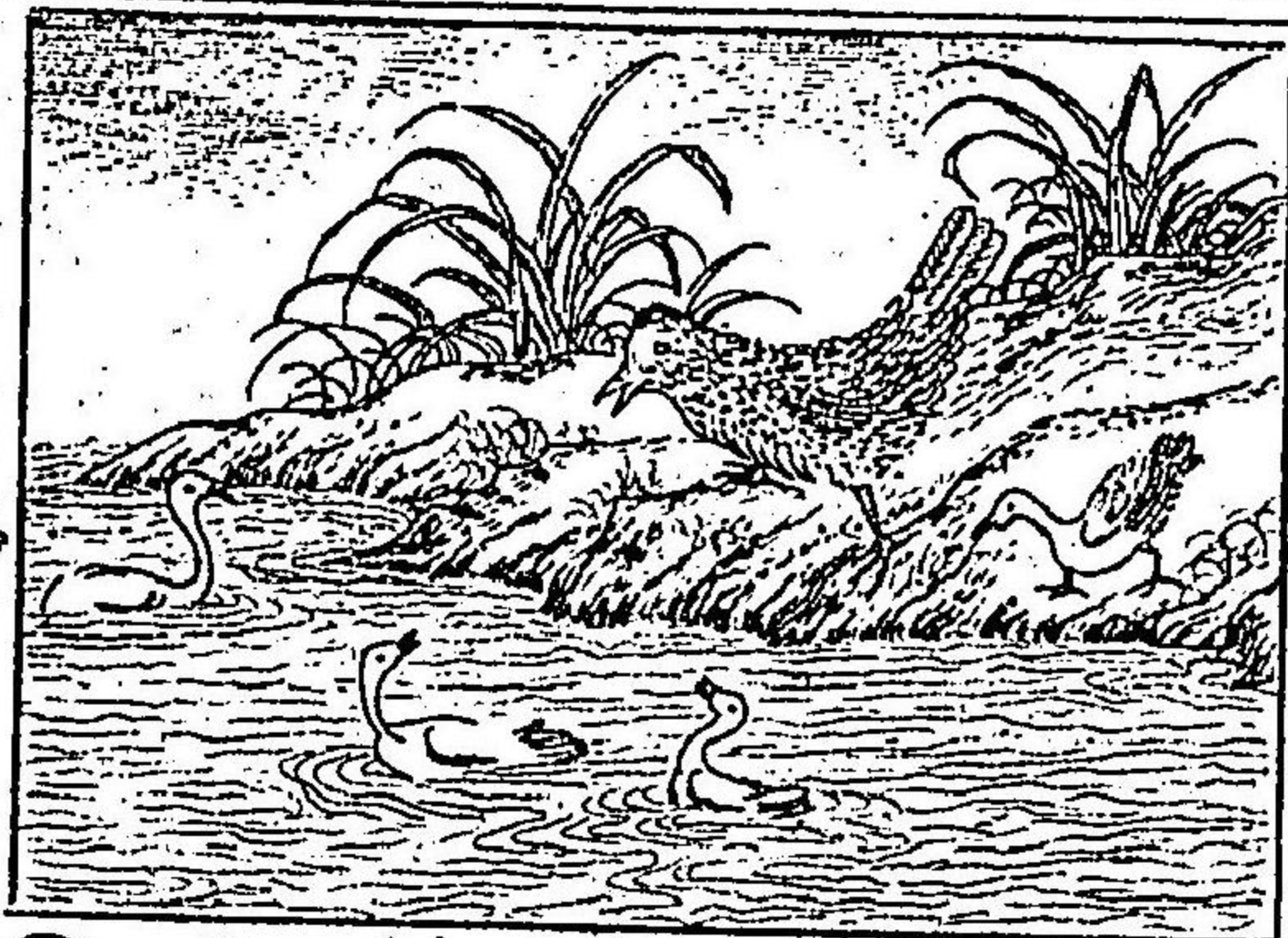
小學讀本第二

田中義廉 編輯
 那珂通高 訂正

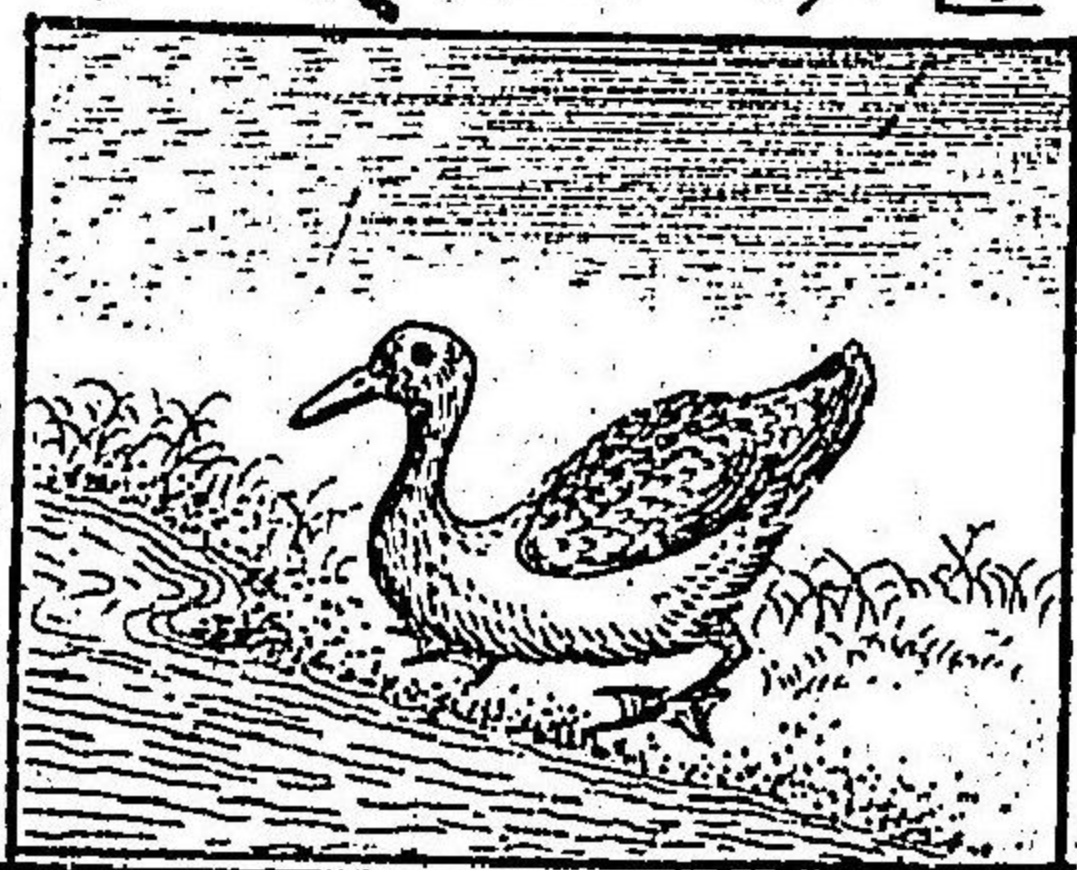
第一 此女兒ハ人形を持てり○汝も人形を好むら○我も甚これ好めり○此男兒も人形を持てり○否、男兒ハ人形を持てり○鞭を持てり、男兒の遊ハ、女兒と異ふ、まはなり
 ○老るる牝雞、鶩の子を多く伴へり○此鶩の子ハ皆水中に飛入り○此鳥ハ其性水上に泳ぐことを好めり○



中、飛入り○此鳥ハ其性水上に泳ぐことを好めり○



牝雞ハ其沈^{シツ}之^{オホ}溺^{ノボ}んことを恐^{オソ}きて甚^シ憂^{ウレ}ひ悲^{カミ}めり○然^シきとも鶩^ウの子ハ牝雞^{メニ}の心を量^{ハカ}り知らば^シて隨意^{ズイ}ニ游^{アソ}べり○牝雞^{メニ}ハ何^ニを憂^{ウレ}ひ悲^{カミ}むと思^{オモ}ふや○牝雞^{メニ}ハ此^{コノ}鶩^ウの游^{ユク}水^{ミヅ}鳥^{トリ}あるを知らば^シて我^{ワガ}子^コと思^{オモ}ひ悲^{カミ}めるあり○爰^{コゝ}ニ成長^{チカヒ}したる鶩^ウあり○鶩^ウの嘴^{クビ}ハ牝雞^{メニ}の嘴^{クビ}より大^{オホ}きして其^{ソノ}足^{アシ}は蹠^{ホリ}あり故^ユニ水^{ミヅ}ニ入りて能^ユく泳^ユぐことを得^ユるあり」○此^{コノ}ハ何^ニ家^カあるを知^チたり

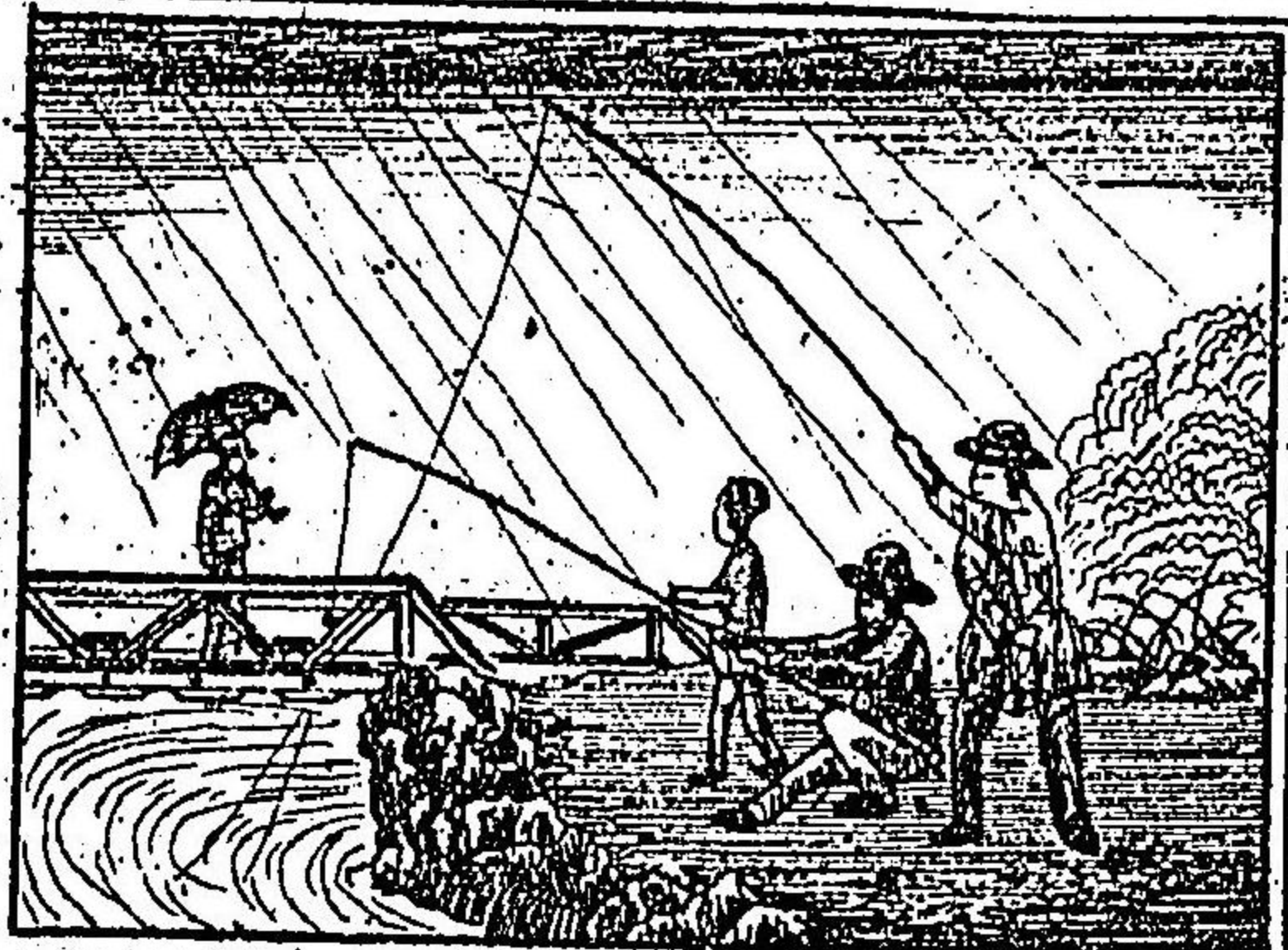


○これハ學校^{ガク}あるべし、數^{カク}多^{カク}の男^{オトコ}女^{メユメ}の子^コ此^{コノ}家^カニ通^{カス}ふを



以^ユて知^チらむたり○汝^ニハ小^コ兒^ガの遊^{アソ}歩^ブ場^バニ出^デて、遊^{アソ}ぶを見^ミたりや○數^{カク}多^{カク}の小^コ兒^ガ出^デて、走^{ハシ}るも何^ニり、球^{マダマ}を弄^ウふも何^ニり、或^シハ紙^{カミ}鳶^{トウ}を揚^{タテ}げ、或^シハ輪^ワを廻^マわして、遊^{アソ}べり○男^{オトコ}兒^ガも、女^{メユメ}兒^ガも、學校^{ガク}にてハ、能^ユく勉^ツ強^クをべ

し○能^ユく勉^ツ強^クしたる、後^{ノチ}ニ非^ヒとバ、遊^{アソ}歩^ブをゆるさるとも、誠^{マコト}ニ樂^{タノシ}きことハ、あきものをり○今^{イマ}此^{コノ}子^コの、釣^{ツリ}りたる魚^{イサ}ハ鯉^{コイ}あり、○汝^ニも、魚^{イサ}を釣^{ツリ}り得^ユたるときハ、能^ユく心^{ココロ}を用^ユねよ、釣^{ツリ}糸^{イト}を切^キらるることあるべし○天^{アマ}曇^{クモ}りて、雨^{アメ}少^{オウ}しく、降^フり来^キる



り○魚を釣るは、雨天のときを宜くとするら○然り少く雨降りて、風なく、暖ある目を宜くとは○汝ハ魚を釣るを以て、宜なき事と思ふ○然り魚を釣りて、食するハ、愚き事よ、ゆうに雖、釣りたる魚を弄びて、徒に捨つる

ハ宜くうらげ

○男兒と、女兒と

あり○これハ學校へ行く、途程あり

○今急ぎて、學校へ行くと、思ふがゆゑ、男兒ハ、女兒を助けて走り



○此兒等ハ、學校へ行くを、樂と思へり○然り、此兒等ハ、

其性善きものあきハ、學校へ行きて、

學問すること、第一の樂と思ふ

り ○此馬ハ、柔細なる馬ゆゑ、

二人の小兒を、乗せて歩めり○此馬

を走らと思ふ○此馬の、前の一足

を舉げ、おまの、一足を、下さんとす

るを見せ、走らば、走らば、餘は歩むあり○前の小兒ハ、

手綱を、両手は、持ちたきとも、其見ゆるハ、只右の手のみあ

り○後の小兒ハ、馬より、落つることを、恐ろしく、ゆるる前、

小兒を抱きて、をまり

○此處ハ、工人の作事場あり

馬を乗る

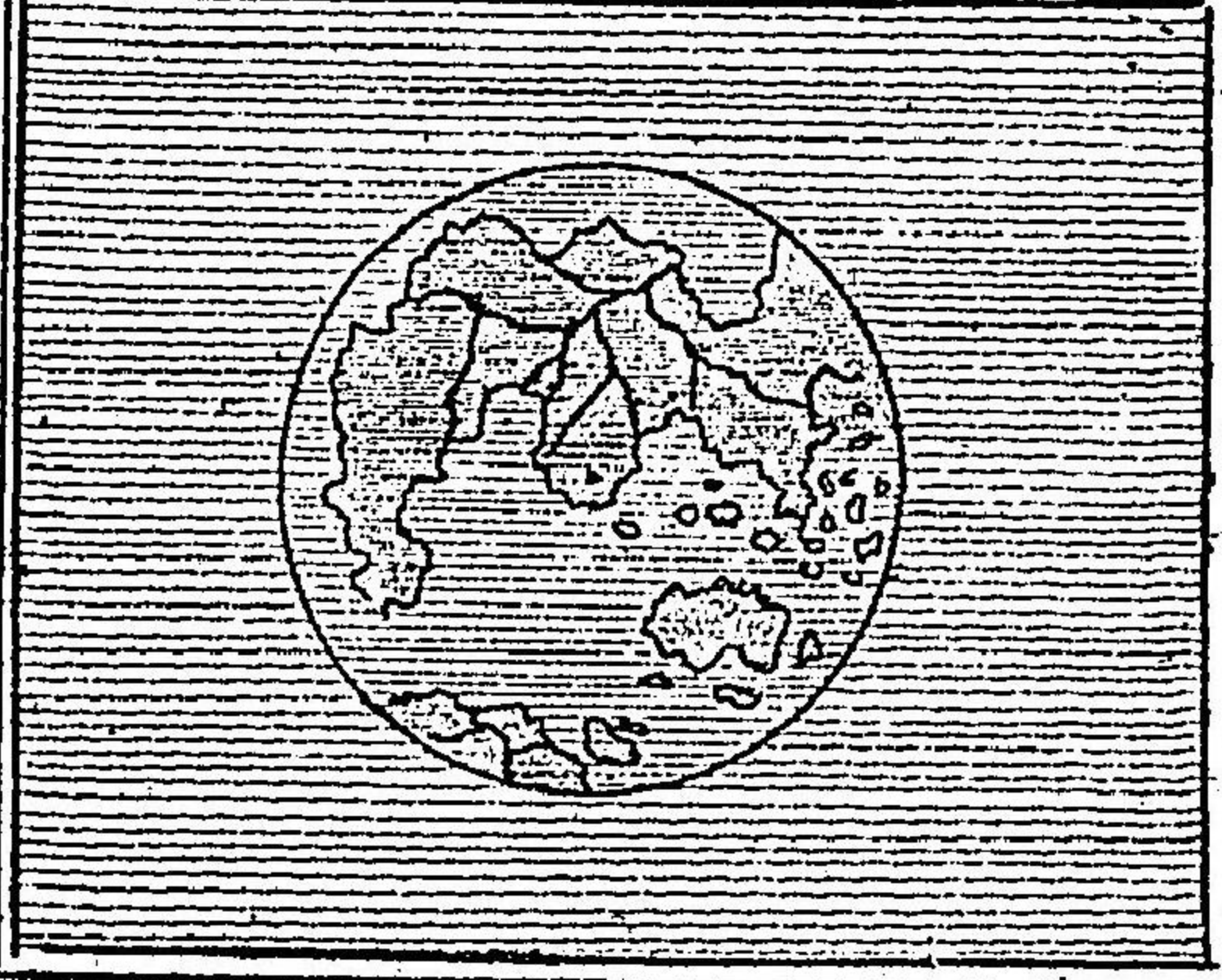
作事場

○數多の大人ハ、作事を事とせり○二人の小兒ハ、此作事場より板に乗りて、遊び戯き居たり、一人の小兒ハ、高く上り、一人ハ、低く下りたり○汝ハ、小兒の傍にあり、器を、何ありと思ふや○これハ、斧と鋸あり○汝ハ、此小兒等を、善き小兒と思ふら○作事場より來りて遊ぶ善き小兒ハ、あらざるべし○今ハ、遊歩すべき時間とハ見え、學問すべき時間あり○學問すべき時間より、作事場より來りて、遊び戯き、作事の妨をせらるハ、必、あゝき小兒あり○汝等ハ、遊歩



の時も、作事場より來るべからば、遊歩場にて遊ぶべし

第一我等の住居をる世界ハ、平なるものより、あらば、實ハ圓くして、球の如きものあり、故に世界を地球といふ○此世界ハ、靜なるやうに覺ゆれども、實ハ動くものにて、毎日一週づつ、旋りて一年より、太陽の周りを一旋りするものあり○太陽ハ、圓きものにて、世界より光と熱とを與ふるものあり○我等、晝ハ、太陽を見ても、夜ハ、見ることあり○汝、夜の太陽を見るときを得ざるハ、何ゆゑあるを、知りや○夜ハ、太陽の方より、向



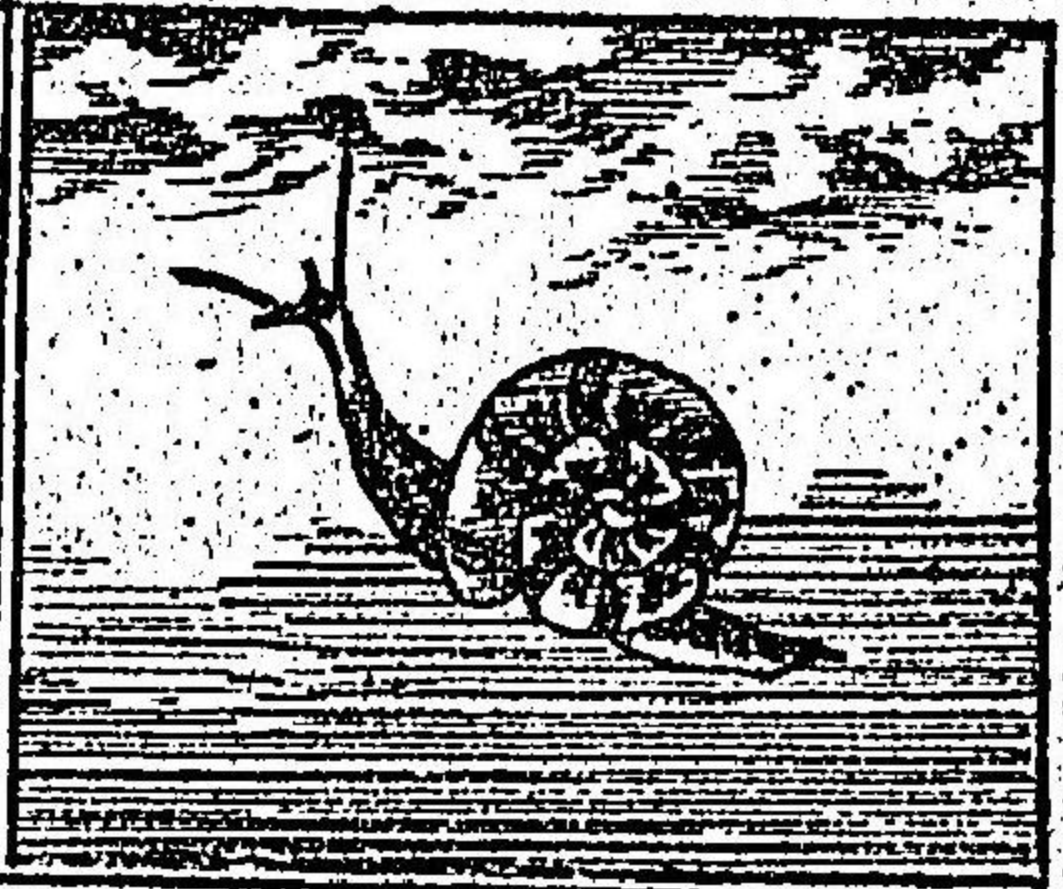
まぎるゆゑに見ることを得ざる
あり。○月も亦圓きものありども
太陽及地球の如く、大なるは○
月、原より光あきものなきども、
太陽の光を受けて、始めて輝くも
のあり

○找等一同は草刈
場へ出来たり○小兎へ刈りたる草の上は坐し居て、草を
刈るを觀る○枯草へ柔あるものなきは、此上へ遊び戯る
る、宜しきあり○草へ、牛馬の食ありゆゑ、牛馬を畜ふ
家にては、夏の間、刈りて、こきを貯ふ
○狐の犬は
似たる獸にして、頭平し、鼻と耳とへ、尖りて、尾は甚長し○



此獸ハ穴の中へ住し晝ハ隠れて出で
ば夜へ入るが穴より出で、田畠の傍
を遊行し○狐ハ、食糞食尿獸にして多
く雞の雛を食ひ又好みて桑の實櫻の
實等を食ふ○雞を捕ふが穴は持ち
行きて、こきを食ふ○も、犬を見ら
るときは穴の中へ逃げ入

まぎら出づることあり、是れ穴へ入らざれば
直に犬も噛殺さるるの故あり
蝸牛とては、殻ハ、足あきゆるよ、歩むこと能
む、只匍匐するものあり○この殻ハ、背は



上ふ鞍^{カウ}のりて物も恐るゝときハ、其中よ縮^{チヂム}み入る○蝸^{カメ}牛の動^{ウツク}ゝときハ四本の角^{ツノ}を出^デくと、其中よ二本の長き角の先^{サキ}よ、目^メめり、短き角の下^{シタ}よ口^{クチ}あり○此虫ハ冬^{フユ}ハ土の中よ伏^{フス}し春^{ハル}の至^キるを待^マちて出^デるあり

○女^メハ此處^{ココ}よ男兒^{ヲコ}ハ、驢^{ウマ}馬^バよ乘^ノらんとほ○何^{ナニ}如^ニも、汝^ニを、乘^ノり易^{ヨク}うるべしと思^{オモ}ふ○驢^{ウマ}馬^バハ、小^コきき馬^バもれども、小^コ兒^{ヲコ}ハ、乘^ノり難^{ガタ}のるべし○遠^{トホ}の向^{ムク}ひよ、荷^ニ車^{クルマ}あり○汝^ニハ、此^{ココ}荷^ニ車^{クルマ}を何^{ナニ}もりと思^{オモ}ふ○遠^{トホ}き處^{トコロ}ゆえ、慥^{タシカ}も、見^ミ分^ワくゝること能^スきと、島^{シマ}の小路^{コミチ}よ、めるを見

○女^メハ此處^{ココ}よ男



きハ穀^{コメ}物を載^ノせたる車^{クルマ}あるべし

○此圖^{エガ}に画^エきたるものハ何^{ナニ}ありや○大人^{オトナ}と小兒^{ヲコ}と二人^ニ水^{ミヅ}中^{ナカ}よ立^タてり○此等^{コノトウ}ハ、何^{ナニ}をおぼや○此^{ココ}人^{ヒト}々^々ハ、魚^{イサ}を漁^{イサ}するあり、大人^{オトナ}の釣^{ツリ}りたる魚^{イサ}ハ、大^{オホ}なるゆゑ、強^{ツヨク}く曳^ヒく、糸^{イト}の切^キきんことを恐^{オソ}きて、遠^{トホ}く曳^ヒき、擧^トげざるあり

○男兒^{ヲコ}の持^モちたるものハ、何^{ナニ}ありと思^{オモ}ふや○そきハ、網^{アミ}の類^{ルイ}よ、たまといふものあり○男兒^{ヲコ}ハ、此^{ココ}網^{アミ}を以^モて、魚^{イサ}を捕^ツへんとほ

○大人^{オトナ}の脇^{ワキ}よ懸^カけたるハ、何^{ナニ}あるぞ○とれハ、蓋^{フタ}のあつ籠^{カゴ}よて



其中の魚を入るゝあり○此人の立たる處ハ深^{フカ}と思ふ
 う○人の膝^{ヒザ}まで水^{ミヅ}よ入らざるを見^ミきハ甚^シ深^{フカ}うらばも
 深水^{フカミヅ}あきバ二人とも立つこと能^ヲをざるべし○此河^カよ架^カ
 たる橋^{ハシ}あり汝^ニハ此橋^{ハシ}ハ何^{ナニ}よて造^{ツク}りたると思^シふぞ○橋^{ハシ}
 ハ木^キと石^{イシ}と鐵^{テツ}との別^{ベツ}ハ何^{ナニ}きともこれ^{コノ}ハ木^キよて造^{ツク}りたる
 橋^{ハシ}なり○汝^ニハ此男^{オトコ}兒^コを何^{ナニ}歳^{サイ}許^シありと思^シふや○此男^{オトコ}兒^コハ
 十^{ジュウ}歳^{サイ}以上^{イジヤウ}あり○此男^{オトコ}兒^コハ善^{タカシ}き人^{ヒト}お
 りと思^シふう○否^{イナ}學^{ガク}問^{モン}をよむず又^{マタ}遊^{アソブ}
 歩^{アソブ}をもあさびして休^{ユム}みをるゆゑも
 怠^{タカシ}りものと知^チらるゝあり○此男^{オトコ}兒^コ
 ハ何^{ナニ}よ倚^{ヨリ}りて何^{ナニ}を見る^ミるや○此男^{オトコ}兒^コの倚^{ヨリ}りたるものぞ大

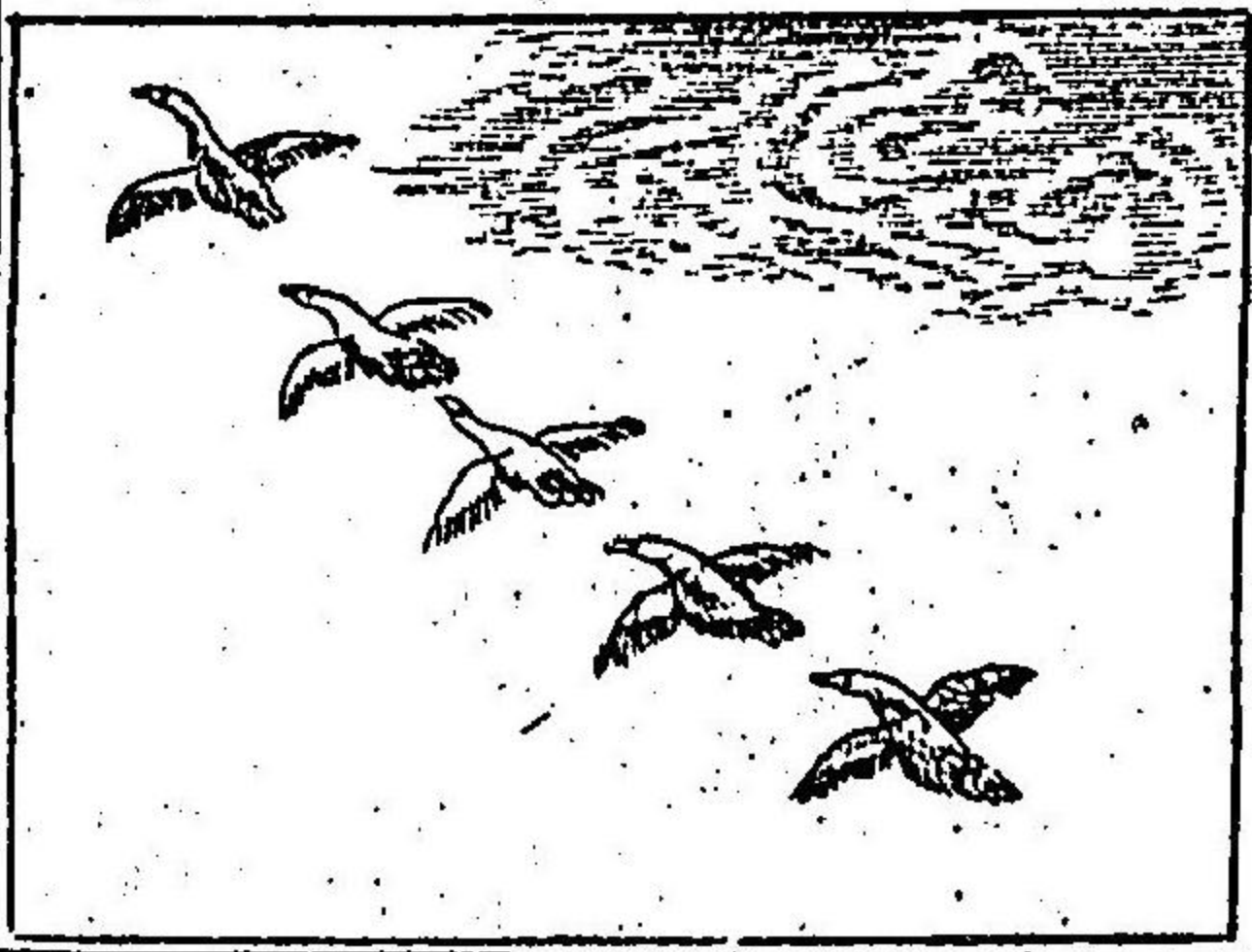


ある石^{イシ}の柱^{ハシラ}なり又^{マタ}此男^{オトコ}兒^コハ何^{ナニ}をも見^ミび只^{ただ}天^{アメ}をあがむる
 あり○總^{スベテ}て小^コ兒^{オトコ}よハ勉^{ツメ}むべき時^{トキ}も何^{ナニ}り遊^{アソブ}ふべき時^{トキ}も何^{ナニ}
 り○此小^コ兒^{オトコ}の如^{ごと}く常^{トキトキ}よ勉^{ツメ}強^{カウ}をあさるときハ成^{ナリ}長^{チカ}の後^{ノチ}
 人^{ヒト}よ勝^{マカ}ることを得^エざるあり ○爰^{ココ}よ又^{マタ}急^{イサ}情^{シヤウ}の小^コ兒^{オトコ}
 あり○彼^{カノ}ハ學^{ガク}校^{コウ}へ行^イくと云^{イハ}ひしガ
 何^{ナニ}ゆゑよ學^{ガク}校^{コウ}へハ行^イうべして途^{ミチ}中^{ノチ}
 よ遊^{アソブ}び居^イるや○未^{イナ}學^{ガク}校^{コウ}へ行^イくべき
 時^{トキ}刻^{キョク}来^キらばや○學^{ガク}校^{コウ}よてハ既^{スデ}よ替^カ
 古^{コノ}始^{ハジメ}りたせバ此小^コ兒^{オトコ}もとく行^イくべ
 き時^{トキ}刻^{キョク}あり○然^{シカ}らバ何^{ナニ}ゆゑ爰^{ココ}よ止^ト
 まり居^イるや○彼^{カノ}ハ犬^{イヌ}よ來^キり又^{マタ}他^{タノ}の



急りものと遊むんと思へばあり○彼ハ學校ヨ行くもの
 ちバ、其書をバ何處ドコヨ置たるや○書をバ自分ジブンの家ウチヨ忘ワスせ
 たるあり○されバ學校ヨ行きたりとも、誓古チコそること
 得トクを○善き小兒ハ書を大切チカクヨあして學校ヨ行くを好み
 誓古チコの時間ジカン来キむハ、決ケツして途中チュウチウヨ遊アソび居イることスあラく學
 校ガクヨても能トクく勉強ケンキョウして學マナぶゆゑト其等トウダウ
 級キツ屢ス進スむあり

第三雁サンニの列レツをアして、行く圖ヅあり○見る
 べし、一羽イチハの雁ニ導ミチをアせバ、其他ソノタの雁ニハ
 これヲ隨スひて、飛トビ行くを○是コトを、何處ドコ
 小行くや○或シハ、水邊スイヘンヨ行イきて、葦アシの間マ



美ノ部

息イみ、或シハ田イナヨ下シりて食物シヨクを求モトめんとス泥ドロるあり○此鳥
 ハ、冬フユハ北キタヨ南ミナミヨ来キり、春ハルヨ至キきバ、又南ミナミヨ北キタヨ歸カエる、故
 小夏ナツハ此地ココヨ居イることスあり ○地チヨ生ナひ出デづる物



小、草クサと木キとありて木キヨ、灌木カンボクと、喬タカシ
 木キと、あり○草クサハ、其幹カン葉エハ一年イチネン限リり
 小、て、枯カるコトものあり、灌木カンボクハ、高タカシ一イチ
 丈ヂヤウヨ出デてぞと雖シ、其幹カンハ枯カむコトさる
 小、ものあり○喬木タカシキとハ、成長セイチャウして、高
 大オホヨ至キるものを云イふ○此三ココの者
 小、と合アせて、植物シヨクブツと云イふ植物シヨクブツハ生ナを保ホちて、能トクく成長セイチャウし、又死シ
 小、してハ、枯カるものコトあり、人の如トシク、物モノを思オモへ根ネハ、



食物を地下より吸ひ、葉ハ能く呼吸せれども鳥獸の如く、
 動くことあり。 ○鳥ハ、二つの足
 と、二つの翼ありて、多くハ、空中に翔る、
 又水上に住むものもあり。 ○獸類ハ四
 足よりて、層々長き毛あり。 ○此鳥と獸

とハ、身體を意に従ひて、動らせども、
 人の如く言ふこと能はば、

汝ハ實のる草木の、種類を知らりや
 ○其莢を見て、豌豆と蠶豆とを知ら、
 穂の形を見て、稻と、麥とを知るべし。 ○
 草木ハ、皆種子あり、豌豆蠶豆ハ、莢の中



在りて、梨李橙ハ、肉の中よりあり。 ○種子の食物となるもの
 ハ、稻麥豆、黍粟の類あり、肉の食物となるものハ、梅桃梨李
 蜜柑の類あり。 ○草木ハ、皆種子より生じ、濕ひたる土の中
 より、種子を置くときハ、漸く膨脹して遂に破裂し、其所より、
 芽と根とを生じらる。 ○鹿ハ、山林に住む獸

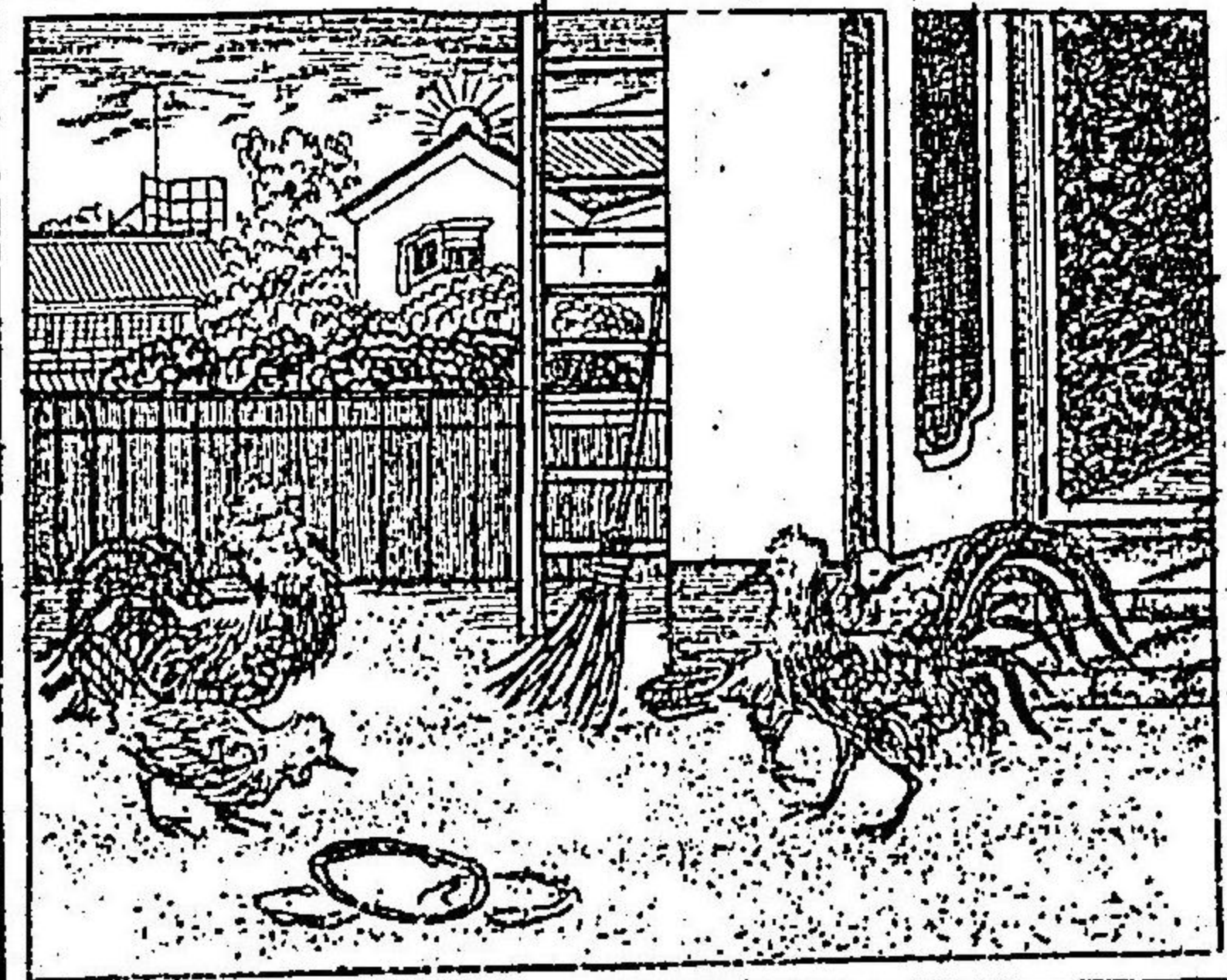
なり、此獸の牡ハ、枝を生じたる角あり、牝ハ、角あり、其
 色ハ、茶褐色にして、白き斑あり。 ○鹿
 ハ、長き足ありて、走ること甚速あり。
 ○常々、草木の葉を食し、或ハ、田野
 に來りて、穀物を食することあり。 此
 獸の角ハ、堅くして、器を造るべく、又



其皮の席とあるべし。○此男兒ハ悪き心のものあり、汝
 ハこの男兒の持てる帽の中ハある物を見たと。○とき
 棧の實あり。○此棧の實を垣を踰えて隣家より盗み取
 るるあり。○今此男兒の實を盗み取り、垣を踰えて出で
 んときる所を數多の犬どもこれを見て、男兒を追ひつけ
 一匹の犬男兒の裾を咬へたり。よ
 りて男兒ハ垣を踰え去ることを
 得ず。此時盗みたる棧の實を捨て
 あば犬ハ裾を放つべし。○此
 男兒ハ、ときを捨つること能は
 ず。○他人の物を盗むハ決して為さざることあり。善き小兒



ハ、自分の物ハあらざれハ取ることあり。○常ニ行狀の正
 しきものハ幸多く正しめらざるものハ幸を得ること能
 はず。○汝等他人のものを見て、何如あるものありとも、必
 ずこれを得んことを欲することあり。○
 雞と穀倉とあり。○汝が見る所
 へ、これのこもありや。○否、家の後
 松あり、垣を寄せて立てたる筈あり。
 雞の飲水を入きたる水鉢あり。○汝
 ハ、この鉢ハ水ありと思ふや。○必水
 ありあるべし。○何を以て、水のあり
 を知る。○此鉢ハ、少し傾きて一邊



○爰ハ四箇

の縁高く出てたるを以て水のゆるを知らり水へ傾きたる鉢の中よても決して斜に傾くことおく其表面へ必一様平あるものあり○汝ハ雞の水を飲むを見しや雞ハ牛馬の如く首を下げて、飲むこと能むべゆゑ一滴口に入れば首を擧げて、咽ふ飲み下せあり ○此處ハ何如ある所ありや○此處ハ穀倉の傍あるべし、雞ハ巢よ上らんとて、梯子を傳ひ行くあり、○梯子に横木あり、これハ何ありや此横木ハ、梯子の級あり、○汝ハ、雞の巢を見たるか、○巢ハ、隠きて、檐の裏よゆるゆる見ることを得



○汝此處よ来き汝昨日失ひたる所の書籍を尋ね得たりや、○否未、尋ね得べ、○汝ハ、文庫の中を捜し見よ、○幾度も捜し見よきども其處よあらば、○汝、今一度尋ね見よ、書籍よけき、○汝、今日學校の筆ハ命せられたる如く、文庫の上よ置きたり、○汝ハ、筆の用ゐるたを知らりや、○否未、用ゐるたを知らば、○汝、今其筆を取来れ、汝ハ、筆の用ゐる方を教ふべし、筆の用ゐるたを知らざれば、字を習ふこと能むべし、○汝ハ、今日學校よ行きたりや、○學校よ行き、終日學びて、先刻歸り来きり、○然らば座よ就きて復



讀せよ、凡て學びたる所を、常よ復讀して、決して忘るべからば

第四岸の上よ、二人の少年ありて三艘の船の岸よ着くを見居きり○三艘共帆を十分よ張りて橋の上よ旗を揚げらる船あり○一人の少年云ふ我が朋友ハ去年先きの船よ乗りて外國よ往きたりしが、日を敷ふきハ其出立せし日より今日まで殆一年よ及びて歸り来き○彼の両親ハ日々彼の歸るを待てり○今日無事なる顔を見らることを得て何許の喜ばる



らんまゝ彼男も父母の恙なき顔を見バ、定めて大よ喜ぶべし○彼船ハ堅固なる船にて、風雨に逢ふとも破損なく、無難に歸り来きバ、船中の人々ハ皆此船を忝く思ふあるべし○人々の外國よ行くハ、學問或ハ貿易を志して、我國の利益を志さんことを欲するがゆゑあり ○總て鳥ハ嘴の長さものと短きものとあり○此嘴にて食物を啄む○鳥よ穀物を食するものと魚又ハ蟲を食するものとあり○鳥の目ハ面の兩側よあるゆゑ、一時は兩方を見ることを得るあり○林中よ遊ぶ鳥を、林禽といひ、水上よ遊ぶ鳥を、水禽と

讀せよ、凡て學びたる所を、常よ復讀して、決して忘るべからば

第四岸の上よ、二人の少年ありて三艘の船の岸よ着くを見居きり○三艘共よ帆を、十分よ張りて橋の上よ旗を揚げしる、船あり○一人の少年云ふ、我が朋友ハ去年、先きの船よ乗りて、外國よ往きたりしが、日を數ふまば、其出立せし日より今日まで、殆一年よ及びて、歸り来き○彼の両親ハ日々、彼の歸るを待てり○今日、無事なる顔を見ることを得て、何許の喜ばる

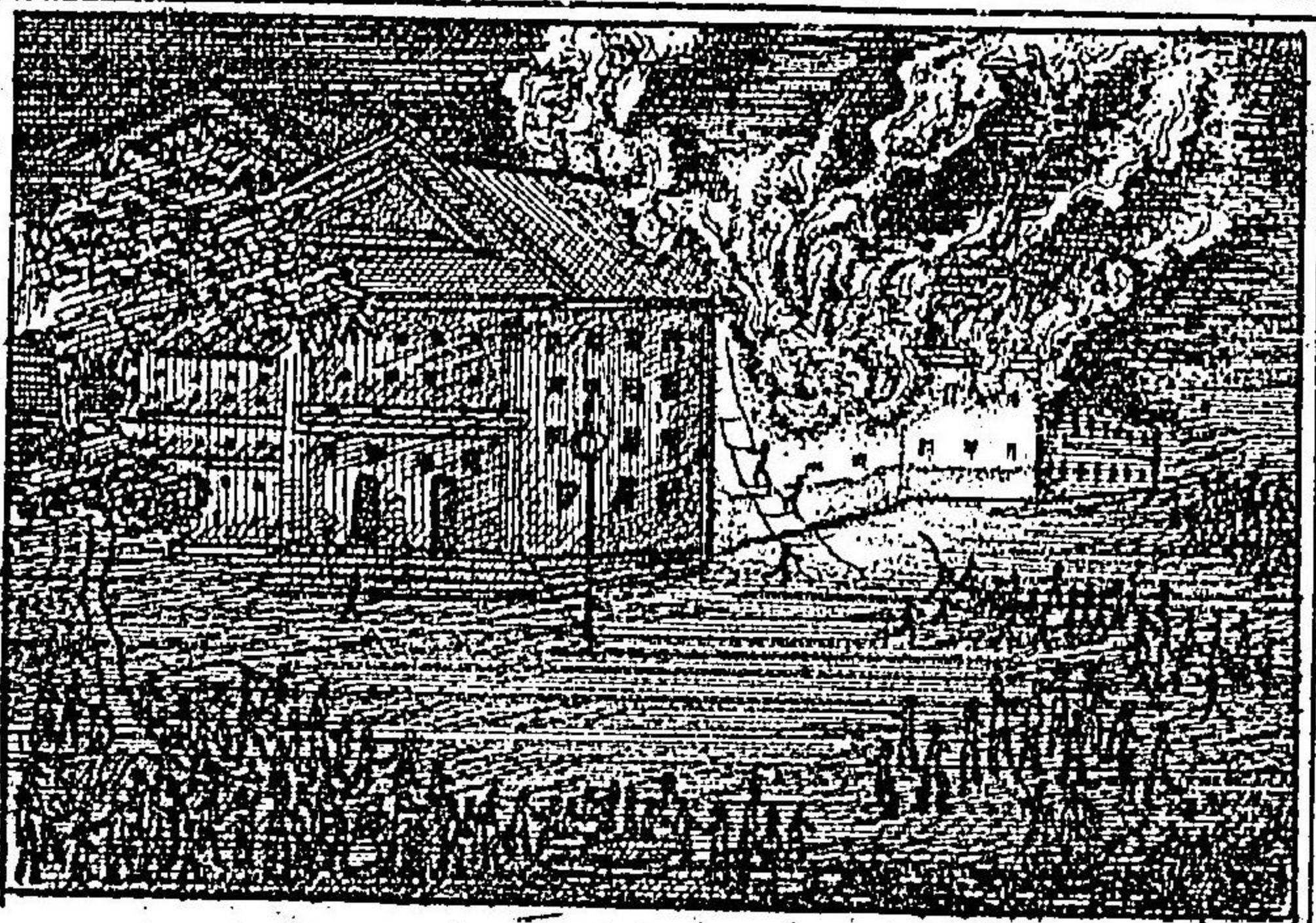


らんまゝ、彼男も、父母の恙なき顔を見、安めて、大よ喜ぶべし○彼船ハ、堅固なる船にて、風雨よ逢ふとも、破損なく、無難よ歸り来き、船中の人々ハ、皆此船を、忝く思ふあるべし○人々の外國よ行くハ、學問或ハ、貿易を志して、我國の利益を志さんことを、欲するがゆゑあり ○總て鳥も、嘴の長さものと短きものとあり○此嘴にて、食物を啄む○鳥よハ、穀物を、食するものと魚、又ハ、蟲を食するものとあり○鳥の目ハ、面の兩側よあるゆゑ、一時よ兩方を、見ることを、得るあり○林中よ遊ぶ鳥を、林禽といひ、水上よ遊ぶ鳥を、水禽と

いふ○鳥の足は四指ありて、三指は前一指は後より
 然れども啄木鳥類は前後各二指ありて能く大木上下
 樹皮の中は住む蟲を搜し食はる風情あり是は何故ありや○
 何故あることを知らば○此人
 へ久しき以前より遠方より行きて
 今我郷に歸り來るに肯し住
 たりし家の變りたるを見て驚
 けるあり○さて此家の斯く變
 りたる所以を話し聞かば
 ○此人の家を出てたる後近隣より一人の小兒ありて、此

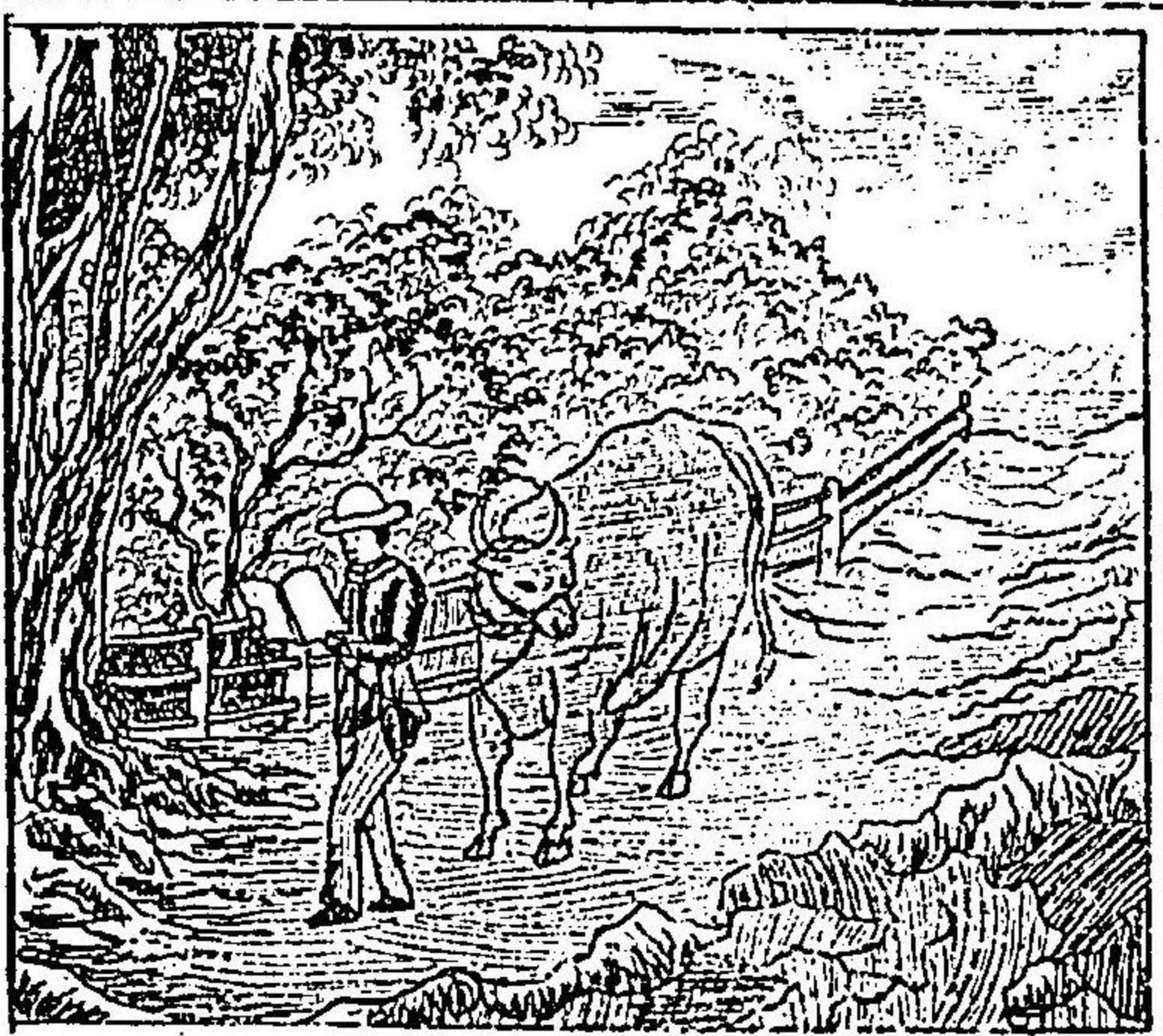


小兒ハ至りて惡くきものにてはる日戲し紙を焼きて遊
 べり其火忽家の障子は燃えつき終り此家まで焼け失
 せり○されば今此人我家に歸り來りても未妻子の行
 きたる所をも知ること能はばゆゑは悲み歎くあり○今此
 人の家の焼けたる時の状を圖して示さん○火と烟との
 家の窓より吹出づる所を見よ○又家は懸けたる梯子あり○梯
 子より上りて火を消さんとする人あり○多くの人も脚筒にて頻
 り水を注げり○然れども火猶消えざりて家終り焼け落
 ちたるゆゑこの家の人々ハ皆逃げ去るあり○されハ
 小兒ハ火を弄ふべく一度過つ時ハ家をも倉をも失
 ひ甚しきに至りてハ其身をも失ふことあるあり



よ因りて道を行く間も書を讀むあり又牧場に至りても休
ひ間ハ書を見ざるごとくあり○此の如き小兒ハ他日必

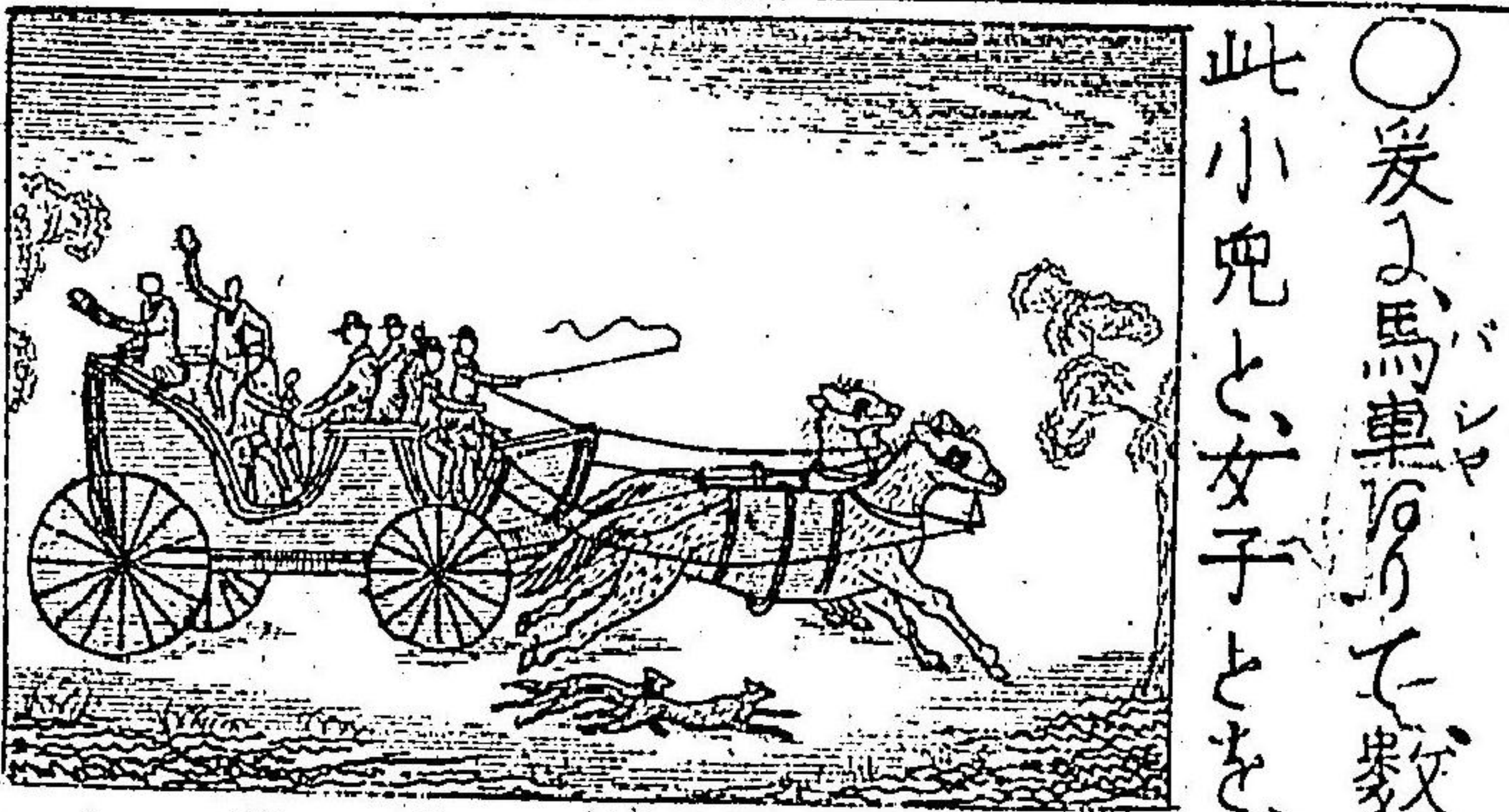
○此圖は画きくるハ、柔和ある牛
よして、此小兒は隨ひ、徐に歩めり、
此小兒ハ、今牧場、牛を曳き行く
所あり、○此小兒ハ何ゆゑ、歩み
あがり、書を讀む、此小兒ハ、其性
極めて賢く、常に學問をすることを
好めども、家食、きゆへ、學校に
入ること能はば、日々牧場を
行くあり、然きども、學問の志深き



人よまさりて賣き人とあるべし、
○惡しき小兒ハ、日々、學校を行く
と雖、能く勉強せず、遊ぶこと
のこを、好むゆゑ、後ハ、愚なる者
とありて、貧賤、其身を、終るべし、
○雲雀巢を、麥畠の間、造
りて、雛を育てたり、○麥ハ已に熟

して刈るべき時よ至りたるに雛ハ、未自由よ飛ぶこと能
む、一日、親鳥食を求めんとて、飛び去り、暮よ及びて歸り
來をハ、雛告げて、今日此畠主なる農夫其子と共に來りて、
明日ハ、近隣の人を雇ひて此麥を刈り取らんとて、歸きり

と云ふ親鳥聞きて、彼近隣の人を雇ヤトまんとならば未ヤ急ナよ
 ハ、刈取るべしとて明日ハ此處コノトコロに
 りとも恐ろしよ足らばといひ、其翌コノアサ
 日ヒも亦食を求めんとて、飛去りたり
 ○かくて日の暮る頃、親鳥歸り来
 せバ、雛又告げて、今日も農夫ノウサツ其子と
 共トモよ来りし、近隣の人も同ドウく已マ
 ぐ作りたる麥を刈るに暇イダあらざれ
 バ、明日ハ、明友親族シヨウゾクを頼タノいで、刈り取らんとて、歸カエりて云
 ふ、親鳥ハ、彼尚ナ他人を頼むの心、あらバ、明日も憂ふるに足
 らばと云へり○さて其翌日親鳥列ヒの如く飛去りて、歸

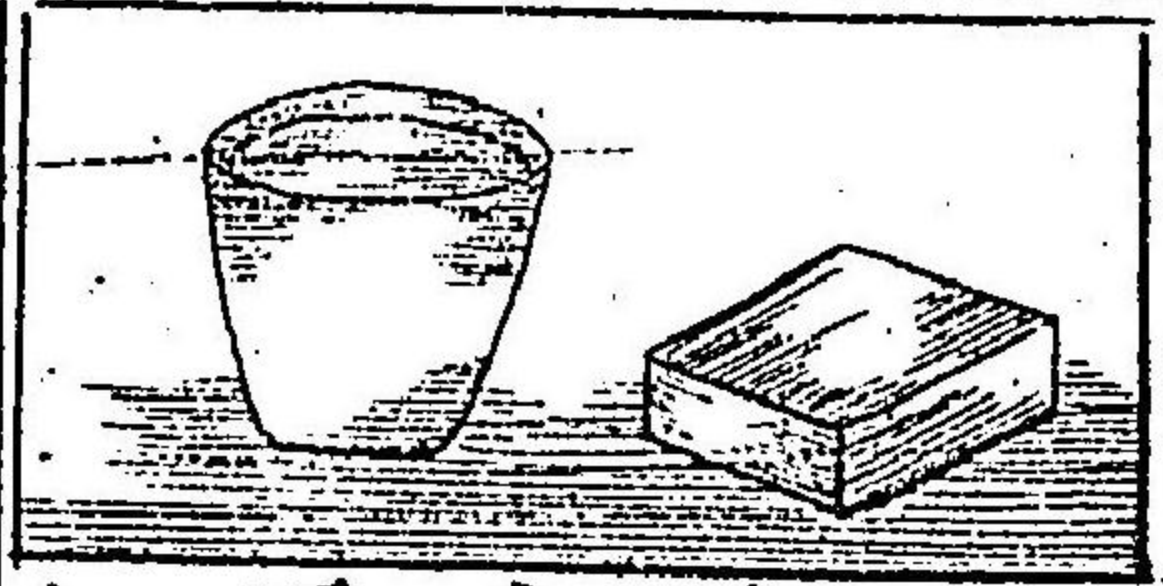


○爰ココ、馬車バシャよりて數多の小兜と女子とを載せり○汝ハ
 此小兜と女子とを、知りや○これを知れり○これハ、皆
 我學校ガガクに來る人あり○彼の犬ハ、馬と
 同ドウく、走り○彼等ハ、汝を見たりや○
 彼ハ、吾を見るときは、必其帽を脱ヌぐ、故
 ち我も亦其時ハ、帽
 を、脱ヌぐざることあり
 ○この箱の中コノハコに響ヒビキあり
 り○汝ハ、此響を何あり
 と思ふや○此箱の中コノハコに、あるハ、鼠ネズミあらや
 と思ふや○此箱の中コノハコに、あるハ、鼠ネズミあらや
 と思ふや○此箱の中コノハコに、あるハ、鼠ネズミあらや





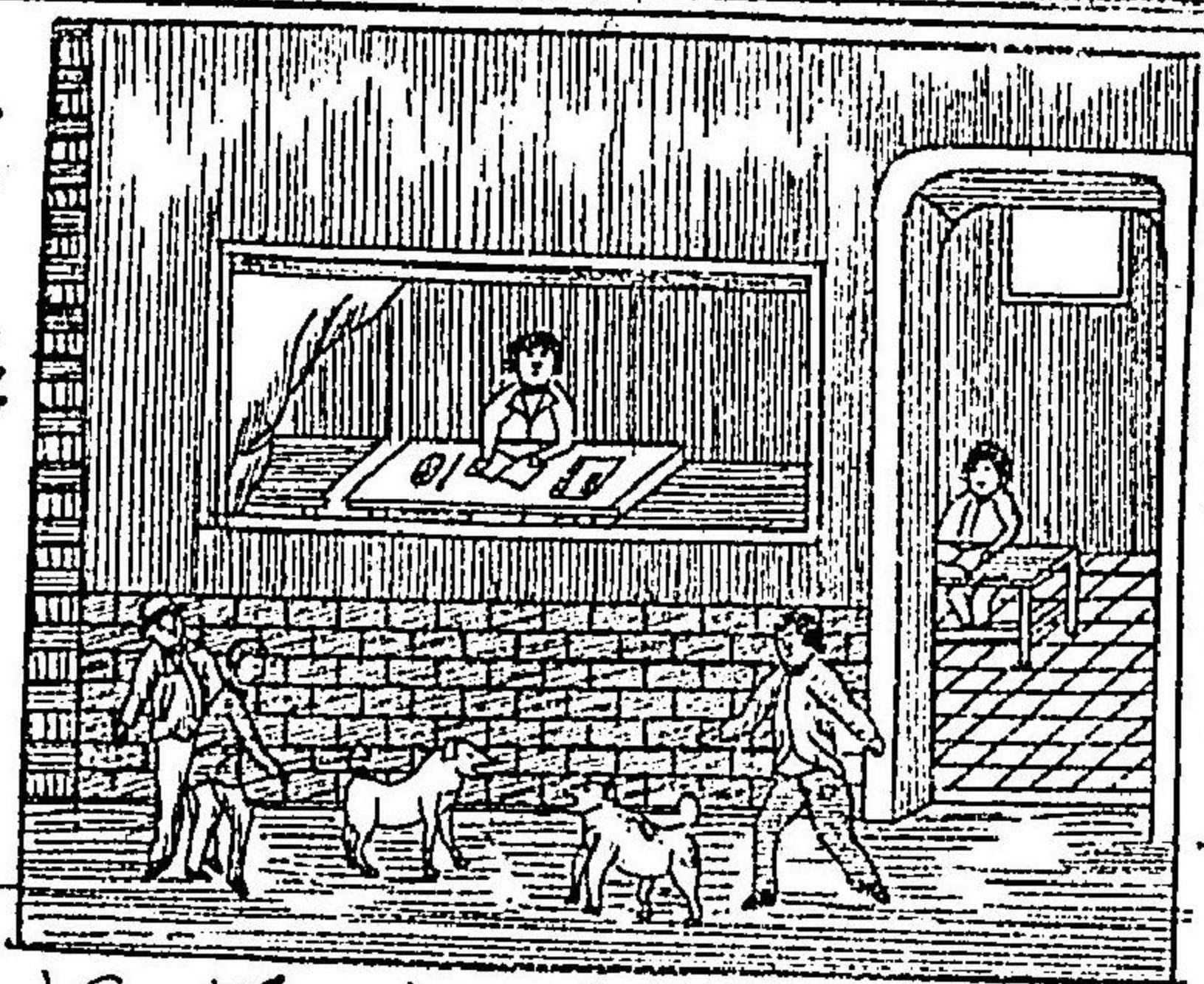
吾ハ、小き鼠ふりと思へり。○凡て響ハ、其物ヲ應ジテ、度ノ過ぎざるものなれば、猫もあらば、大なる鼠もあらばと思へり。○爰ニ四人の小兒あり、二人ハ、坐して、二人ハ、立てり。○一人の老人ありて、此小兒等ニ、神ノ話を説き、聞クさんと云。○老人云ふ、凡て人シ、神を敬して、其身ノ幸を願むとあらば、善き道を行ふべし。○善き心を、持ちて、善き道を行ふんことを、欲せば、小兒の時より、學問を勤むべし。○學問して、壯年ノ至り、毫も、過なきときハ、自神の助を得べし。○爰ニ杖を携へ



ども、善き教を聞きて、これニ従むざれば、善き人と成り難し。教師の教ハ、即ち我心ニ、種子を蒔くニ同し。故ニ、心を用いて、これを育ひ、能く成長せしむべし。然れども、不正の心の生じ、易きこと、雑草の如く、あざば、心ニ蒔きざる、善き種子を、害すべきものハ、勉めて、これを抜き去らば、あるべし。○爰ニ、これを抜き去ること、怠りて、成長せしむるときハ、終ニハ、中ニ萌せる、良心を害して、これを枯らし、盡し、至るべし。○汝等、善き人とあらんことを欲せば、此人の、雑草を抜き去るが如く、勉めて、不正の心を、抜き去るべし。○爰ニ圓き器と、四角ある器と、入せざる水あり、もと水ハ、同

小學讀本 卷二

十五



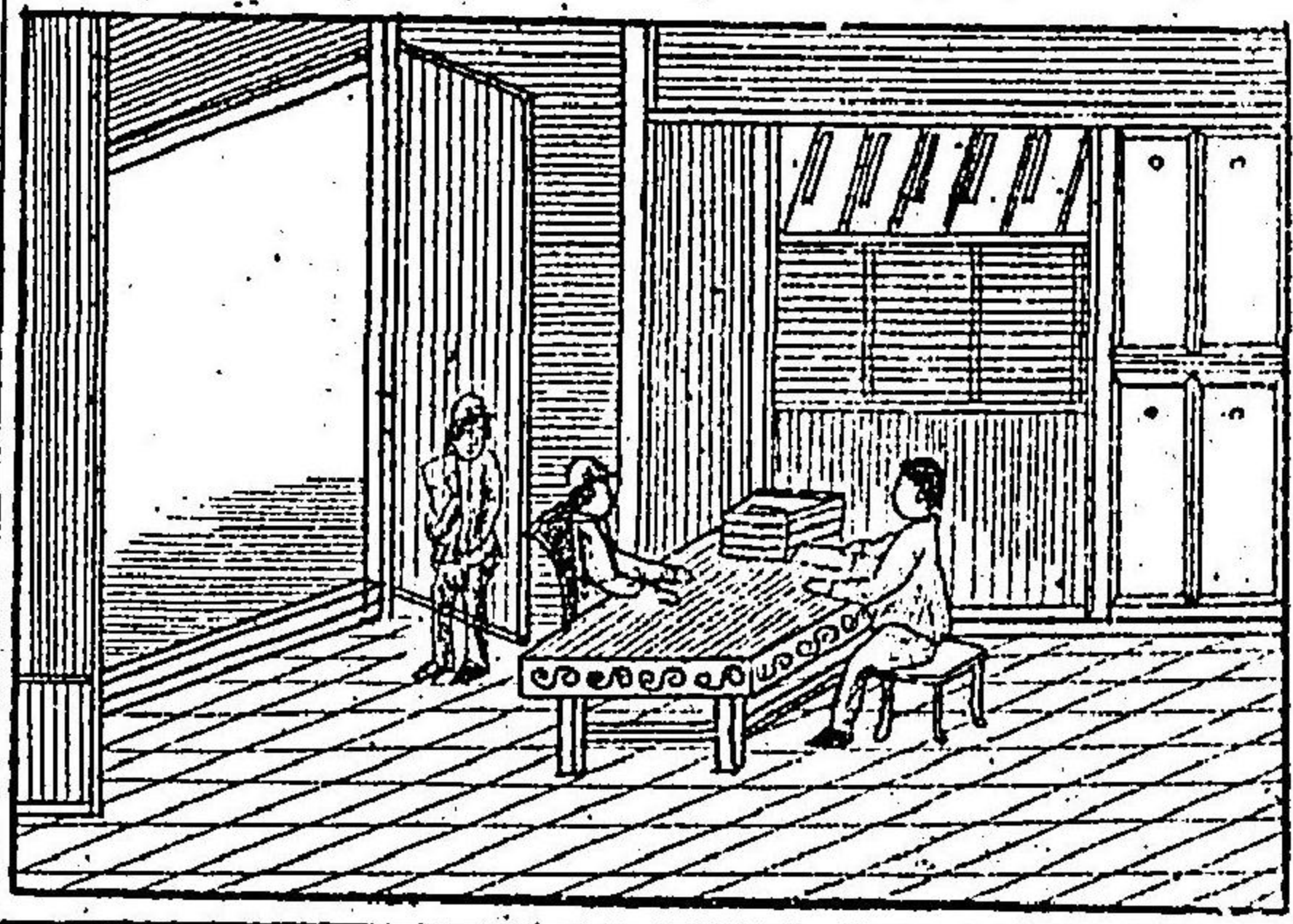
けし、其器の形より、或は圓く、或は四角なる、形とあ
 ざり。○人も、小兒の時、此水の如く、善き友より交りて、善き
 ことを見聞けば、善き人とあり、又、悪き友より交りて、悪
 きことの如く、見聞けば、悪き人と
 なるあり。○家の内外、數多
 の小兒ありて、其遊ぶべきの各異な
 るを見るべし。家の内なる小兒は、日
 々學校にて、學びたる所を、家より歸り
 て、其友と、互に問答して、これを樂と
 び、此等、他日必賢き人と、なるべし。
 又、外に集り、遊べる小兒、學校にも、行かざる者と見えて、

犬を噛と合せ棒を打擲り、無益の遊の事をあせり。此等ハ
 後日必愚なるものと、あるべし。汝等賢き人と、あらんと、思
 へば、能く心を、用ゐて、常に善き友と、交り、必、悪しき小兒等
 と、遊ぶべからば、○汝等事の正し、ありざるを知る、と
 き、ハたとひ、他日利あること、思ふとも、決して、行ふべ
 からば、又、悪しき業を、ハ假し、心は、行むんことを、思ふべ
 らば、若し、心は、行むんことを、思ふとき、ハ、縦令事、ハ、出さば
 とも、既、行ひたる、と、同し、と、知るべし。○凡て、悪事ハ、虚言
 より、始まるものあり、さき、ハ、暫、其身、ハ、利益ありとも、決
 て、虚言、は、べからば、虚言を、以て、得たる利益ハ、他人の物を、
 盗む、たると、同じく、終、ハ、其身の害と、あるべし。○ひら、

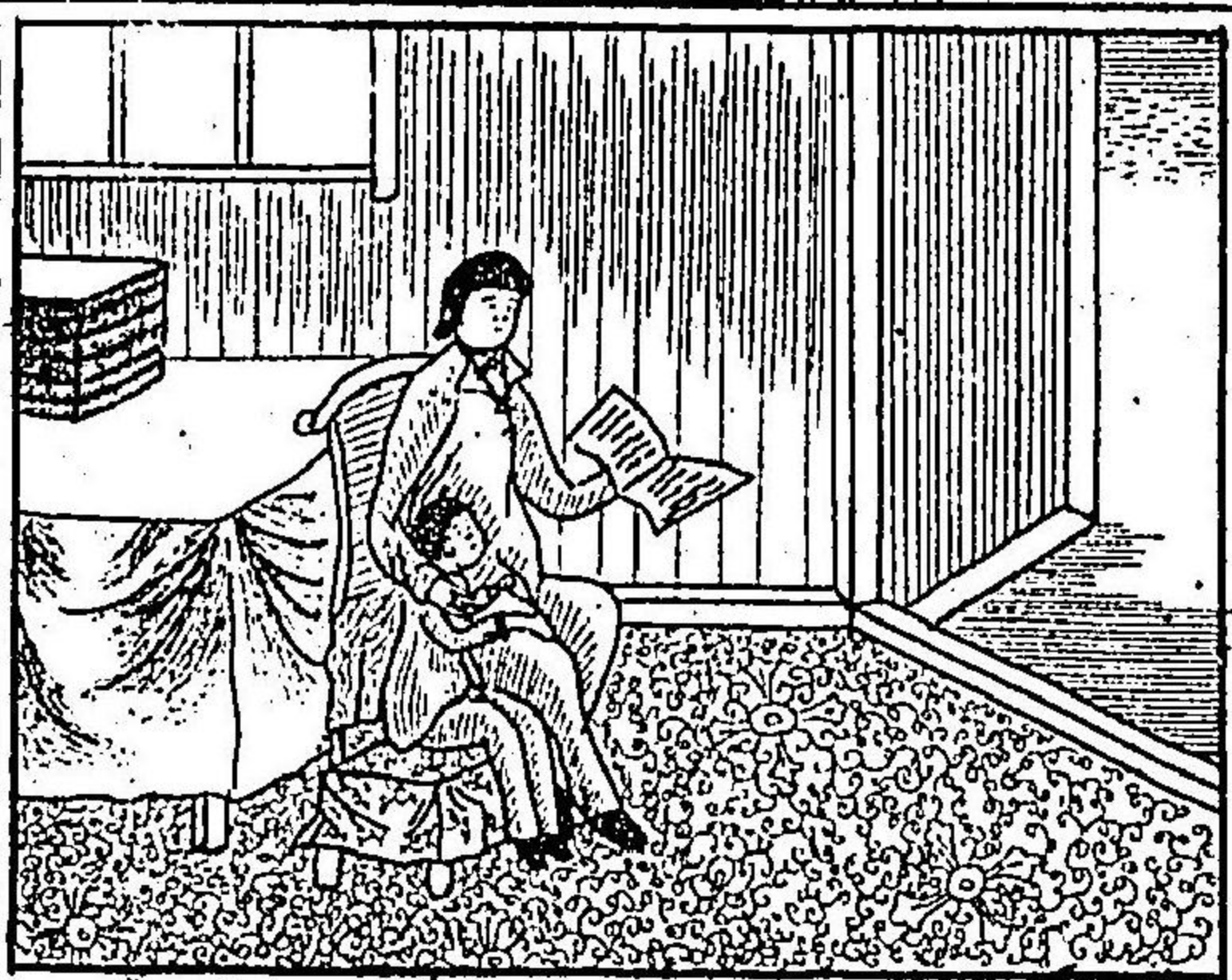
一人の男兒ありて、毎コト又狼来きり、狼来きり、誰タレう出で、救スツひ給へと、大ヨ又呼びて、途ミチを走きりこき、真マコト又狼の来きるまは、あらば他人の出来りて救もんとそるとき、欺アサムき得たりとて、大オホ又其人を笑ふを以て、戯マケヒとそるあり、○斯カクくそること、度々あり、日、ある日、真マコト又狼来りて、此男兒を食しんと、男兒ハ大オホ又呼びて、狼来きり、救ひ給へと、いへとも誰も、亦例の虚言をるべしとて、こきを救ふものあり、ゆゑ終マタ又狼のため



は噬シ殺されたり、故イヘ又平生戯マケヒも、虚言を以て、人を欺くものハ、適タカシ、眞實マコトのことを、話ワタシきとも、信シンとあすもの、ほらされバ、常ツネニ、慎ツツシむべきことあり、○此處を何如ある家ありと思ふぞ、○こまハ、書肆シヨシあり、爰ココ、三人の男あり、帽イタビを戴きたる、二人の者ハ、書籍を買もんらため、此處ココ、来きるあり、一人ハ、既スデニ一冊の書アカナを購カウひ得て、去らんと、一人ハ、机キシヤウ上の書アカナの價アタヒを定め居るあり、○今、此二人の書籍を買ふハ、何の為ありや、家カに歸りてこれを理會リソウイし、已ナシの智識チシキを増マさ



んとはまはあり、書あけまば、智職を増はこと能もは智識
 無きときハ國の利益を興はこと能もは故も、志ある者ハ
 有用の書をバ、金を惜まばして、これを購ふあり。

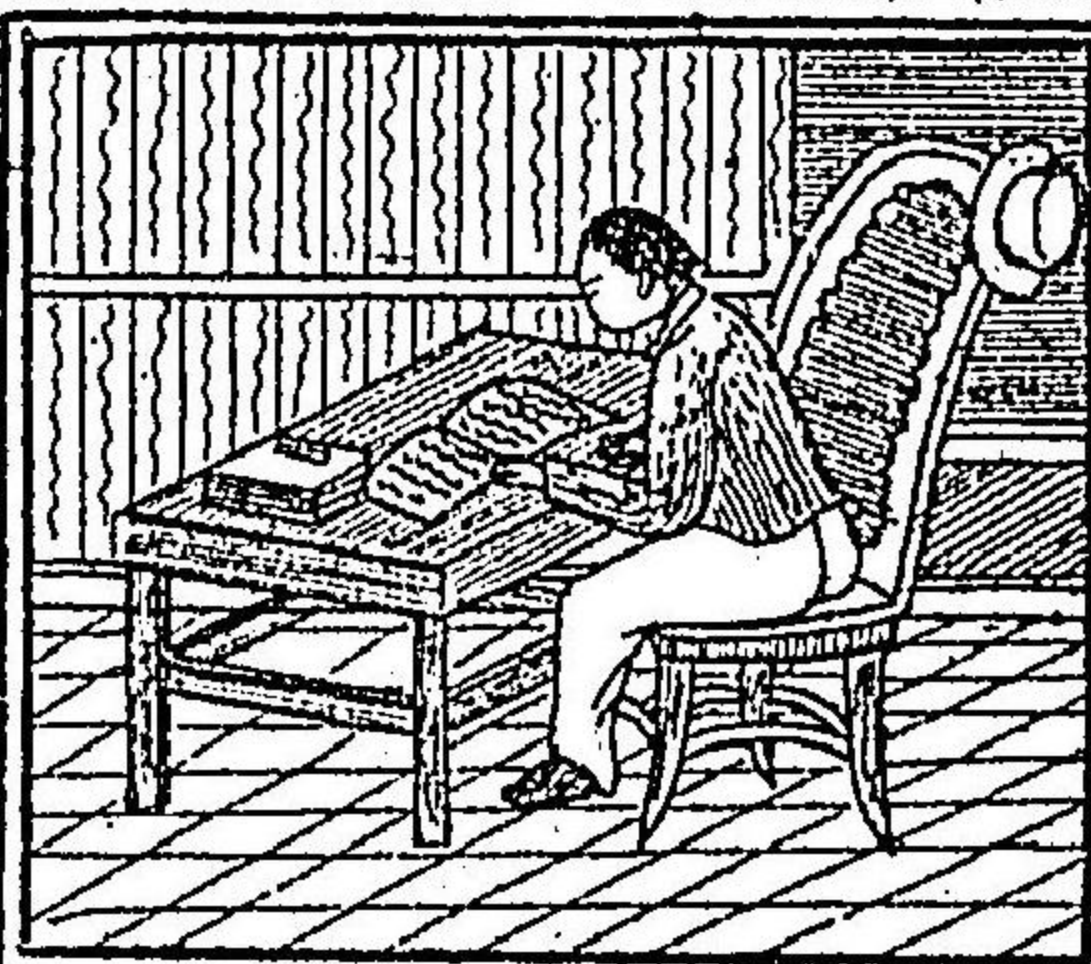


此圖の男ハ、手ヲ持テ、書を讀ミテ、其義を、小兒ニ、語り聞ク
 じむる、所あり○汝この小兒ハ能く
 心を用ゐて、其話を聞くと、思ふら○
 此小兒ハ、心を用ゐて、其話を聞くと、
 見えて、此男の、語ることを、深く考ふ
 るさほあり、思ふよ、今聞ク所ハ、此書
 の中の、尤大切ある、箇條あるべし○
 凡て、教を人ニ受る者ハ、決して倦怠

の心を生じへらば、倦怠の心を、生ずるときハ、直ニ、其顔
 色ニ見ハ、るゝゆゑニ、教ふる者も、亦これを知りて、懇ニ教
 訓することあり、されバ、教を受る者ハ、皆此小兒の如く心
 を用ゐて、其話を、能く考ふべきことあり。

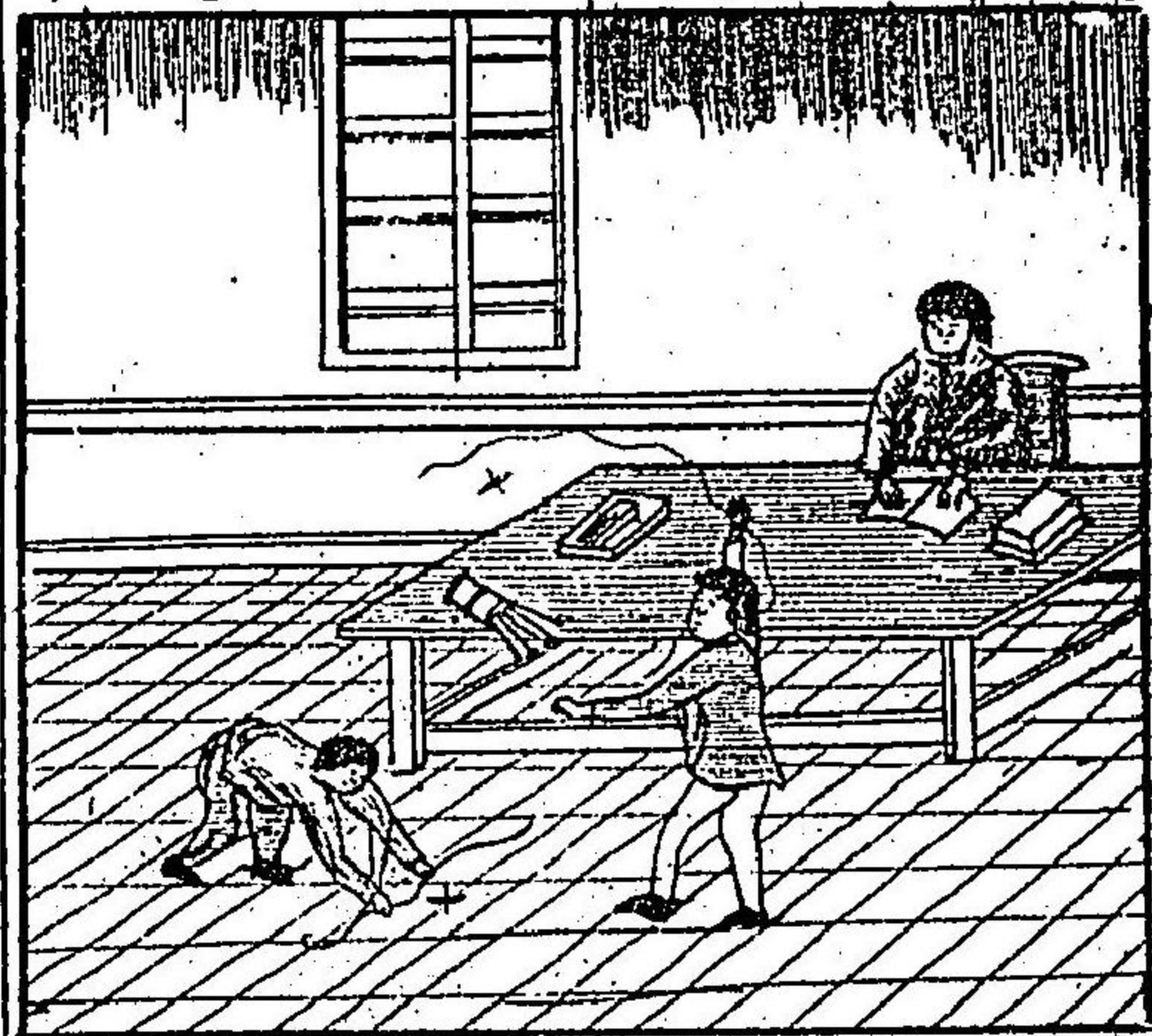
第六汝ハ、猫の免を愛するら、又、犬の免を愛するら○我ハ、
 猫も、犬も、犬も、其遊び戯るゝ所
 を、見ること好めり○總て、獸類も、
 稚き時ハ、小兒の如く、遊び戯るゝこ
 とを、好むものあり、中にも、猫の免ハ、
 繩又ハ、鞠を弄びて、能く戯を遊ぶ
 り○然もども、獸類も、年老ゆきバ遊



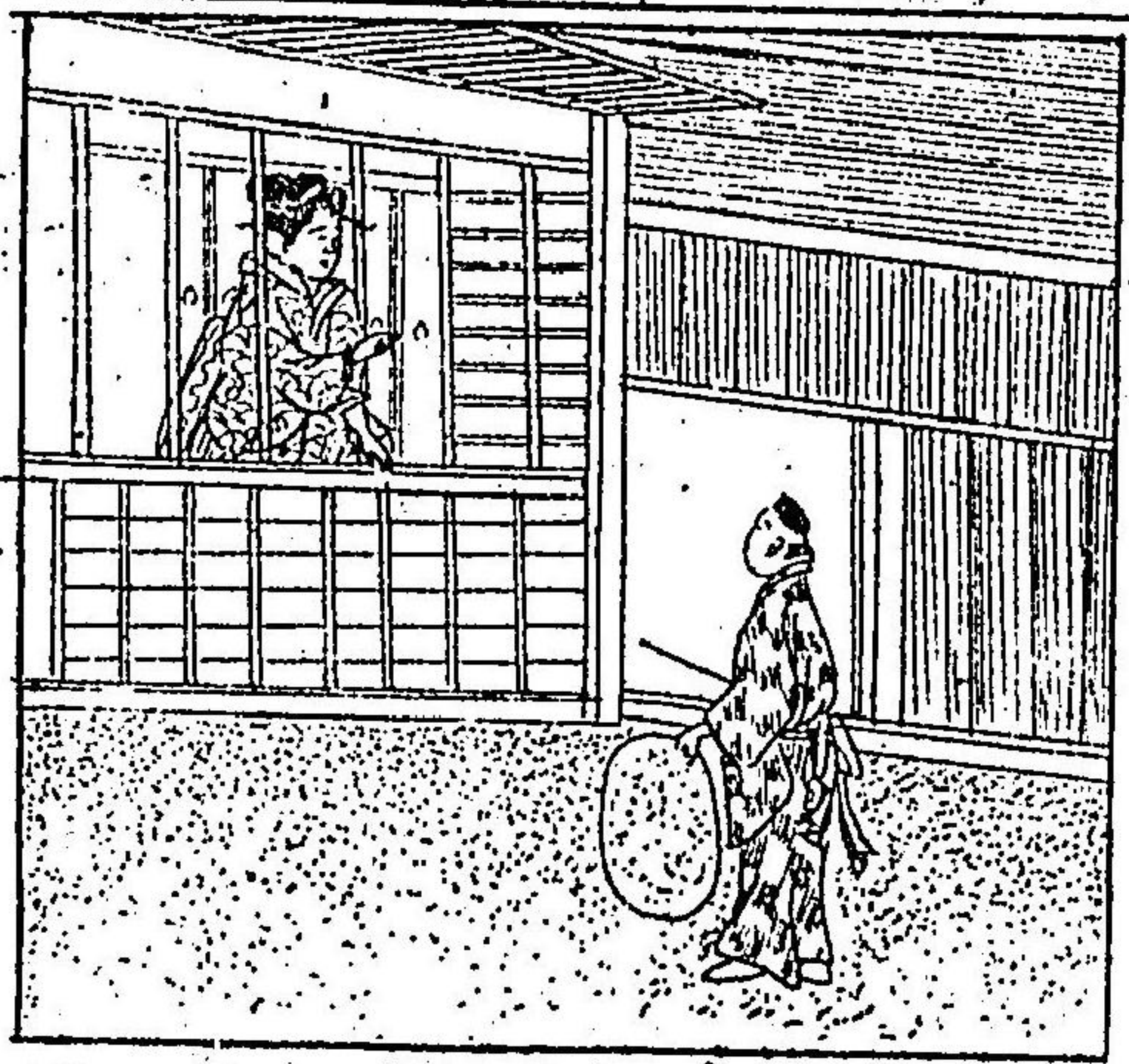


び戯ることよ、好まば人より、年長けたる後まで、遊び戯るるハ、耻づべきことよ、何らゆゆ、○されバ、老たる猫ハ、其兎の戯を遊ぶを見ることよ、好めども、其身に觸ることよ、好まむ、喜バざるあり、○老人も、小兎の遊ぶを見ることよ、好めども、其身よ、觸ることよ、喜バざるものゆゑ、小兎ハ遊び戯るるとも、老人の身よ、觸ま、又ハ、其椅子、机などよハ、決して、手を着くべからば、
 ○此小兎ハ、學校よて、善き生徒あり、○汝ハ、此小兎の、學校よて、書を讀むを、聞きたり、
 ○此頃、始めて、こきを聞きたり、○此小兎ハ、何の書を、讀めるや、○彼ハ、小學讀本を、讀

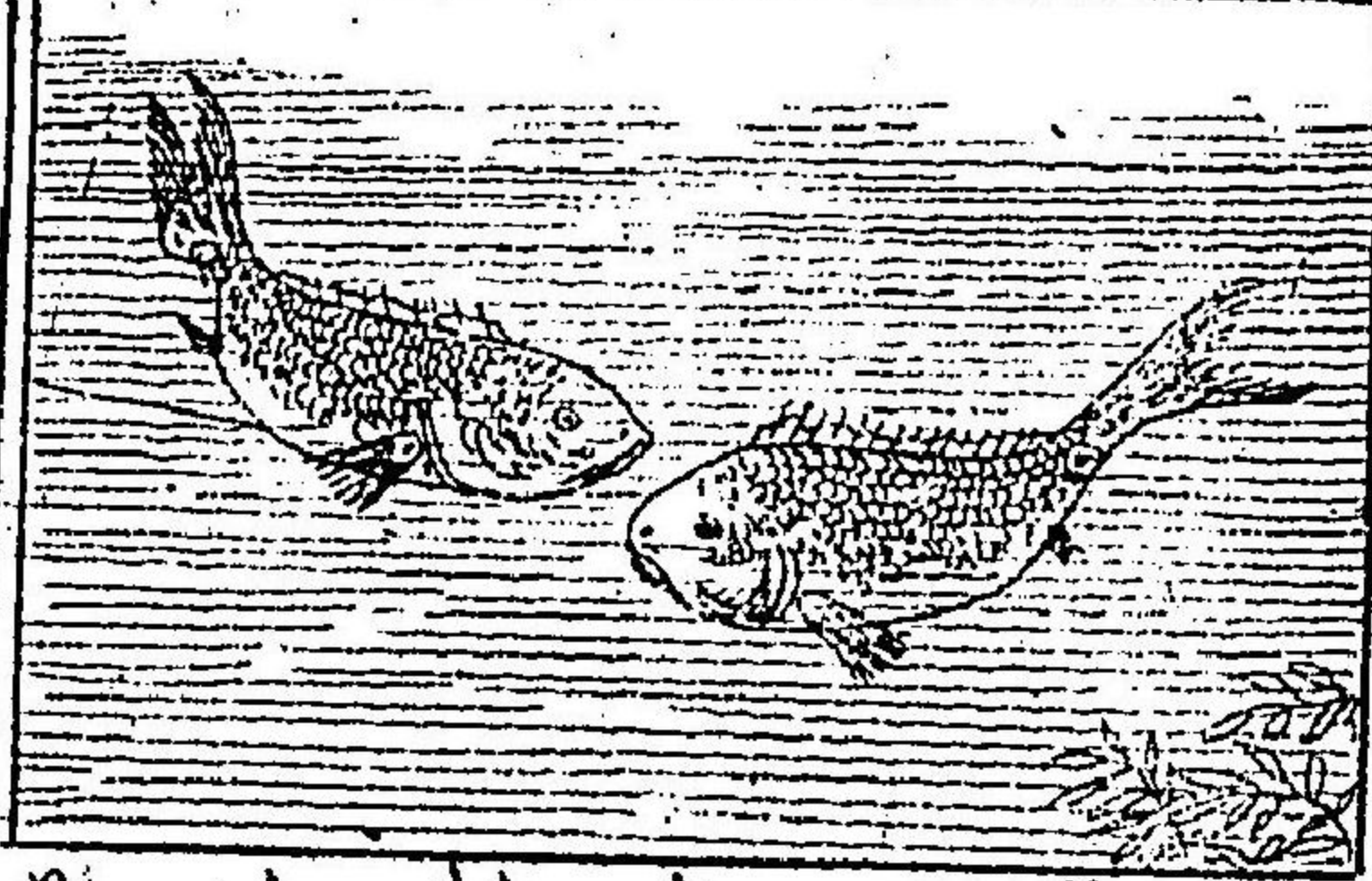
めり、○其讀む所の小學讀本ハ、何の巻ありや、○彼ハ、巻の三を讀めり、我ハ、この小兎の如く、能く書を讀むものを、好む、能く書を讀むものハ、後よハ、善き人となれば、あり、○若し、學問も、あは、智慧も、あは、いりて、善き人となることよ、得べき、善き人となることよ、得ざれば、他人よ、愛せざることよ、あは、又、貴ざることよ、あは、
 ○爰、三人の小兎あり、一人ハ、机よ向ひて、書を讀み、二人ハ、獨樂を廻り、して遊べり、獨樂を廻り、して、跳り、旋るゆゑ、机よ觸りて、其上の筆



筒を倒せり書を讀み居たる小兒の心は此二人の戲し
 遊ぶを何如し騒がしく思ひ居るあらん定めて此小兒等
 の他處へ行けんことを願ふあるべし○總て人へ自好ま
 ざることをば人も亦好まざるものと思ひ遊び戯るるにも
 決して人の妨とあるべきことをあはべり又自好む
 ことへ人も亦好むものと知りてこれをまら人も譲るべ
 しさきば古き教へよも己の欲せざる所へ人よ施はんと
 あうれといひ又己達せんと欲せば人を達せしめよとも
 云へり ○爰は遊歩に出でんとほる小兒あり○汝
 は此小兒の善きと惡しきとを知らざると雖今遊歩は出でんとするに其母は呼び
 返されて速に帰り來り否む色も

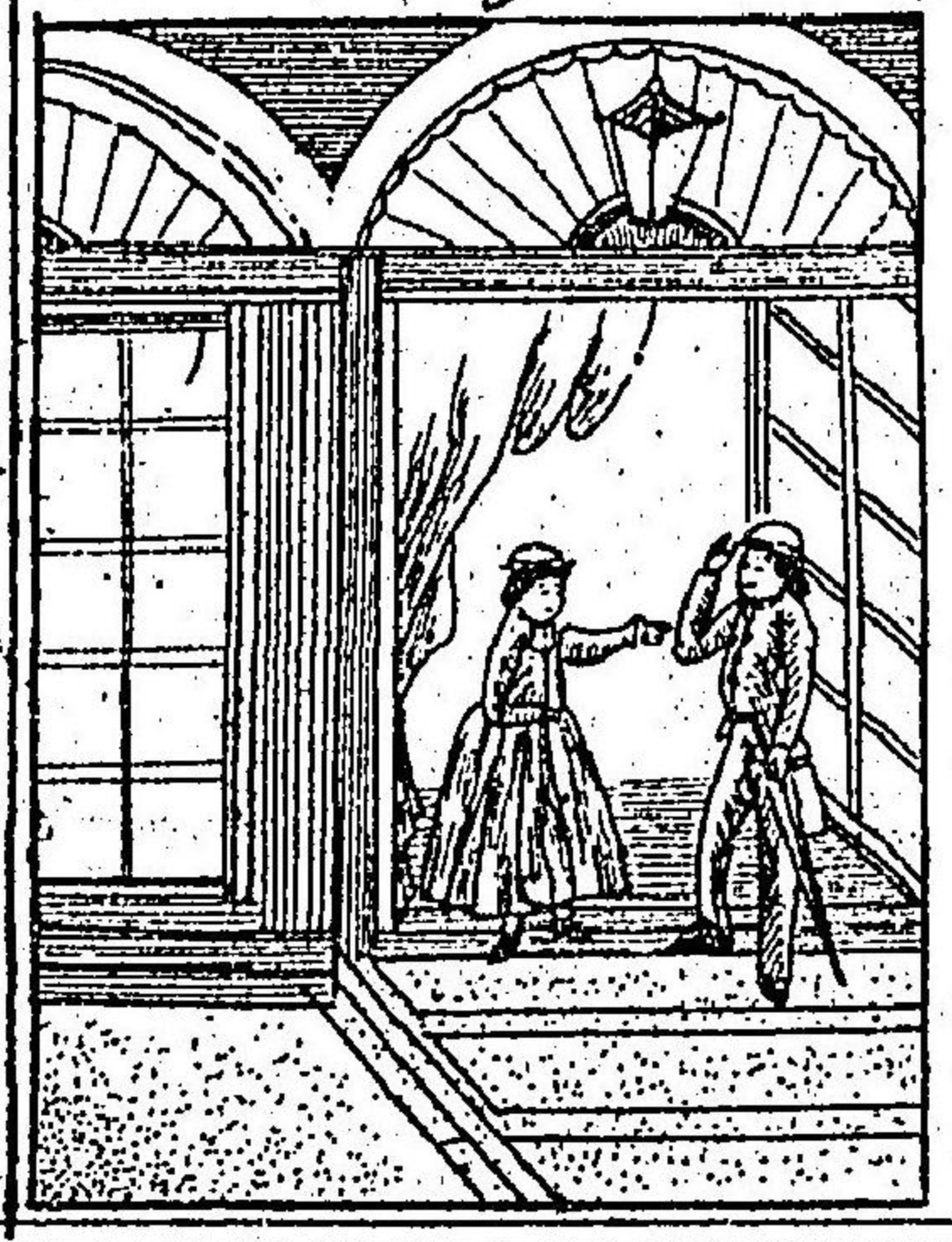


返されて速に帰り來り否む色も
 きを見れば善きものあるべし
 其母は呼び返されてことを厭
 ふ心の色は見るべし必善きも
 のはあらざると知るべし○此小兒
 へ未學校は入らざるか○此小兒
 へ五六歳は過ぎばと見ゆれば未
 學校は入らざるべし我は此小兒の學校に入りても遊
 歩の心を好まざりて勉めて書を讀み成長の後も其善き
 人たるを失はざらんことを願ふあり ○此圖は画
 ける何物ありや○こき魚あり○汝は生きたる魚を



見らるべし○常よこれを見る○汝ハ漁せしことあるべし、何を以て漁せしや○釣ツリと糸イトを以て魚イサを釣しことあり○魚ハ水中スイノウチに住むものゆゑよ水を離るハナレるときハ其命イノチを保つこと能スむ○魚イサハ、鰭ヒレと尾ビレありて自由イツフよ水中スイノウチを游泳スイヨウし、又全身ゼンシンよ鱗ウロコあり、鱗ウロコなきはり其鱗ウロコも魚イサよよりて、大小オホコナを異ヒせり○汝ハ魚イサの水中スイノウチよあるときも、其目メハよく物モノを見らると思ふ○然り水中スイノウチよてもよく物モノを見らるあり○何を以て水中スイノウチよても、能く物モノを見らることを知るや○もし水中スイノウチよても、物モノを見らることを能スはざる時トキハ、必カナラシ岩イハ石イシ

よ衝ツキき當りて、頭カビを傷キズくべし然らざるものハ、よく物モノを見らることを得ユきべしあり○人ヒトハ、水中スイノウチよても、物モノを見らることを分明ブツブツあらば、魚イサハ、水中スイノウチよても、甚シ分明ブツブツあり○そき魚イサの水中スイノウチよても、能く物モノを見らるハ、其目メ人ヒトと同ドウじうらされべしあり○魚イサハ水中スイノウチよに住スむ、人ヒトハ、空氣クキ中ナカよに住スむゆゑよ、人の空氣クキ中ナカよても、能く物モノを見らるハ、魚イサの水中スイノウチよても、能く物モノを見らるに同ドウじ ○
今この男オトコ免メハ、家イヘを辭シして、遠行トウギョウせんとして、戸カド前マエの階カハを降りたるゆゑ、其妹イモメも階カハを降りて、これを送り別ワり臨ミみて、互互よ、言コトを贈答オウカをる所トコロあり○兄ケイ曰イハレ汝ニ慎シみて、家イヘを守り能スく、



其身を保つべし、火を過つことありと、○病を生ずること
 のとと○妹ハ、吾兄、寒暑を犯すべからば、又久しく他郷に
 止まるべからばと云ふ○兄又云ふ予、彼郷に到らば、速に
 書を以て、安否を報すべし汝も、亦其安否を報す予ガ、他郷
 に在る間ハ、只汝の消息を得るを以て、樂と云ふべきの
 ○汝等此二人ハ、何如なるものと思ふや○これハ同胞の
 孤あり、孤といハ、幼稚のとき、兩親を喪ひたるものを云
 ふ○此二人、早く、兩親を喪ひたるゆゑ、今自身を立ん
 とほるあり○今此男子ハ、遠方へ行きて、幾年、妹と相見
 ることを得ばとも、文字を知りるゆゑ、互に、書簡を贈答
 して、其安否を審はることを得べし○と云ふ此二人、文字



を知らばハ、何に因りて、音信を通じることを得べき○
 汝等、此二人の事を見て、能く文字を習ひ、勉めて、書簡を作
 ることを學ぶべきあり○ ○むろ、ある家、兄弟の
 小兒あり、兄ハ、七歳にして、弟ハ、五歳あり○兄ハ、其才、最敏に
 して、心も、亦優きものあり、弟も、良き性質なれども、尚幼
 きゆゑ、未ダ世間の事を知らば、輒もそれハ、過りたる舉動
 をなすことあり○ある日、兄弟とも
 郊外に出で、遊べるに、ある家の
 離、小鳥の巢あり、親鳥ハ人の來る
 驚きて、飛び去りたり、兄弟ハ、巢の
 中を窺ひ見らば、雛三羽あり、弟ハ、悦

びて、雛を取りて、持ち歸らんと欲ふを、兄ハこれを止めて、
 親鳥の子を愛はると父母の我等を愛し給ふも同じ今、汝
 この雛を取り去らば、親鳥の悲何如あらん若、我家に入り
 來りて我等兄弟を捕へ去るものあらば、父母の悲と給ふ
 こと幾あらんまゝてや、雛ハ親鳥の養は由りて、生長を
 ものよして、今人の手はわづりふハ決して、育つことある
 べのらばされば、今この雛を取らざるこそよけきと諭しけ
 ば、弟も其理を服して、兄の教を、隨ひたり、○此弟の鳥の
 雛を取らんと欲するハ、殺生を、非ととも、其理を諭す
 れば、かくの如くまゝて無益は、殺生を、るをや ○されば
 縦ネニ、小き蟲たりとも、無益は、殺生を、べのらば、世の理を、知らざる

者ハ、小き蟲を、殺生を、以て、些細の事とせり、實ハ、些細の事
 似たりと雖、これを、殺さんと、思ふ心と、即、些細の事と、何
 らば、この心、既に、慈悲を、失ひ、とるあり、慈悲を、失ひ、とる心、
 漸長を、るに至らば、畜類を、殺生のみ、あらば、終ハ、人
 を、殺生の大悪にも、陥るべし、豈、恐るべし、けんや、○故ハ、
 殺生を、誡むるハ、慈善の人と、あるべき、階よして、終ハ、類
 まれ、ある善人と、もなり、身の幸福を、得るに至るべし

小學讀本卷之終

小學讀本卷三

田中義廉 編輯

那阿通高 校正

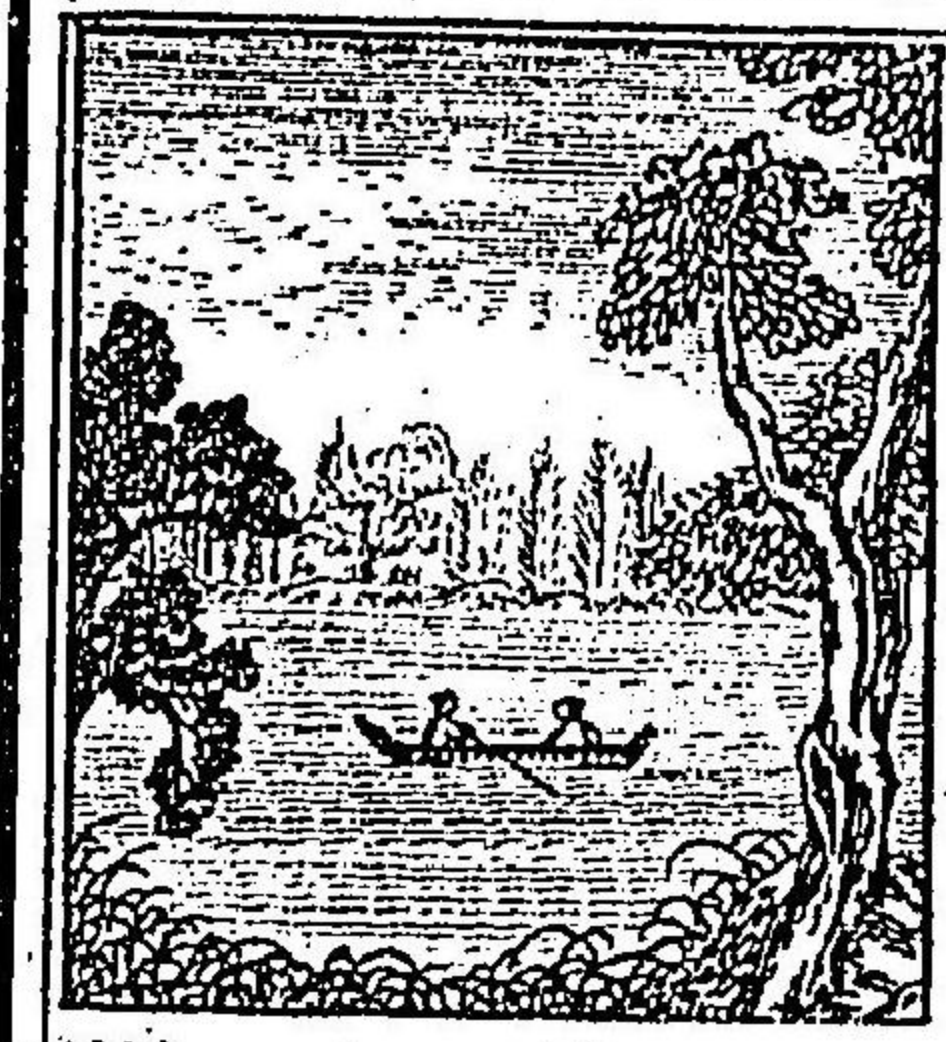
第一 水ハ、動物植物の養液ドブツシヨウツツ ヤウエキとして地球チヨウキョウ上ヨウヨウに尤モトモト要用のものあり
 水ミヅあきときハ、萬物マンブツ生育セイイクすることを得エ得トクば、○水ミヅは止水トメミヅ流水リウスイ
 の別マカあり、池水チスイ湖水コスイを止水トメミヅといひ、河水カスイを流水リウスイといふ。○湖
 水ミヅハ、陸地リクヂ全シメンく四面シメンを環メグり、中窪ナカカスなる地
 へ、停トマれるなり。○河水カスイとハ、山間サンカンの谿ケイ
 谷コウより、湧出ワキで、海ウミへ注ツクぐをいふ。○此
 圖ズハ、林中リンチュウの湖ウミあり、此水コノミヅハ、陸地リクヂ全シメンく四
 面シメンを圍カコみたるゆゑ、流れ去ナガることあり



小學讀本 卷三

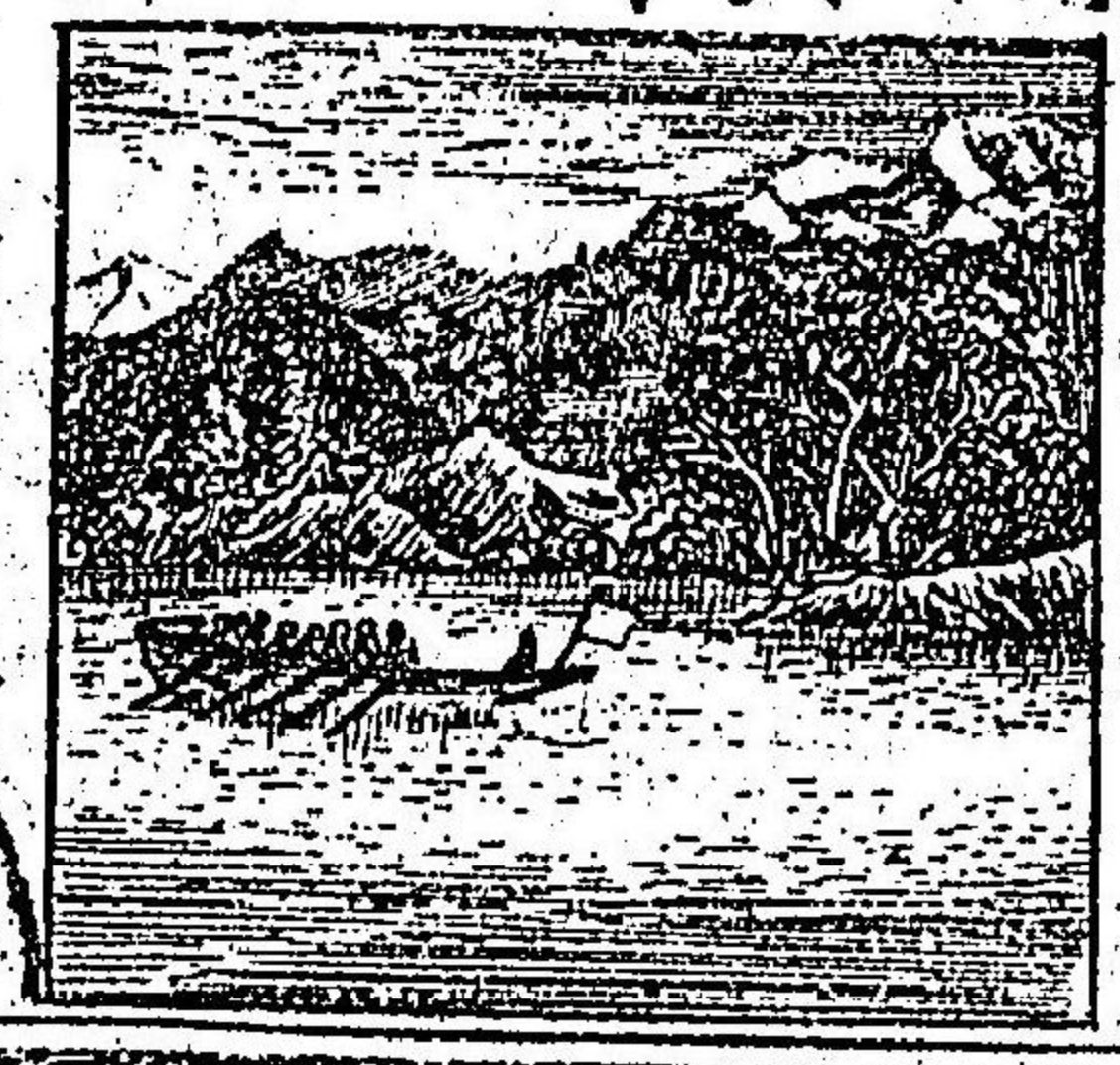
○今ハ夏日カジツよりや又冬日ボクマより木葉の茂りところを以て夏日あることを知る○冬日ハ總て木葉なきら○然り多く木葉あり唯松栢の類のみ葉あり○野草ハ冬日も生ずるら○否生をることあり

○汝ハ林中に鳥あり又水中魚ありと思ふや○必これあらん唯明も見ることを得ざるのみなり○林間ハ湛へる水上は數多の水鳥ありて游泳せり水鳥ハ閑静あるを好むものゆえ其浮べる處を景色甚幽邃なり



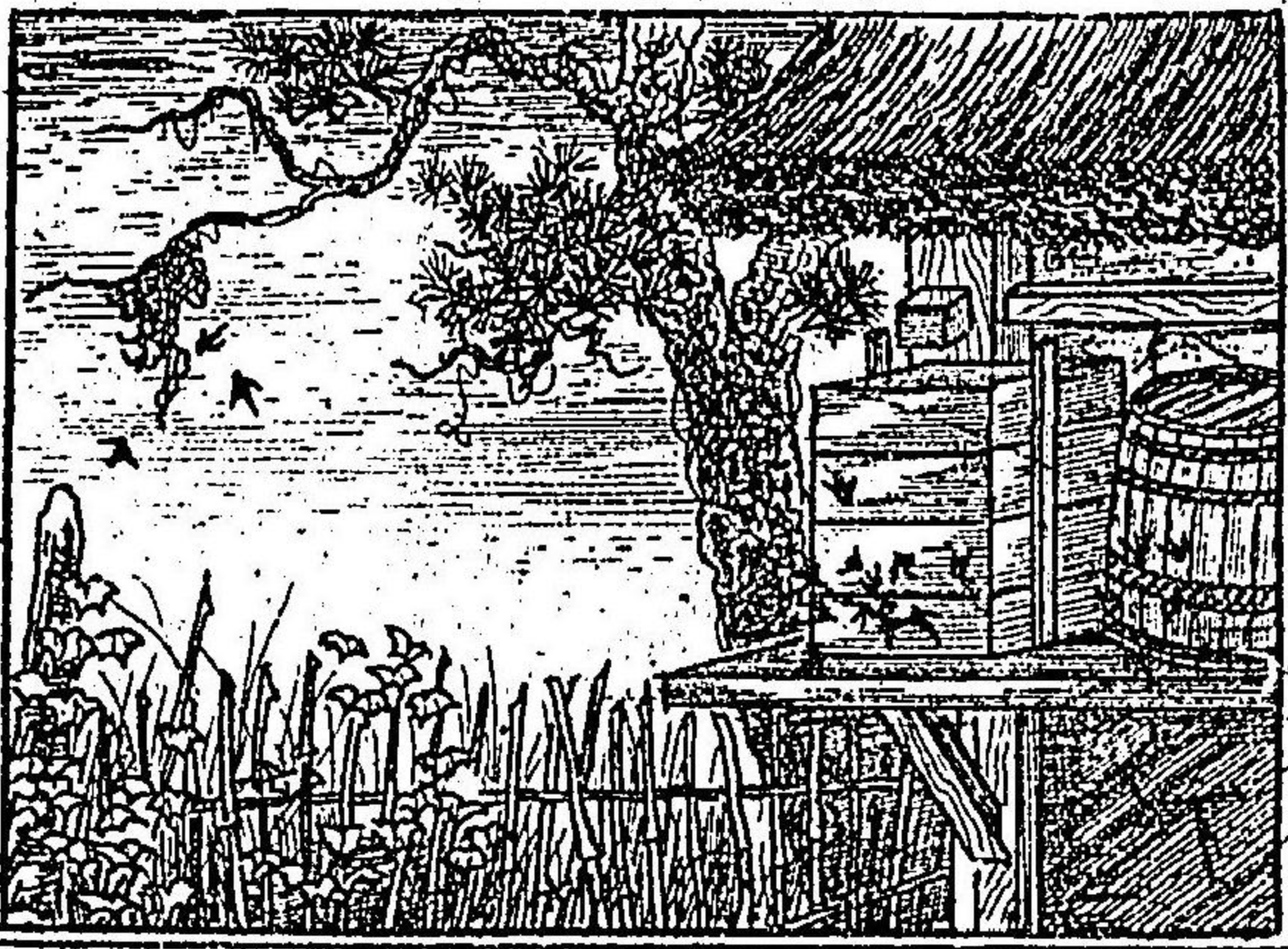
○此圖も亦林中の湖ありこれハ前も示しころ圖の湖と同じきら、然り同じ湖あれども我が見る所は因りて異なる

あり ○今湖上は浮べる舟あり舟中も多くの人を載せたりこの人の携へたる長きものハ何なりやこれハ水棹みて舟を動かす具なり○此舟ハ何れの方へ行くやこれハ左の方へ行くなり○此舟ハ前の舟と同じきら○否同トからば此舟ハ前の舟より大よして八人を載せたり○何如ふして舟を進むるや



此中六人ハ携へたる櫂を操りて舟を進むるあり○舟は櫂を操りたる人の何れの方へ行くそといふも其後の方へ行くあり舟の艫と舳は居る人ハ何を爲るぞといふも先の人ハ水前を測り後の人ハ舵を操れるあり

第二此圖ハ、蜜蜂あり、蜜蜂の蜜を巢の中ニ貯ふるを見よ、其勤實ニ容易ならんべし。○天地の間ニ生を稟けたるものハ、蟲をらも猶かくの如し、況や人と生れざる者をや。余今汝等ハ、蜜蜂の蜜を貯ふる状を、詰るべし、此蜂ハ、髮筋の如き舌あり、此舌を花の中ニ入きて、蜜を吸取るなり。○此蜂、夏の際ハ、旭の昇るを待ちて、巢の中より、飛出、種々の花を、尋ねて、其中より、刀の及ぶ限りハ、蜜を吸取りて、歸る。○其除も、何如なる暑き日にも怠らば、日々飛去りてハ、飛



回リ、夏の永き日を、一刻の時間も徒に費せしことおぼく、蜜を巢の中ニ積置ゆる冬ニ至りて、一種の花なき時にも、食料ニ乏しきことおぼく。○此蜂ハ、巢ニ母ハ、必悉力で、大ふる、蜂ありて、これを蜂の王といふ、又蜜奴とて、蜜を取らざる蜂、數頭あり、此蜜奴をハ、かの能く勤むる蜂ども、これを逐出たして、共ニ巢の中にも、棲まざるあり。○汝等も、幼時より、日々勉め勵んで、此蜂ニ恥ぢざるや、心がくべし、も怠惰にして、其業を勉めざることを、此蜜奴の如くあらば、必世間の人ニ疎まれて、遂ニハ、與ニ交るものも、あらずるべし。第三人と交るハ、眞實を以てして、決して虚言すべからば、○衆人ニ對して、親切ニ交り、言ハ必忠信を、主とせざる時

も、衆人も、亦我を愛して、其身も、自幸福を得べし」

汝ハ虚言の悪き事を知りや、○然り、虚言の悪き事ハ屢これを聞けり、○苟虚言する時ハ人皆汝を棄て、顧さるべし、○此の如くなるるときハ、何を以て、身の幸福を得べき、○自其悪きこと我知りて虚言し、ころ後ハ、汝の心ハ快きら、○否、快からば、○然らば汝の心ハ、悪きことを知りたらば、決して、これを犯さべからば、縦令人の見ざる所までも、常に父母、教師の面前と思ひて、其行狀を慎むべし、これを、獨を慎むとハ、つゝあり、○故に善良にして、正直なる鬼ハ、神の助を得て、其身の、幸福を享ること疑無し、○若又誤りて、意を破り、書を汚し、戸の鍵を失ひ、

机上に墨を、翻せる時、ふども父母、教師の前に行き、自其始末を訴て、罪を謝すべし、是唯一人を欺らざるのみならず、亦自欺らざるあり、○自欺らざらんおとき、欲せば、決して虚言をべからば、只此一事ハ、到底善人とあるべきの道あり、○人と約して、これに背くも、不善の甚きものあり、必衆人の擯斥を免き得ば、故に、一旦約したる言ハ、務て正實に行ふべし、苟信を、朋友に失つと、縦令學術に通せとも、生涯身を立つること、能わざるべし、○惡事ハ、小ありといへども、忽ちあすべのらば、其一念漸々長ざると、きは是非を



明よし、善惡を審よきること、能てざるお至るものあり、人
 として、是非、善惡の心、無き者あらざれば、常よし善よし就き、惡
 を去り、是を行ひ、非を拒き、虚言せざ、約束よし背くす、其快々
 らんことを求むべし、心まことよ快きを、意を誠よきとい
 ふ、此の如くあるとき、必衆人の敬愛を得て、神の助を蒙
 り、其身よ大なる幸福を、享るものなり」

第四夜將よし明けんとする時、雞先鳴く、夜既よし明くまば鳥
 雀鳴く、○汝も、寢所よし在りて、雀の鳴くを、聞きしや、此鳥も、
 夜明けて後、眠ることあらば、人として、鳥雀よし劣るべ
 からば、故よし鳥の聲を、聞くとさへ、直よし起き出づべし

○神ハ、晝間人々よし、日光を興へて、其業をなすよし、便あり

しむ、然るよし、夜明けて後まで、猶寢
 所よし在るむ、神の惠を棄るあり、故
 よ汝等、必夜明けぬまば、直よし起き
 出で、業よし就くべし、これ身を立つ
 るの初あり、○幼稚のものハ、夙
 よ起きて、勉強し、無益よし、時を費すことよけきば、その習性よ
 まり、壯年の後業を勉むるよし、倦怠の心を、生むることよ



し○夫神ハ、必勤むる人よし、何らされば、妄よし物を興へば、
 て、勤むまば、物を興ふるものよきハ、身の勉強ハ、幸福を生
 む、母ありと知るべし○さきバ人々、能く勉強して、身の幸
 福を、求むべし、勤むれば、必切あり、惰をむ、必切あり、今日勉

めどとも明日何りと云ふことあるき、今年學むすとも、来年何りといふことありき、光陰ハ矢の如く、一度去りてハ復還らず、壯年に至りても、一業一事を習ひ得ることあらず、遂に貧窮困苦に陥ると、皆自招く禍あり。

第五 二人の童子何り、共に野に出で、樹陰に息へり、木の地の野草灌木茂きを以て、氣候の夏なることを知る。○一人ハ、一巻の書を開きて、これを讀み、又一人ハ、坐して、其文を聴くことを喜ぶ。似たり、我、其聲を聞くがれども、今其顔色を見て、其心は喜べることを、知きり。○何よ

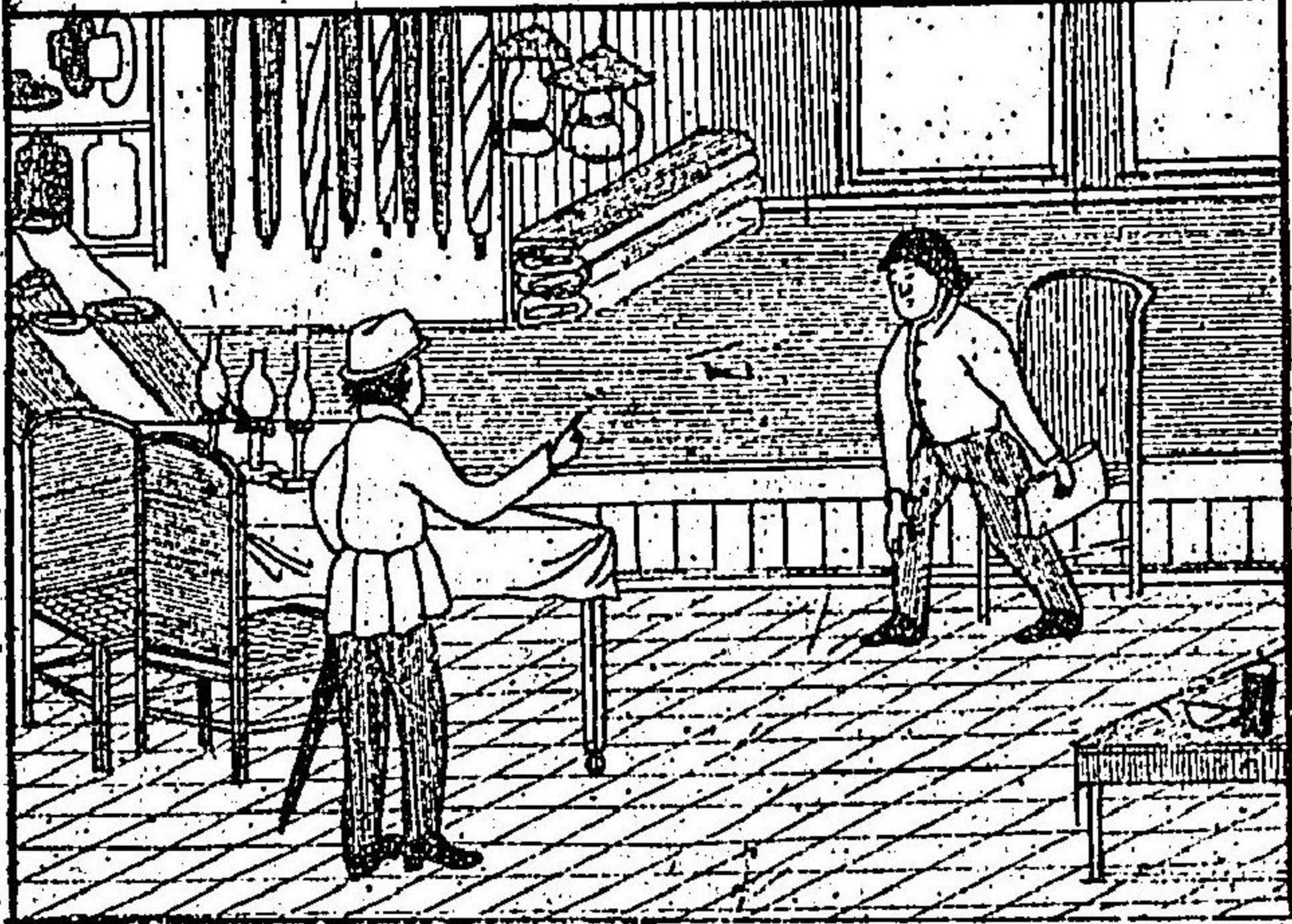


りて、喜悦の心、顔色も形をる。○微く笑へる、色ゆるを以て、其喜悦の心ゆるを、知きり。○人ハ口を開かずとも、其笑を、含めるハ、心も喜のあるを、告ぐるが如く、顔色ハ、喜怒を、人よ、知らしむる、徴あればあり。○凡、喜、怒、哀、樂の情、ゆきハ、何如も、これを、隠さんとせらるるも、顔色の徴ハ、覆ふべからば、○されハ、人よ、對してハ、不平の心を、懐くに、親切よ、遇をべし、何と、あれハ、我、心よ、毫も、怒を、ふくと、又ハ、不平の心、あきハ、必、顔色も、形ハ、るる者、あればあり、其他、或は、不幸あるとき、或ハ、倦怠せるとき、皆、其心を、顔色も、形を、て、人よ、知らしめざることあり。

第六 凡、世間ある人を、貴きも、賤きも、父母より、生まれざ

るハなリ故ニ父母ハ我身の出て來リ木あれハ木と忘る
 まふきことなり況てや養育之恩山よりも高く海よりも
 深くして幼き時より晝夜艱難苦勞して抱き育てらるる
 るをやさされハ深く其厚恩を思ひて孝順の心怠るべうら
 ず○子の父母よつねへて孝順あるハ神より命トたる務
 なればこれを忘るべうらば苟不孝の行あれハ唯よ人の
 憎を受くるのみあらば必神の責を免さざるものあり○
 神を我よ性命をさづけ又我を守りて幸福を興ふるもの
 あれども神よ代りて我を養育せしハ父母なりされハ父母
 ハ神と同トく敬ひ尊び何事も逆ふことあきを孝順とい
 ふ○苟父母の命よ逆ふことあきハ神の責を受けて禍み

懼るよより父母の誠ハまが身の及ハざる所を補ひ助く
 る所よして即神明の命ありと心得決して背くべうらば
 ○昔年一人の男子あり其人とあ
 り温順よして幼稚のときより兩
 親よ孝行たぐひあきものありき
 其家固富めるにハ何らされども
 貧乏人を憐み凡て人も交るに信
 實あるゆゑよ誰いふとあく此男
 子を善人と呼おせり幼き時ハ近
 郷の家よ僕たりと風よ起きて
 一軍一業も怠ることあく暇ある

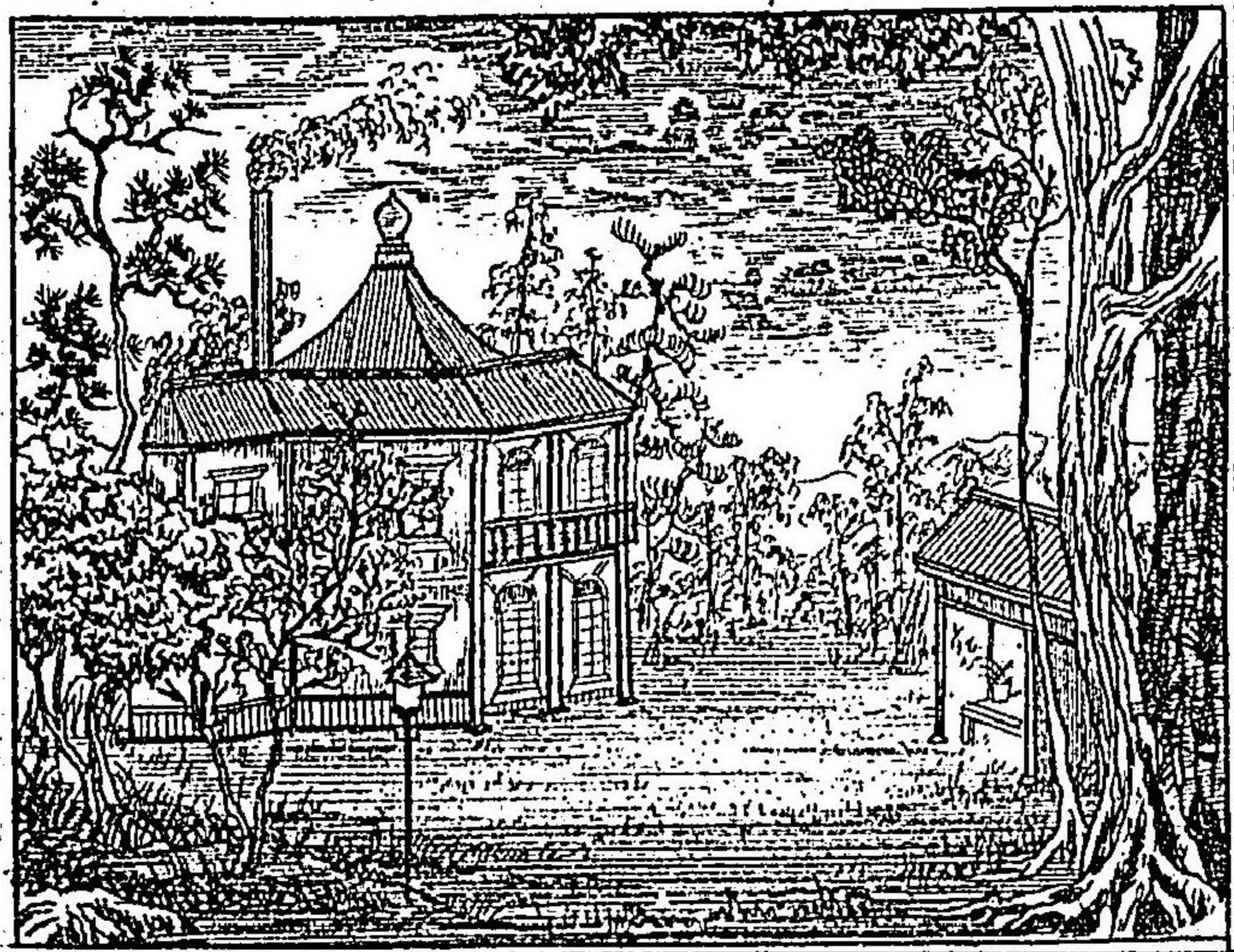


ときハ、手習ふ、心を盡し、又好きて、讀書、算術を、學び、いふ、
 幾、あらざるに、利發の、人とおきり、○主人より、暇を興ふる
 ときハ、巳の、隨意、遊ふこと、おく、必、我家、歸りて、父母の
 安否を問ひ、終日、膝下、居て、事、從ひ、父母の、心を、慰るこ
 とを、勤とせり、○主家、を出て、後、瑣細、ある、商をして、渡世
 せし、人、此、男子の、正直ある、を知て、其、物品を、信、つけ、ま、
 幾、も、おく、稍、豊、ま、あれり、○其、後、父を、喪ひて、母の、を、養ひ
 たる、が、晝夜、怠、おく、介、抱して、其、心、違ふ、こと、おく、假、も、
 母の、厭、嫌、ふ、ことを、おさ、じ、常、は、善、事、を、好、こ、て、慈、愛、の、心、禽
 獸、草、木、まで、及、び、け、ま、ま、其、家、次第、は、繁、榮、して、富、有、の、身、と
 あれり、と、ぞ、○宜、あり、孝、ハ、萬、善、の、本、と、い、へ、る、こと、此、男子

か、生涯の、正直、慈、惠、學、ば、ず、して、此、も、至、き、る、者、皆、孝、より、生
 じる、所、あり、○子、の、父、母、は、仕、へ、て、孝、順、ある、べき、ハ、天、地、自
 然、の、道、よ、して、須、臾、も、忘、る、べ、う、ら、じ、然、き、と、も、外、物、の、為、み、
 心、を、奪、を、れて、其、道、を、失、ふ、者、も、少、あ、ら、ざ、れ、ハ、常、は、其、心
 を、守、り、自、然、の、道、を、忘、る、べ、う、ら、じ、○今、日、太、平、の、世、は、生、れ
 て、妻、子、と、興、み、鼓、腹、の、樂、を、享、く、る、こと、何、の、幸、う、こ、れ、も、如
 う、ん、や、故、は、宜、しく、國、法、を、遵、守、して、各、其、業、を、勤、む、べ、し、凡
 人、の、子、と、る、もの、如、き、時、より、親、を、事、ふ、る、こと、此、男子、の、如
 く、せ、む、べ、し、ら、じ、ら、じ、

第七 此圖せる所ハ、田舎の富家あり、其四面ハ、茂林、花、木、何
 りて、窓、前、の、平、地、ハ、芝、を、裁、む、る、好、き、景、色、の、所、あり、○

汝ハこの家の圖を能く見て其
 様を知るべし。○此屋ハ、數多の
 櫺リョウみ、分ワき入り。○屋の上、突ツき
 出たるハ、烟筒エンキョウあり、これハ、煖ニ室
 爐ロの、烟を出だすため、設たる
 あり。○凡て物を見るときハ、何
 の用とることと考へ、又其形を、
 能く記憶キオクをべし。物を見るとき
 も、其用を考へず、又記憶せざる
 人ハ、終身シュウジン事を識ること、能スざるものあり。



第八 此圖ハ春日の景色あり、禽鳥キンニョウハ晴空ハクキョウニ舞マひ、蜂蝶ハチテフハ芳カ



草クサハ戯シをり。○木ハ、嫩芽ニョウダを生ハじ、
 草ハ新葉シンエフを發ハき、春るとして、緑キナンドあ
 らざるハ、あし、総ソウて天性の物、春ハハ
 至シきバ、美ミしき衣裳イシヤウを、着キくるら、如
 し。○人の少年ハ、一年中の春時ハハ
 きバ、才能サイノウの種子タネを、蒔マくときあり、
 ○少年の時ハ、精神セイシンも、充ツ満マンし、年數

も未遠ミエンけきバ、勉學ベンガクびて、生涯シヤウガの安樂アンラクを、冀望キカウし、べし。○少年
 の時、勉學ベンガクを、ざるものハ、一年の春時ハハ、種子タネを、蒔マり、ざる
 と、同ドウく、生涯シヤウガ智識チシキを開ヒくことあり。○斯コトる少年等ニハ、縱令ジュウレイ
 富貴フウキの家ノに、生ハまるとも、遂ツキよハ、必カナラ貧窮ヒンキョウと、あらん。○今世イマノヨ上ノ

富貴ある人と貧賤ある人とあり、其智識と行狀とを見
 ば、富貴ある人も、智識も、開けて、行狀も、亦正しく、皆少
 年のとき、能く勉學びたるものあり、又貧賤ある人の智識
 も、亦、行狀、正しくらば、これ皆少年のとき、勉學ハざる
 ゆゑあり、○されば人々、幼少のときより、師の教示、に従事
 して、一身一家を立つることを學ぶべし、○師傅ハ、父母よ
 替りて、兒童を訓誡し、善道に進むことを教ふるものよ、
 我身ハ、善教と學術とを授けて、我、資益をなはし、由り、父母
 よ、等しく、尊敬して、其恩を忘るべからば、

第九人ハ、萬物の靈、悉くハ、禽獸、蟲魚と異し、能く、眞直
 よ、立ちて、歩行せ、獸ハ、能く、物を見、香を嗅ぎ、聲を聞き、食を

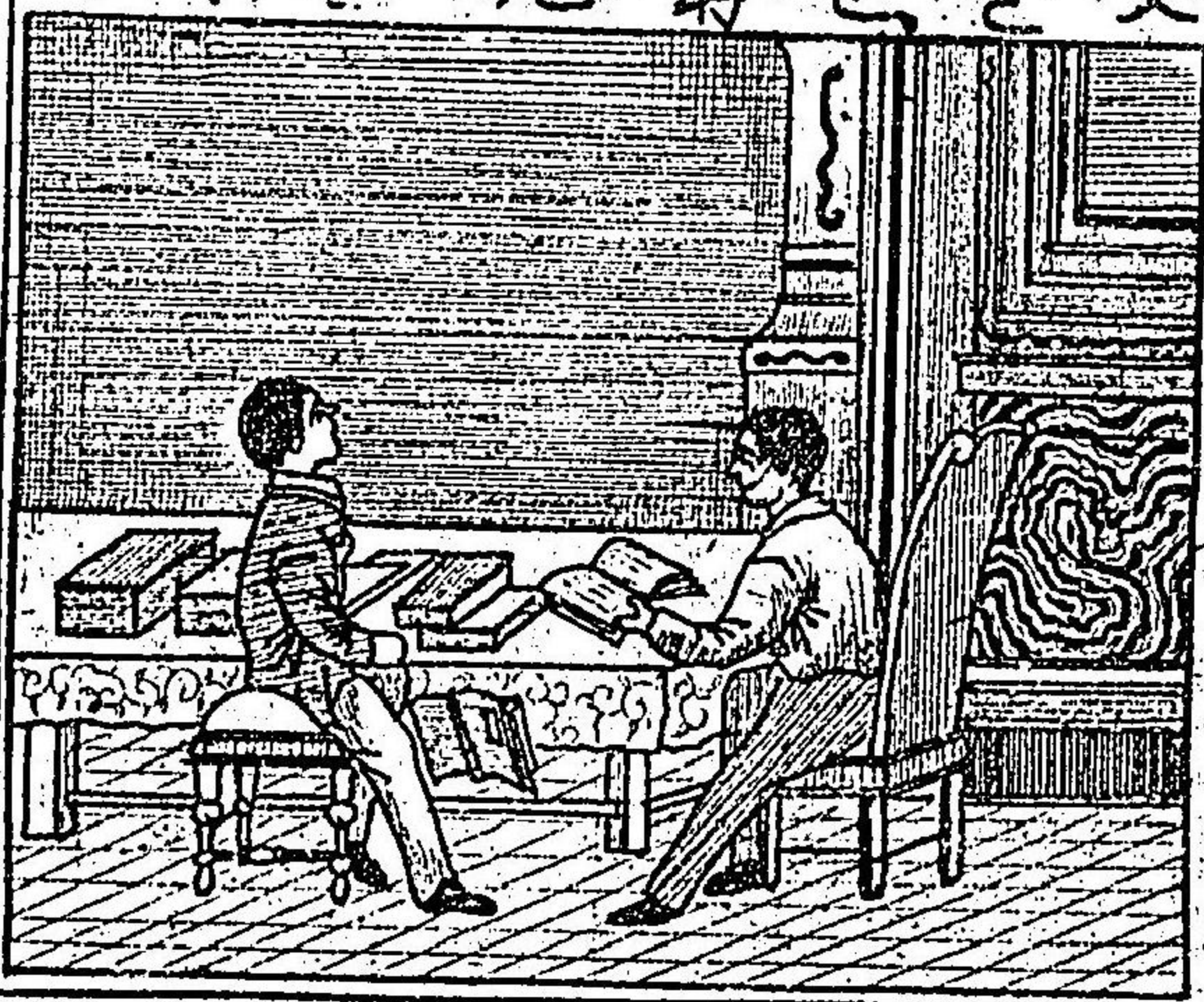
味ふるハ、人と同じと雖、其歩行をるよハ、立つこと能はず、
 又聲を發せれども、言を出だして、
 語ることを得ば、人ハ、能く言を出
 して、意中を、語ることを得、又能
 く諸物を、推考して、物理を解す、是
 共、異なる所あり、○それこの世界
 ハ、全く人の住居をる爲、神の造
 りたるものよ、世界も、即人の住
 所あり、○既ハ人の爲、此世界を
 造り、日あり、月ありて、物を照らし、
 まし、其目を、歡むらむるよハ、地上



2、芳草を生じ、梢頭シラトウは美花ビハナを開く。○人へ、食物を須スむ
 るものゆゑ、田野デノは於て、穀物を與へ、山林サンリンは於て、鳥獸チウゾクを
 與へ、河海カカイは於て、魚類を與ふ。○人も、衣服を須むるゆゑ、
 木綿キヌと、蠶サナバトを生ぜしめ、或ハ野獸ヤゾクの背セは、長き毛ウシを生じて、衣
 裳ウロコを製ツクることを得しむ。○人も、家屋ウチを造り、又諸モロの器械キカを、
 須むるゆゑ、地中チチウより、銅ドウ、鉄テツふどもを出して、これを造ら
 せむ。凡て人の、関カくべからざる物も、一として與へざる事
 あり。○人も、好音カウオンを好むとき、鳥トリ、これが為タメに歌ウタひ、芳香カウキウ
 を好むとき、花ハナ、これが為タメに薫カウじ、暑シユ日ニツは、雷雨ライウは、炎熱エンネツ
 こそ、これが為タメに去サり、寒天カンテンは、薪木シンボクは、焼ヤクきて以て、煖ナンを取
 るべし、これ皆神の賜ものにして、所として、これ有らざるハ

あり、凡此地上、及河海の萬物ハ、禽獸、蟲、魚、山林、草木の花實ハナシ
 みに至るまで、皆人を養ふる為、神の與へるものあり。○
 神既イデに此諸物を、人ヒトに與へて、足らざるものありしむ。故
 みに人々慎シヅみ、神の賜ものを受
 け、我身の生活セイカツを計ハカるべし。○然シカし
 ども、惡心アクシン、惡行アクコウの人を、此賜ものを
 受くること能スべし。生涯セイガ貧窮ヒンキウ
 あれば、其安樂アンラクを願ネガふに、必カナラ勉
 めて、善を行ふべし。

第十爰ココに、二人の童子あり、一人を
 手テに書カキを持ち、これを読み、此

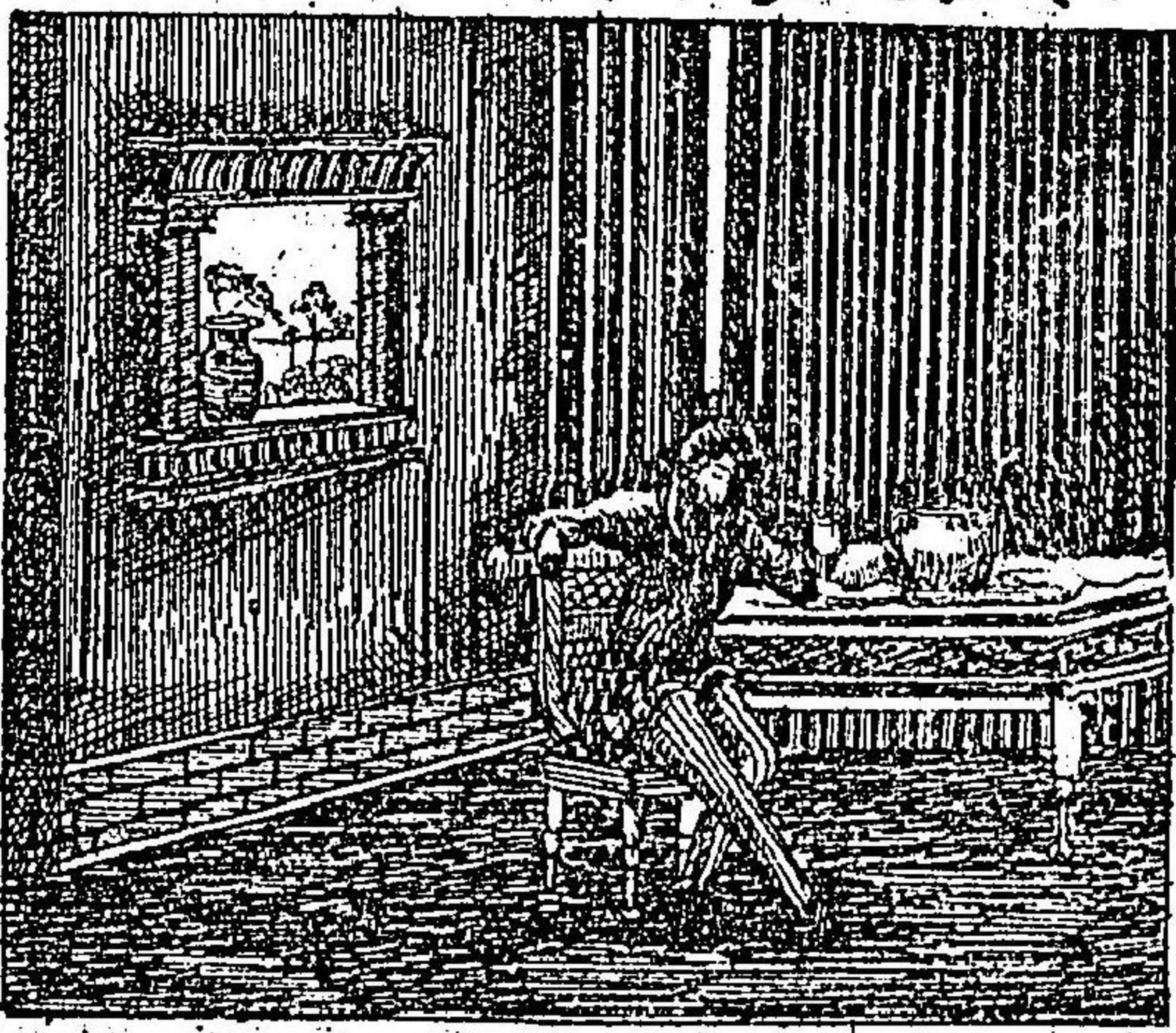


童子を勉強して、能く書を讀むと見えたり。○其書ハ、久しく用ゐるものあれども、猶新しき物の如し、因りて、此童子ハ、怠惰あらびして、又書を大切よをることを知り、○彼ハ、日々學校よ行き、小學讀本を學び、習ひ得る所の章ハ、能く諳誦して、忘るることあるべし。○今一人の童子ハ、怠惰の者ぞ見えたり、何如よとあれバ、彼が持ちたる書ハ、悉汚きまゝ所々裂け破れたるゆゑあり。○此童子を勞して、書を讀むと雖、忘きたる處、數箇條あれバ、通して讀むこと能はば、彼固書を好まざるゆゑよ、かく學びたる所を多く忘るゝあり。○汝ハ、彼の顔色を見て、書を好まざることを知りや。○彼の顔色を、怠惰あるを表せり、彼も

善良よして、能く書を讀むことを好まハ、其顔色、斯の如く見えり。○善良なる童子ハ、斯る顔色とハ、異よして、必聰敏よ見えり。○彼ハ、能く心を用おざるゆゑ、其書も、破き汚れたり、斯る懶惰のものも、遂に困窮卑賤の身とふるべし。バ、尤誠むべきことあらすや。

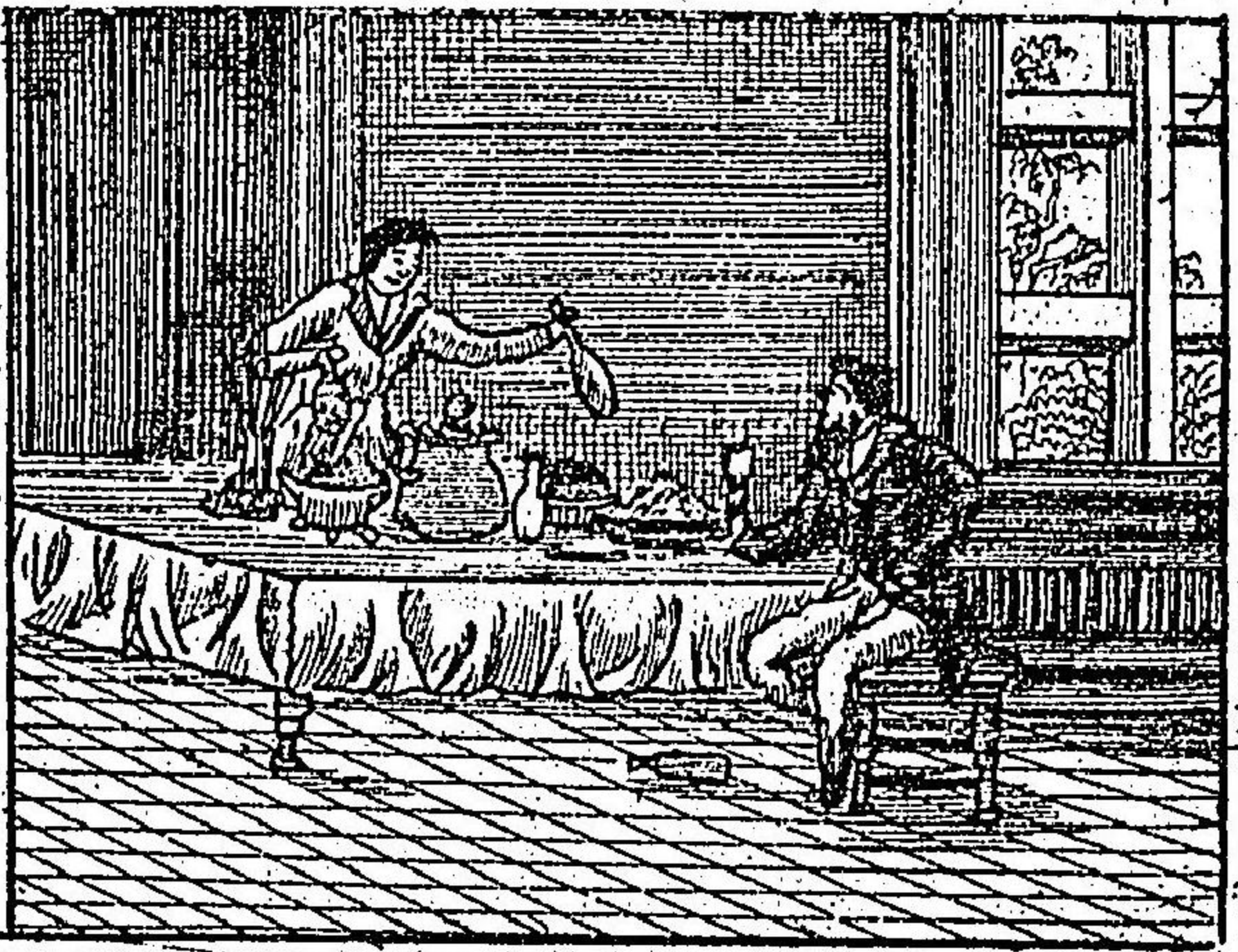
第十一 昔時一人の怠惰あるものありて、常は職業をなさば、今これを次の圖に示せり。○此ものも、幼稚のときより、怠惰あるものよて物事、勉強することなく、己が職たる業を為すこと能はば、徒に坐をるゝ、或ハ唯眠るのみ。○彼壯年よ至りても、猶少時の怠惰を、改むること、能はば故に其家貧よして、衣裳も、帽も、甚古びたり。○彼も、好き衣

裳を好まざるよりあらざれども、金あつて何如ぞ、好
 き衣裳を買ふことを得んや、又其業を務めずして何如
 ぞ、金を得べけんや、○彼へ家も妻あり○其妻を何如なる
 衣裳を着せりと思ふや、必破きと
 なる衣裳を着せらるるべし、○彼も、
 時として少りの金を得ること何
 り、されども、此金を以て、衣裳あど
 き、買ふことあく、即時に、其金を、無
 益に費せり、今その状を、次で説示
 せんべし。



第十二此圖も、即前の怠惰ものにして、今日、少りの金を得

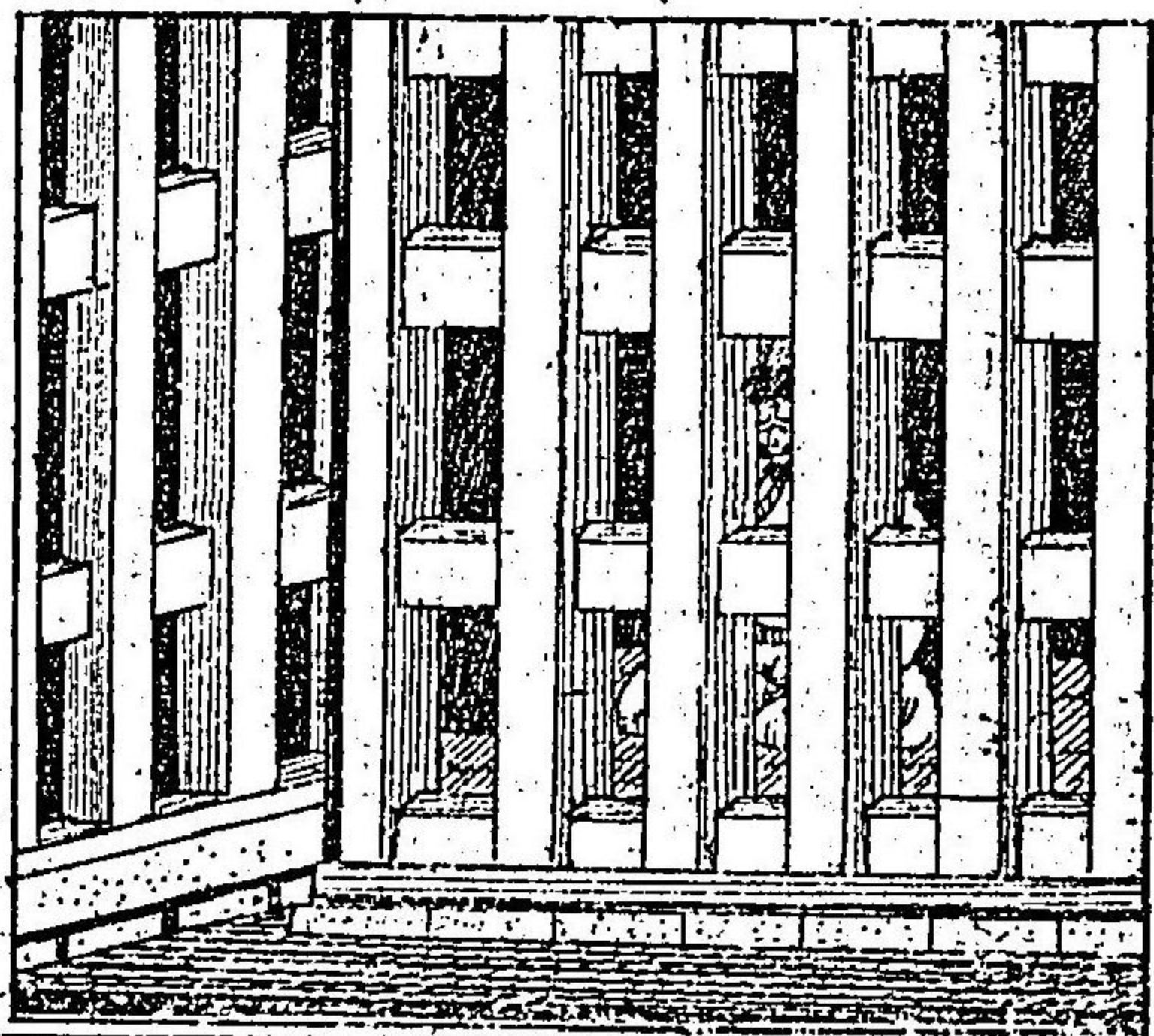
たり、されども、平生酒を好むの癖
 あるゆゑ、己の家を、歸らば、
 直に酒店へ行きたり、○彼も、甚大
 酒を以て、得ざる金の、盡るまで、
 酒を止むることあらず、○彼十分酒
 を飲むときは、其心、狂亂して、暴行
 をあし、或ハ路傍に倒きて、前後も
 知らず、眠ることあり、○是故に、時
 として、少りの金を得ることあらず、
 飲酒の為に、これを
 失ひて、衣裳等を、求むることを得ず、○此怠惰は、飲酒とハ、
 極めて悪事にして、これより、多くの悪業を生ず、凡て人も、大



飲すれば、翌日身體勞まで、職業をなすこと、能むば、職業を
 なさば、れハ、金を得ることなし、金を得ることなきハ、我
 日用の品、乏しくして、萬事不自由なり、故、或、惡き道
 によつて、金を得んことを、願ひ、屢人を欺く、至るものあり、
 ○されハ平生、戒むべきハ、怠惰と、飲酒あり、

第十三 既、前、示、し、る、怠、惰、人、ハ、飲、酒、す、る、こ、と、益、止、ま、ら、
 ず、毫、も、職、業、を、な、す、こ、と、な、し、稀、ハ、職、業、を、な、さ、ん、と、思
 ふ、心、の、生、む、る、こ、と、も、幼、少、よ、り、懶、惰、ハ、慣、と、る、身
 ゆ、ゑ、其、身、を、も、我、心、は、従、ハ、し、む、る、こ、と、能、む、ば、日、々
 慢、遊、を、事、と、し、て、一、錢、を、も、得、る、こ、と、な、し、○然、れ、ど、も、飲、酒
 の、心、を、止、む、る、こ、と、を、得、ば、何、如、も、し、て、金、を、得、て、飲、酒、せ

んと思ふ、一念増長して、終、惡意を生ず、夜々、近傍の家、
 忍入り、金銀を盗取りて、飲酒の料とあせり、○斯る惡業を
 あして、發露せざることを無けきハ、遂に捕たれて、獄中、繫
 らせたり、○此人ハ、斯く獄中に入
 りて、藁の上、居るを以て、今日、
 至りてハ、ま、一滴の酒をも、得る
 こと能むば、只一人、暗き處、
 坐せ絶て心を慰むるものあり、○
 既、惡事を犯したきハ、今更悔悟
 せといへとも、身を救ふの術なく
 して、終、獄中、死せり、○家ハ、妻と、小あり、其妻ハ、何如



よして、身を養ひ、又小兒を育つるや、其次第八、次條に説示
せべし

第十四 此獄中、死したる人の妻ハ、貧き家ありて、小兒
を育てんとすれども、かねて、一錢の貯蓄もあらず、又其夫ハ、
惡事をあして、獄中、死する程の者あれば、村里の人々、こ
れを憐み、助くるものあらず、此故に妻ハ、他人の衣裳などを、
洗ひ、僅に其日の活計をなせども、素より女のことゆゑ、多
分の金を得ること能はず、動もせられハ、其小兒を餓死せしむ
ることあるを、如何ともすべきやうなく、日夜悲歎して、
居たりしが、終にハ、其家も、住み難くありて、小兒を携へ、
故郷を立ち去り、○それ酒ハ、能く人を昏迷せしめ、亦人

を、狂亂せしむ○人の困難をるも、
人の悲歎をるも、人の爭論するも、
又無益の言を出たをも、道理なき
事を行ふも、皆酒のまさしむる、惡
業なり

第十五 此圖ハ、田舎の景色あり、い

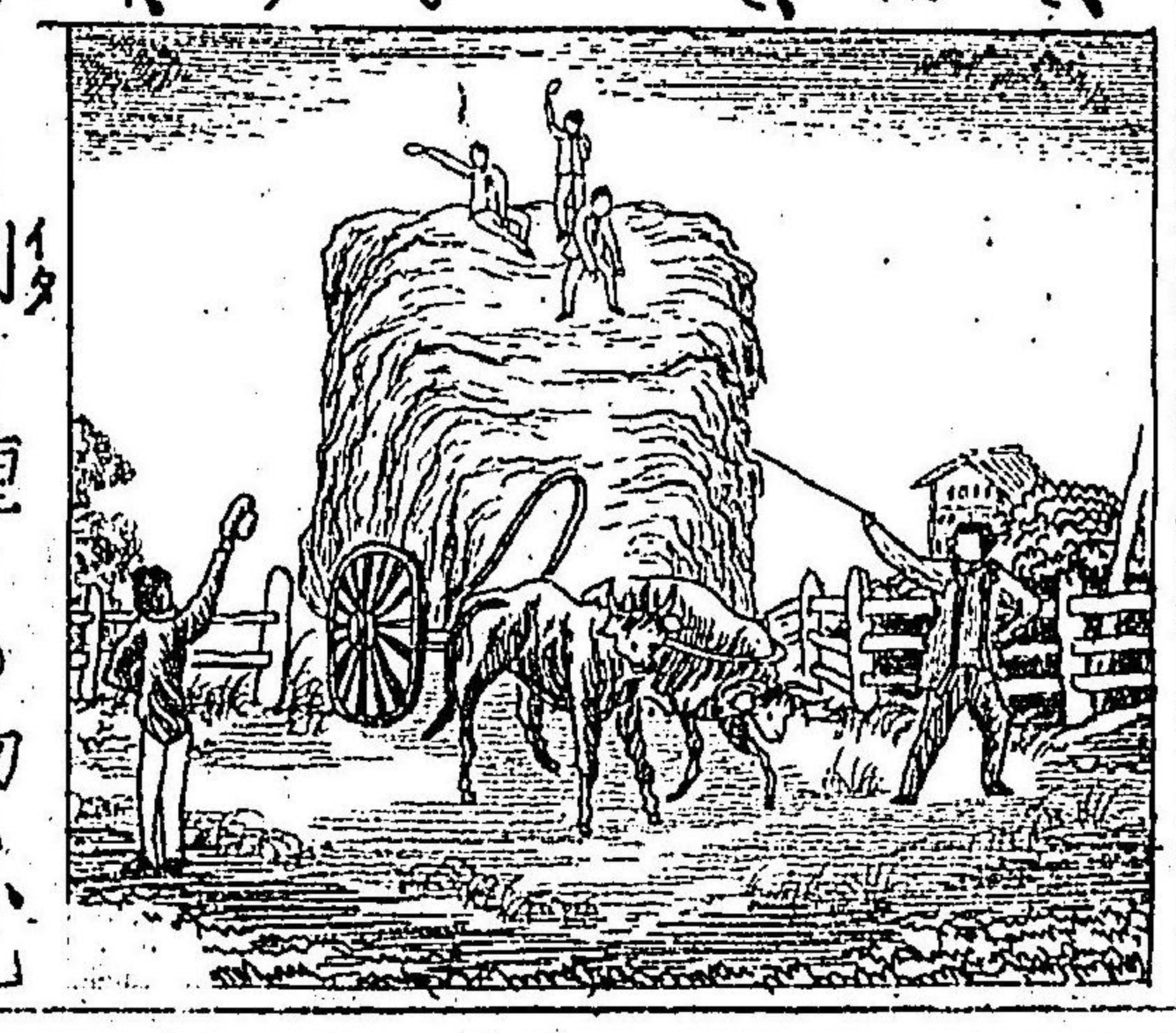


ま畠より、穀物を積みたる、車を、挽きて歸り、家の門に入ら
んとす。○汝ハ、此穀物を、何ありと思ふや。○これハ、小麥な
り、此穀物も、日よ乾く、穗を打ち落し、實と、葉とを別つ。○
其のち、磨いて、これを挽き、小麥粉と為し、各家に貯ふ。○此
小麥粉ハ、餛飩、素麵等を製するに、用ゐるものなり。○麥の

種類ハ、小麥、標麥、大麥、苧、是等と、
稻、豆、稗、粟等を悉穀物といふ、穀物
も皆動物の食と為して、身の養と
あるものあり、

第十六爰、一人の男あり、其子
兄弟二人を集めて、種々の珍
き話を聞かすむ。○父曰、子前年

此世界を一周せしとき、数多の國々よ到り、種々の物を見
たり、一度甚しき寒國よ到ることあり、三個月の間、日
光を見ることなく、其間ハ、常に夜あり、此國の住民ハ、雪又
ハ氷を以て、家を造り、人も皆其内に住めり、○兄弟曰、斯る國



も、何處よありや、○父曰、此國ハ、地球の南極と北極とよ近
き處よあり、○父曰、予、其國よ於て、一の高山を見たり、其頂
上ハ、甚高くして、甚寒し、頂上
よゆる雪ハ、たえて融くるこ
となく、人も、此山よ登ると
さハ、其頂上よ達せざる前よ、
凍死を、○兄弟曰、大陽ハ、何ゆ
ゑよ、其雪を融かさざるや、又
其處よ夏ハ、ゆるざるや、○父曰、
其國ハ、夏といへども、我國の
寒中より、尚寒し、又頂より、火



を噴き出さず高山ありて、噴き出づる烟ハ恰も烟筒の烟のご
 とし、予其烟を見り、我家の烟筒を集めて、一萬以上、至
 らざれば、わづらふ烟りハ、出でざるべしと思へり。○此父の詰
 も、甚大なることなれども、決して虚言にあらざれば、眞實の詰
 あり。○父又曰、予、大海を渡るとき、漁師の捕へたる鯨を見
 たり、此鯨ハ、殊に大なるものなり、て、長さ凡十間餘ありて、
 體の高さ、三間餘あり、數多の漁師も、鯨の脇腹に穴を穿ち、
 臍中に入り、桶を擔ひて、其膏を汲み出だせり。○其他、大
 る獸類を數多見たりと、云へり、兄弟の兒ハ、喜びて、父の詰
 を聽き居たり。○凡て小兒ハ、謹て、父母の詰を聽くべし。○
 それ父母の言も、我身は益ありて、智識を増し、道理は適ふ

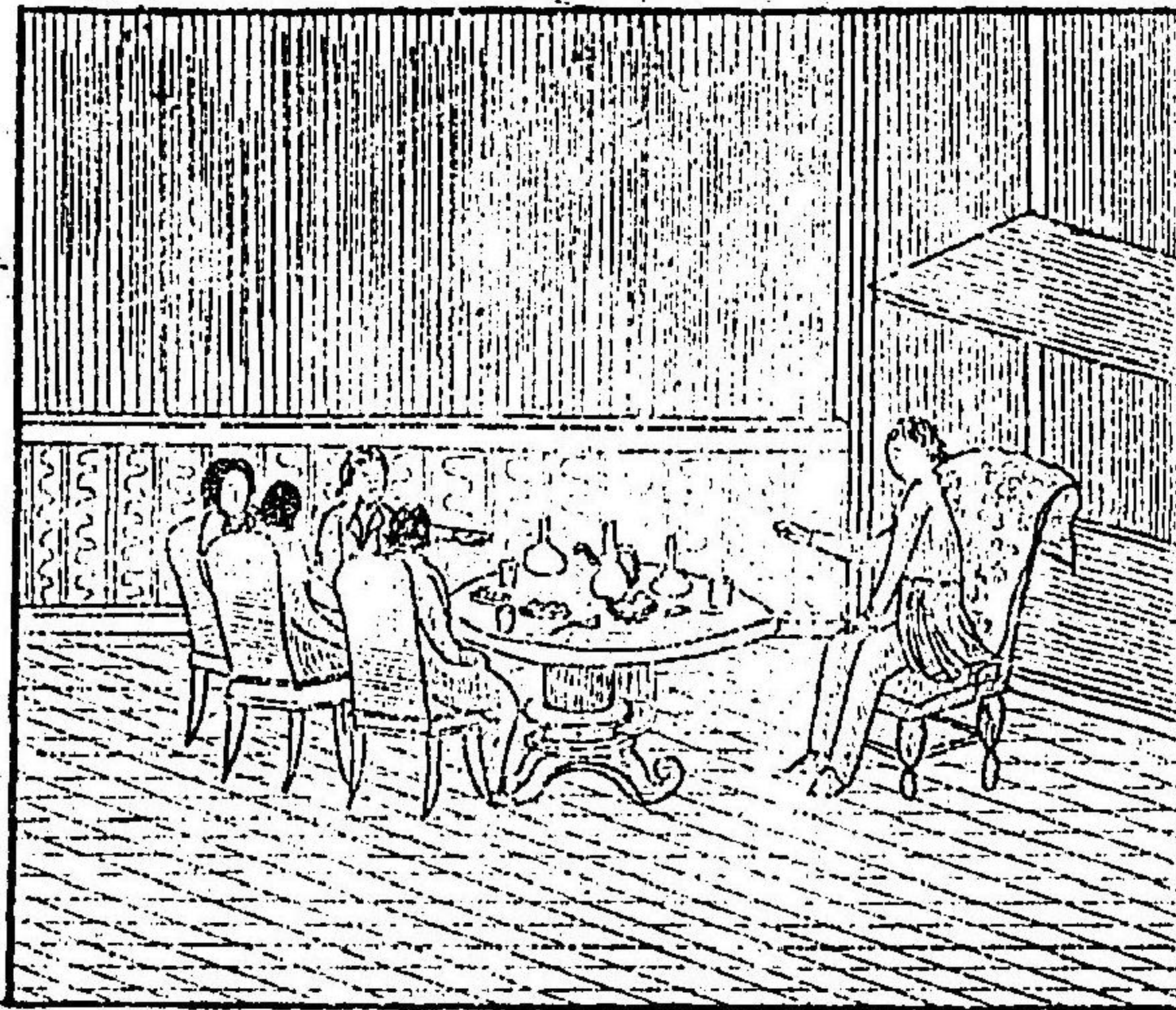
ものなれば、予たるものハ、柔順よりて其教は、順ふべし。これ
 身を立つるの基あり。○父母ハ、我を育て、年も長し、智惠
 も優まれば、其教は順ふことハ、もとより、て、親の訓誡
 も、國の制律と同じく、敬と畏きて、假し、これ皆くべらば、
 第十七 一女兒池上ハ、小き舟を、浮べたり、其舟の帆ハ、只一
 張あり、女兒ハ、此舟ハ、結付けたる、長き紐を操き、これ舟
 の、遠く流るとも、失もざる為あり。○此女兒の、浮べたる舟
 ハ、一本の檣あるゆゑ、おれを、スループと云ふ。○凡舟の
 檣も、帆を、限り、風を受けて、舟を行るものあり、大海ハ、浮ぶ
 る、大船も、同し、理あり、又一男兒も、小き舟を、持ちて、こまを、
 池上ハ、浮べんと、この舟ハ、二本の檣あり、これを、スター

ネルと云ふ、もし三本の櫓あるときハ、こきを、シツプと云
 ふあり○凡て斯の如き舟を、帆前
 船といふ、帆を張りて、行るゆゑあ
 り、帆も、麻の厚き織物にて、造るあ
 り、○船中にて、人の、むらうく處を、
 甲板といふ、○船の首を、艫といひ、
 船の後を、舳といひ、右の舳を、面楫
 といひ、左の舳を、取楫といふ、○船
 後、突き出で、水中に、入りたる
 ものを、舵といふ、舵ハ、船の行くべき、方角を、定むるものあり、
 第十八神も、此地球を造り、人民の生活する爲に用ゐる物



をバ、皆此地球上に、生せしむれば、人々、其道を盡して、こき
 を求むるときハ、何物にて、得ざることあり、然るときハ、人
 々の善悪と、勤怠と、因りて、物を得ると、得ざるとあり、且
 又人の務に従ひ、物を得るよ、差等あり、○今遊戯のみ、耽
 りて、少しも、心を他事に用ゐざれば、此地球ハ、徒に遊戯の
 場所とあるのみ、又財を蓄るよのと、勞して、心を他事に、用
 ゐざれば、此地球ハ、只財を積むの場所とあるのみ、○もし
 風車等の、機關を設けて、世間、利あることを、計るときハ、
 この地球ハ、種々の機關を、設くべき、場所とあきり、○人々、
 能く心を用いて、世間、利あることを、計るべし、世間、利
 ある時ハ、亦必、我身に利あるものあり、此の如きときハ、此

地球を生じたる神慮シクリヨも、合ふといふべし、
 の圖を畫けるハ、富人、多くの貨幣を出だして、衆人カクを、示き、衆人、これをみて、大に感カンしたる所あり、蓋ケシコトモカラ此輩ハ、斯る多くの貨幣を得たることなきゆゑあり、○此富人ハ、嘗て學校に入り、多年の間勉強して、百般ヒョウバンの學術を覚え、先き、種々の機關を發明し、大に、世上、利益あることを、工夫し、今又其身も、大利を得て、斯る富人となりたるあり、○富人、衆人カクに、告げて曰、夫



の地球ハ、大活物ダイカクブツにして、勉ツメむきハ、必其報あらざることを、人能く勉めて、世は益あることを、工夫するは、苦勞する時ハ、其報も、必大にして、利を得ること、多きものあり、骨折ホネカサきざる業を為し、或ハ只一身は利あることを、勉むまハ、其報必小にして、利を得ること、亦少し、予も、多年の間、刻苦して、纔ツツカに利を得られども、今に至りて、猶無益な時を費やせしことあり、亦無益な財を費やすことあり、固自勉て、得たる貨あるハ、皆我有にして、これを費やせし、隨意あり、雖無益な費やすハ、正道ありば、若美服ビツクを以て、人な驕カウり、又僅の貨幣を得るときハ、心は、怠を生じらるハ、實は愚にして、且不善あり、○貨幣の、最要用あるハ、衣服、食糧シヨリヤウを購ひ、

或これを貧人^ニ與へて、其饑餓凍餒^{キカトウタイ}を救ふ^ニあり。○貨幣を得て、これを惜み貯へ、世間の用^ニ供へば、又貧人^ニも、與ふる^ニこと多く、又我富を以て他人^ニ驕る^ニ多し、愚^ニして、吝^ニ多しものなり。人^ニも必、これを惜み、神^ニも必、これを罰せん。○それ貨幣ハ、用^ニある道^ニ由り、善きものとあり、又惡きものとある。故^ニ、道の當否^ニ、從^ニひ利害^ニとも、此貨より、起るものあり。○故^ニは怠惰^ニして、貧賤^ニあるハ實^ニは恥づべきこととあれども、貨の^ニ多きを愛着^ニするも、害の根原^ニなり、人々出精して、其業を勉め、其富を計る^ニべし、既^ニは富める^ニに至らば、これを世間の用^ニ供へて、貧人を救ふ^ニを第一^ニとせべし。

第十九 平生^{マカ}斷えず、業を勉むるハ、樂しむる^ニ也、又斷えず、遊

戯^ニを、事とするも、樂しからば、故^ニ、就業^{ジュウゲク}の時間^ニを、出精^{シュセイ}して、業を勵^ニ然る後^ニは、出遊^{シュユウ}する時^ニハ、その樂を覺ゆるものあり。○就業中^ニは、出精せざる^ニときハ、其心^ニ、恥を懷きて、快からば、行の善良^ニあるハ、心の快きを得る、良法^{リョウホウ}あり、怠惰^{タイダ}あるものハ、心の快きことあり、何とあれ、其行状^ニの不善^ニあるゆゑ^ニ、恥づる所^ニあり。○一事を成さんとせば、必其心を放つ^ニこと多く、一時^ニはこれを爲べし、或、事業多^ニして、力^ニは餘ることありとも、怠慢^{タイマン}あり、これを勉むれば、必其効ありて能く成就^{ジュウジツ}し、故^ニは勉むる^ニは、何事も易く、勉めざれば、何事も難し。○書を讀まんとする^ニときハ、如何^ニは難き所よても、これを止め、勉強^{ケンケン}して得る所^ニあり、あらざれば、

他事を爲ごとまりし、綴令力に餘る、簡條よても、餘念ヨネンなく、勉強するとき、これを、理會リウイせらるるものあり、○苦みければ、樂あらば、勉強の後、非ざれば、遊歩も、樂あらば、故、書を讀む時、其文を、理解リカイして、後、遊歩すべし、業をおすとき、其業を、成就したる後、休息キウシツをべし、然るとき、心は、恥づることおきを以て、遊歩も、身の攝生セツセイとあるものあり、○抑恥ヨクチへ人心は、於て、感動カンドウの、大なるものあり、恥を知るべき、人々、怠慢タイマン放肆フサイすることおし、平生、事を行ひ、業を勉むるに、方りて、我心は、恥づることおらんことを、欲するに、身を守るの要務ヨウムあり、今業を勉めて、就らば、書を學びて、通ぜざるも、大なる恥あり、もしこの、恥を知りて、出精勉

強するとき、業の就らざることおし、書の通ぜざることおし、○人の世は、生れ來りも、天テン江カウを助けて、國用を資るものあり、何等の業も、勉めば、國家の益をおさるるものあり、自禍を招きて、困窮に陥るべし、此等も、天は、恥ぢ、人は、恥ぢ、又、我心は、恥づること、大なり、○神は、妄は、幸福を興へ、人を、自これを取り、むるものあれば、唯、恥を知りて、能く、勉強する者の、幸福を得、恥を知らざるもの、幸福を得ること、能はざるものと知るべし

第二十禮、教化キョウカの本よして、人民の惡念を、止め、善心を、闡き、人道を、離れしめざるものあれば、須臾も、違ふべからざるものあり、○人性へ、本善あるを以て、辭讓ジヤウの心を、有せざ

るものあり、然れども人欲の私より由りて、本然の性を失ひ、遂に放肆遊惰のものとなるあり。○人々、幼稚の時より、人欲の私より克ちて、本然の性は復るべし、父母より事ふるとき、孝養ふるべく、長上より事ふるとき、恭敬ふるべく、兄弟、親族の友愛も、朋友の信義も、親族の協和も、皆禮より生ずるものゆゑ、禮を身を立てるの本ありと知るべし。○貪欲の念を肆はせむることあり、忿怒の心を殺することあり、貪欲の念、まじりて忿怒の心あるとき、事を行ひ、業を務むるに當りて、正路を得ること、能はざるものあり。○その貪欲を、私情の惑よりして、此念を肆はせむるとき、遂に殘暴の行をふるに至る。又忿怒も、一時の狂疾よりして、此心を抑へざる

るとき、遂に争鬪の端を開くに至る。必竟、皆幼稚のときより、辭讓の心を失ふよきなり。○古語に、謙へ、益を受く。満へ、損を招くといへり。終日、業を務むれば、心中は爽快を覺え、今日遊怠ふれば、翌日繁忙の愁あり。古語に、まじりて終身道を讓るとも、百歩を枉げば、終身畔を讓るとも。一段を失ふべしといへり。是禮讓の得ありて、損なきを論せるものあり。

第二十一 昔、一人の童子あり、天性至孝よりして、善く其母に事へ、毫も其命を違ふことなき。母事を命ぜらる毎、直ち立ちて、これを行ひ、常に怠らば、○母嘗て紡絲を繰りて、絲環を、紆ふことあり、其子より命じて、紡絲を、手は掛けしむ。童子も、絲を紆ふるの間過ちて、これを紛亂し、解けざるゆゑ、急

よ、これを解くんとせりよ却りて、緒を失へり、○童子既よ
して、一の緒を求め得るゆるゆる頻よ、これを引けば、益固
結して、復解くべからざるよ至る、因りて、更よ狼狽して、一



人世の業を教むるハ、猶亂きるる絲を理むるガ如シ、是よ

線を断せり、母、これを止めて曰、
汝過きり、此の如くする時ハ、適
よ其紛亂を、益々のみ暫、汝グ心
を静め、思を平よして、正き緒を
求むべし、既よ、正き緒を得まば、
亂きるる絲ハ、自解くるものな
りと、○母又童子よ、告げて曰、夫

監^{カニ}之^ニ宜^シしく汝^ニの終身^{シウシン}を計^{ハカ}るべし、世^ニは處^ニ事^ニ臨^シて、苟^{シヨウ}
私^{シヨウ}欲^{ヨク}忿怒^{フンダツ}よ惑^{マダシ}ひ己^ニの血氣^{ケツキ}を、抑^{オシ}へされば、縦^{タテ}令^シ苦心^{クシン}焦思^{シウシ}
て、其力を盡^{ツク}せとも、徒^{タダ}勞^{ラウ}して、功^{コウ}なきのみと、

小學讀本卷四

田中義廉 編輯

那珂通高 校正

第一 人民人住居スル世界ヲ地球ト云フ其形ハ圓キ者ナリ、
 何ニ由リテ其圓キコトヲ知ルヤ玉ヲ燈火ニ照セハ其影ノ映ルコト、
 玉ト同ジク圓シ、箱ヲ燈火ニ照セバ其影ノ映ルコト、
 箱ト同ジク方ナリ、今月蝕ハ太陽ニ照サレタル地球ノ影ノ入月ニ映リタルモノナレハ若地球方ナラハ其影必籍ノ如ク方ナルベキニ其蝕シテ暗キ處ハ常ニ玉ノ如ク圓キヲ以テコレヲ推セバ地球ノ形モ圓キコトヲ知ルベシ。○此地球ハ諸ノ行星ト同ジク太陽ヲ回リテ光ト

小學讀本 卷四

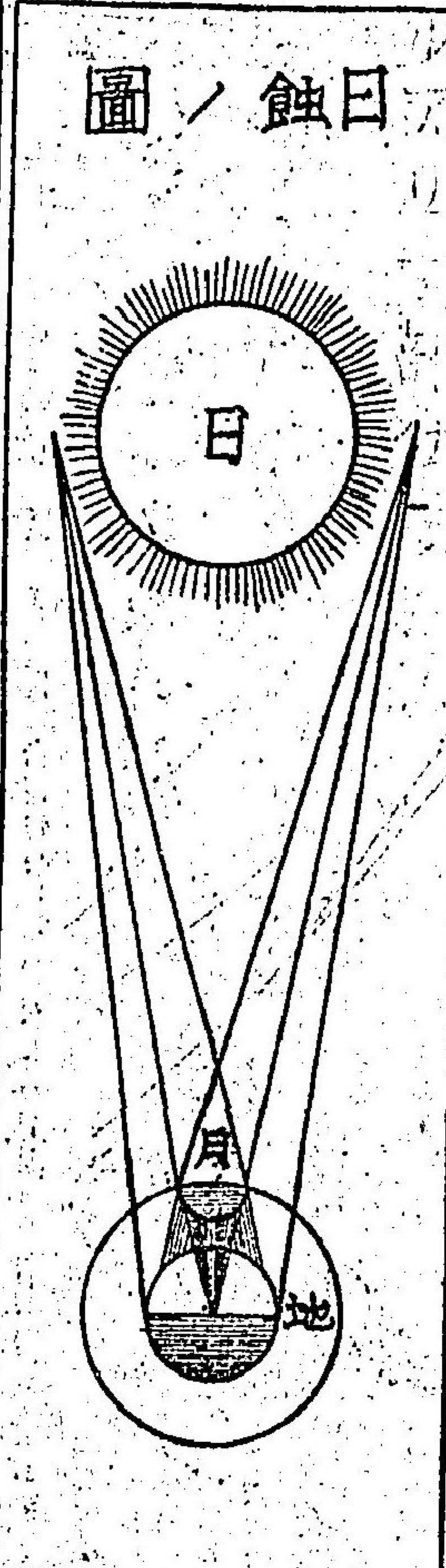
熱トチ大陽ヨリ受ク○此地球ヲ照ス月ハ地球ニ隨ノ所ハ
 衛星ニシテ光ヲ大陽ヨリ受ク二十七日七時四十三分二
 シテ地球ヲ一周回ス○地球ハ大虚ノ間ヲ行クコト三百
 六十五日五時四十九分ニシテ大陽ヲ一周回ス其回ル間
 一晝夜ニ別ニ自一旋轉ス其轉スル毎ニ大陽ニ向ヒタル處
 ハ晝トナリ大陽ニ背キタル處ハ夜トナルナリ○地球ノ
 周圍ニハ一面ニ星アリト雖晝ノ間ハ大陽ノ光ニ棄ハル
 ヲチ以テコレヲ見ズ夜暗キニ至リテ始メテ見ハル譬ヘ
 ハ燈火ノ日中ニ光ナクシテ夜ニ入レバ四方ヲ照ラスガ
 如シ故ニ日蝕ノ時ハ晝ノ間ニ星ヲ見ルコトアリ

第二 月蝕ハ地球大陽ト月ト月トノ間ニ交マリテ大陽

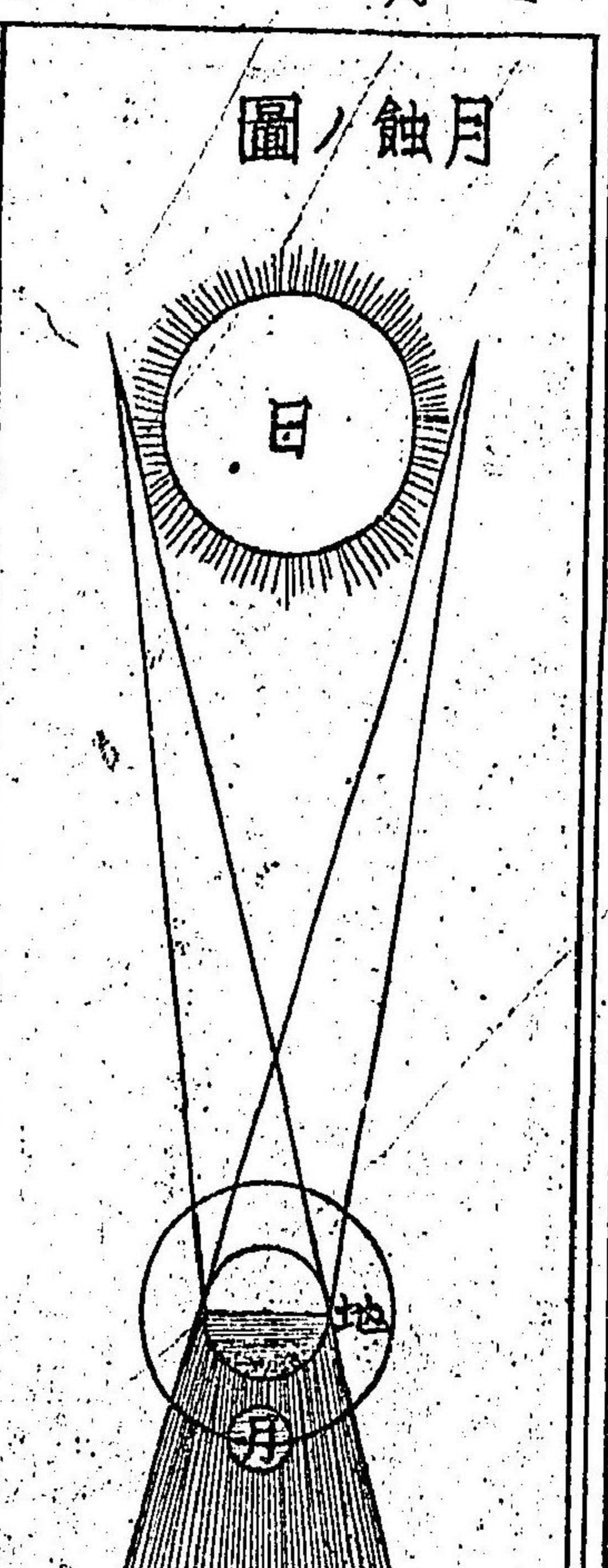
隔ルノミ
 ニシテ月
 ノ隠ルハ
 ニハアラ
 ス○日蝕

ハ月地球ト大陽トノ間ニ入りテ日光ヲ遮ルニ由レリ故
 ニ太陽ノ暗キ所ハ月ノ影ニ噫レタルナリ其時ニ因リテ
 速ルニ多
 多少アリ
 一部分ヲ
 蝕スルコ

圖ノ蝕日



圖ノ蝕月

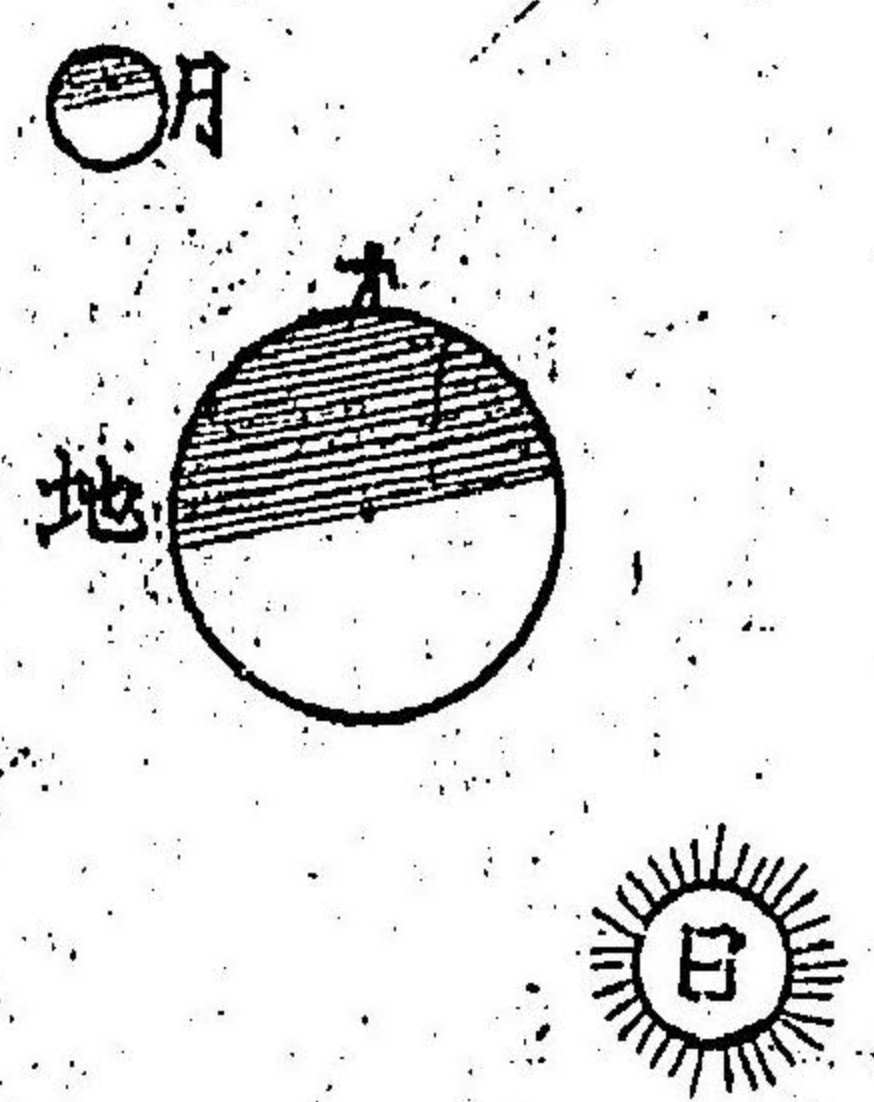


小學讀本 卷四

トアリ、全體ヲ蝕スルコトアリ、又、其周圍ヲ、残スヨトアル
ヲ、名ケテ金環蝕トイヌ

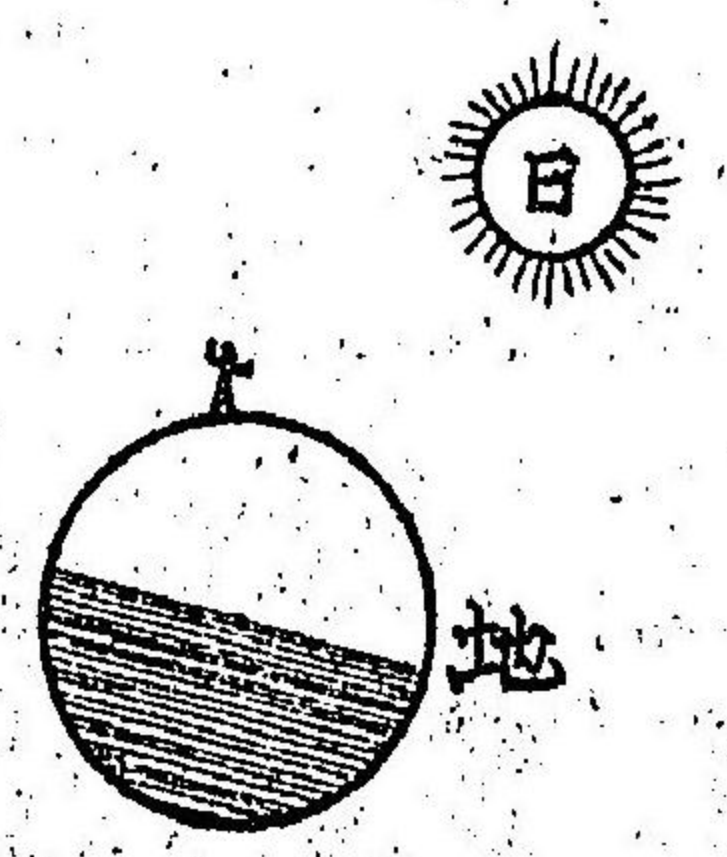
第三月ハ原一地球ト同シク、其體暗キ者ナレドモ、太陽ノ光ヲ受
ケテ、始メテ光ルモノナレバ、地球ノ影ノ蔽フ處ハ、暗キニ
復ス、譬ヘバ、夜間ニ燈火ヲ消ス時ハ、其光鐘玉ノ如キ者モ、

夜間月ヲ見ル圖



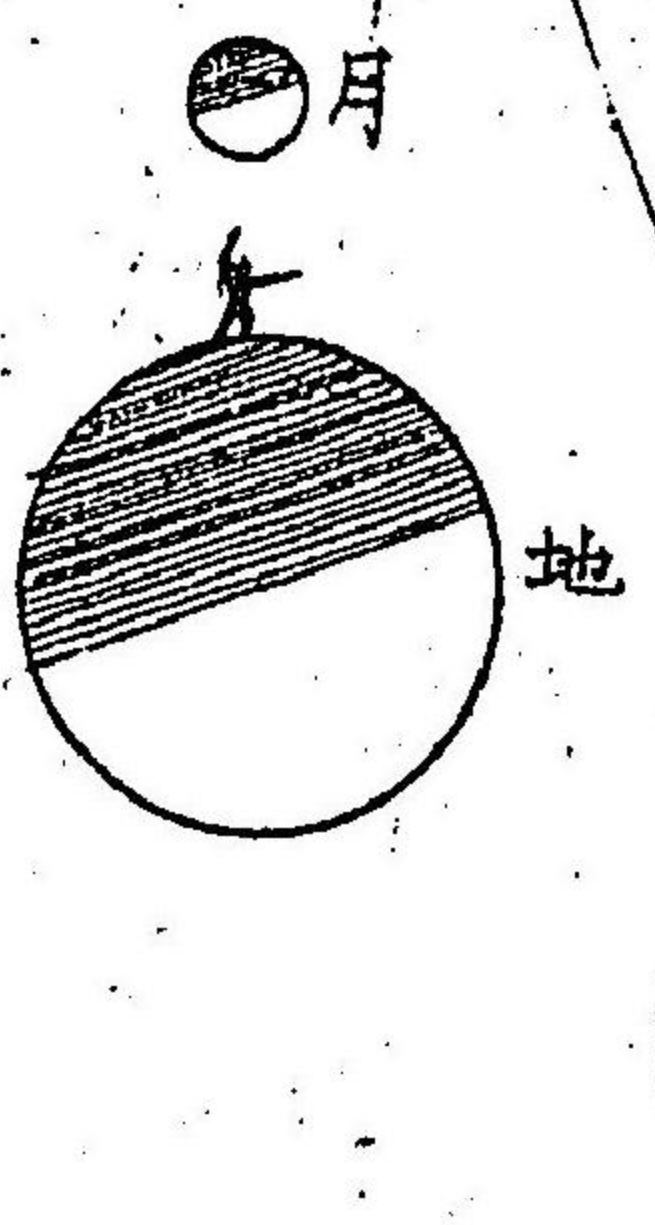
亦黯然トシテ、戸壁ト異ナラズ、既ニシテ再

晝間月ヲ見サル圖



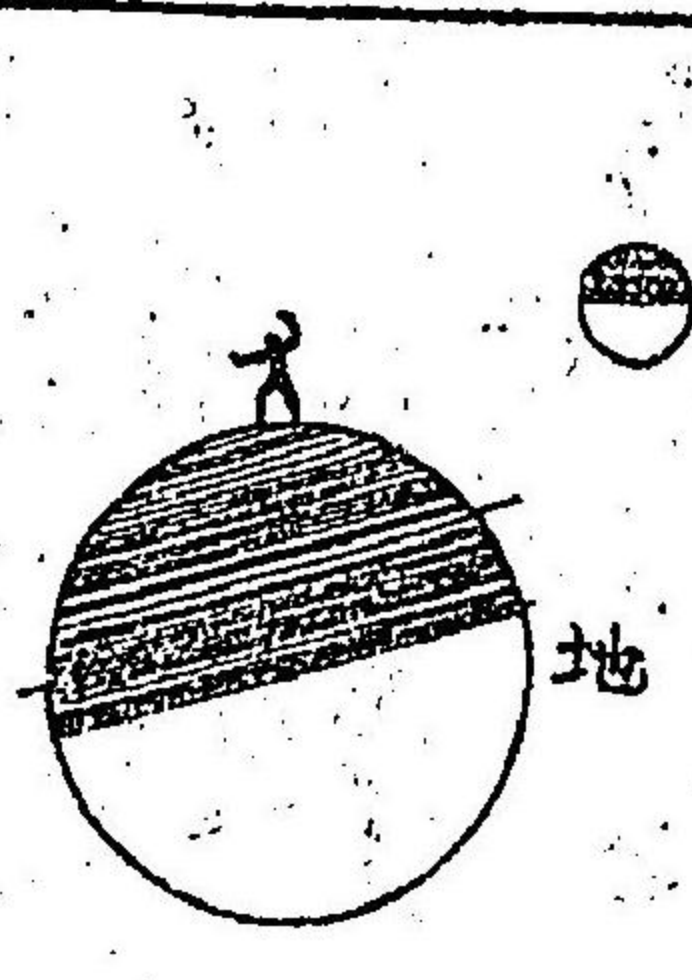
燈火ヲ點ズレバ、鏡玉ノ光アルコト、戸壁ト同ジカラザル
カ如シ、此理ヲ推シテ、月工太陽ノ光ニ映シ、始メテ光ルモ
ノトナルコトヲ、知ルベシ、○人ハ、夜間ニ、太陽ヲ見ズト雖
月ハ、其光ニ映ジテ、輝クナリ、今コレヲ譬フルニ、燈火ヲ一

満月ノ圖



室ニ置キ、鏡ヲ隣房ニ懸ケ、其中間ノ戸ヲ開

新月ノ圖



ケハ、人ハ燈火ヲ背ニシテ、コレヲ見ズト雖、鏡ノ光ハ明

見ユルガ如ク、地球上ノ太陽ト、相對セザル處モ、猶月ノ光ヲ見ルコトヲ得ルナリ○サレバ、月、太陽ニ向フトキハ、常ニ、圓クシテ、光アレドモ、地球ノ、月ト對セザル處ハ、全ク其光ヲ見ルコト能ハズ、其コレヲ見ルニ至リテ、半月ゲンゲツ別アルハ、地球ノ、月ニ對セル部分ニ多少アルヲ以テナリ、月ノ形ノ變化スルニアラス、○是故二月ノ光、全ク見ユルヲ、満月トイヒ、又薄暮カサホニ至リテ、僅ニ光アル部分ヲ見ルヲ、新月トイフモ、皆地球上ヨリ、立テタル稱ナリ

第四地球ノ、太陽ト相對スル處ハ、晝ニシテ、太陽ト向ハザル處ハ、夜ナルユエニ、見ルコト能ハズト雖、太陽ハ、晝夜共ニ、光無キコトナシ、只太陽ニ向フ處ト、向ハザル處トコヨ

リテ、地球ニ晝夜ノ別アリト知ルベシ○是故ニ地球ノ東、晝ナルトキハ、西ハ夜トナルナリ、因リテ、我住居スル處、晝ナレバ、我ト反對セル處ハ、夜ナリト知ルベシ、○太陽ハ、日朝ニ昇リテ、夕ニ入ルガ如クニ見ユレドモ、實ハ、太陽ノ地球ヲ回ルニアラス、我地球ノ、日々西ヨリ東へ轉リテ、午前ハ、太陽ニ向フユエニ、日ノ登ルガ如ク、見ユ、午後ハ、太陽ニ背クヲ以テ、日ノ入ルガ如クニ、見ユルナリ、○カク、運動スル地球ハ、靜ナルガ如クニシテ、靜ナル太陽ハ、運動スルガ如ク、見ユル者ハ、何ゾヤ、譬へバ、蒸氣車ニ乘リテ、速ニ走ルトキ、兩側ノ山、及人家ノ、行クガ如クニ、見ユルニ同ジク、地球ノ、旋ルニヨリテ、太陽ノ、昇降スルガ如クニ、思ハルハ、

ナリ、○地球ハ、西ヨリ東ニ回ルコト、カクノ如クナルニ因
 リテ、太陽ハ、東ヨリ西ニ、行クガ如クニ、見ユルナリ、○地球
 ノ旋ルニ隨ヒ、我居ル處モ、夜半ヨリ日中マデハ、漸轉ジテ、
 太陽ニ向フ、此間ヲ午前トイヒ、又、其日中ヨリ夜半マデ、太
 陽ニ背ク間ヲ午後トイフ、○昔時ハ、地球ヲ靜ナルモノト
 シ、太陽及月星ヲ、地球ヲ、回ルモノトナセシニ、今ハ發明シ
 テ、太陽ト星ノ回ルニアラズ、地球ノ日々自旋ルコトヲ、知
 レルナリ、

第五星ニ二種アリ、一ヲ定星ト云ヒ、一ヲ行星ト云フ、○定
 星ハ、一處ニ止マリテ、運行セズ、光アルコト太陽ノ如シ、其
 光ノ大小ニ隨ヒ、十七等或ハ二十等ニ分ツ、但其地球ヲ距



ルコト、甚遠キヲ以テ、尋常コレヲ望メバ、只一小點ノ光輝
 ヲ見ルノミ、然レドモ、其實ハ、我地球ヨリモ、大ナル者アリ、
 ○行星ハ、我地球ト同シク、皆宇宙ノ世界ニシテ、空中ヲ運
 行スルコト、數月、或ハ數十年ノ間ニシテ、太陽ヲ、一周回ス、

○地球モ、亦行星ノ一ニシテ、一年
 ノ間ニ、太陽ヲ一用回ス、定星ノ、太
 陽ノ如キヲ以テ推セバ、其周圍ニ、
 行星アルコト、亦太陽ク如クナラ
 ン、○行星ノ數ハ、其發見スル所、近
 年ニ至ルマデ、凡一百餘アリ、其中
 尤大ニシテ、且明ナルヲ、水星、金星、

火星、木星、土星、天王星、海王星トス、コレヲ七行星トイフ、又コレニ地球ヲ合セテ、八行星トイフ、○此行星、或ハ西ニ見ハル、コトアリ、或ハ東ニ見ハルコトアリ、其光赤クシテ、火ノ如クナルハ、火星ナリ、金星ハ、キョウセイ曉星、又夕星トイフ、其光白クシテ、新月ノ如キ光輝ヲ放ツコトアリ、○行星ハ、尤太陽ニ近キモノハ、水星ニシテ、八十七日ニ、太陽ヲ一周回ス、○次ニ、行ノ太陽ニ近キ者ヲ、金星トス、二百二十四日、十七時ニシテ、太陽ヲ一周回ス、次ニ、太陽ニ近キハ、地球、及、月ナリ、○其他ノ行星ハ、皆太陽ヲ距ルコト、地球ヨリ遠シ、故ニ火星ハ、六百九十七日ニシテ、太陽ヲ一周回ス、火星ト水星トノ間ニ、數十ノ小行星アリ、○木星ハ、十二年ニシテ、太陽ヲ

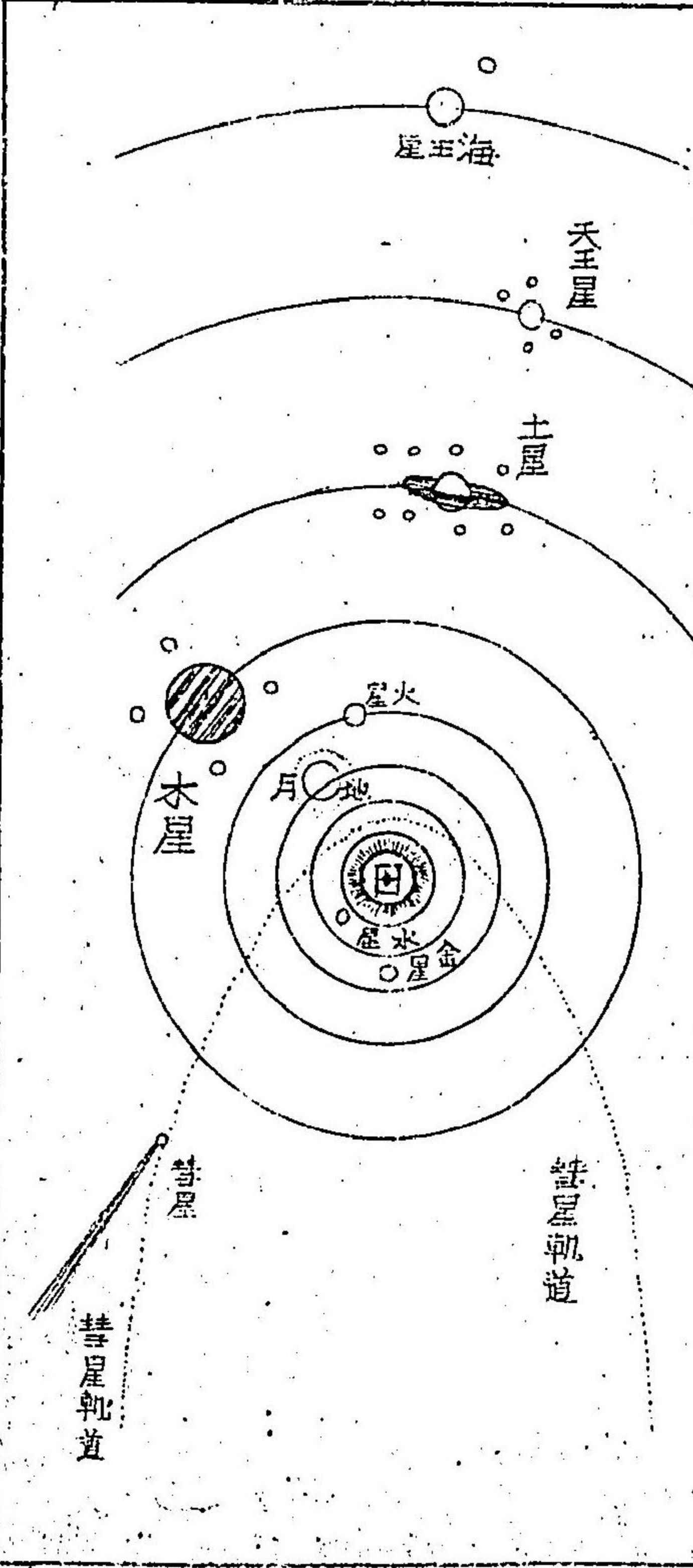
一周回ス、尤大ナル行星ニシテ、周圍中ニ、四個ノ衛星アリ、○土星ハ、三十年ニシテ、太陽ヲ一周回ス、大サ木星ニ亞ク、外圍ニ平ナル環アリテ、コレヲ繞レリ、此環ハ、太陽ノ光ヲ受ケテ、光輝アルコト、月ノ如ク、周圍中ニ、八個ノ衛星アリ、○天王星ハ、八十四年ニシテ、太陽ヲ一周回ス、周圍中ニ、四個ノ衛星アリ、○海王星ハ、太陽ヲ距ルコト尤遠ク、百六十四年ニシテ、太陽ヲ一周回ス、上ニ一個ノ衛星アリ、○七行星ノ中、木星ハ、地球ヨリ大ナルコト、一千二百倍アリ、土星、天王星、海王星モ亦地球ヨリ大ナリ、其大サ殆地球ニ同ジキモノヲ、金星トス、地球ヨリ、小ナルモノハ、火星、水星ニシテ、水星尤小ナリ、○サ擗ハ地球ニ隨フ衛星ニシテ、其

小學讀本 卷四

五

體小
ナリ
ト雖、
其近
キヲ
以テ、
見ル

遊星ノ圖



所甚大ナリ、七行星及地球ハ、各自ニ太陽ヲ回ル、月ハ地球
 ヲ回リ、且地球共ニ、太陽ヲ回ルモノナリ、
 ○彗星
 ハ、行星ノ一種ニシテ、或ハ鮮明ナル、長キ尾ヲ引ク者アリ、
 或ハ種々、光茫ヲ発スル者アリ、○此星ハ、運行極メテ速ニシテ、

其太陽ヲ回ルコト、他ノ行星ノ如クナラズ、且其軌道甚遠
 大ニシテ、橢圓狀ナシ、或ハ太陽ニ近ツキ、或ハ甚遠ナカ
 ルコトナリ、
 ○銀河ハ、數百萬ノ定星ハ、集合セルニ、
 似タリト雖、實ハ集合セルニアラズ、其間遠ク隔タレル者
 ナリ、但、方向相重ナルヲ以テ、コレヲ望メバ、其一處ニ、集合
 セルヲ見ルコト、猶遙ニ、林木ヲ見ルガ如シ、

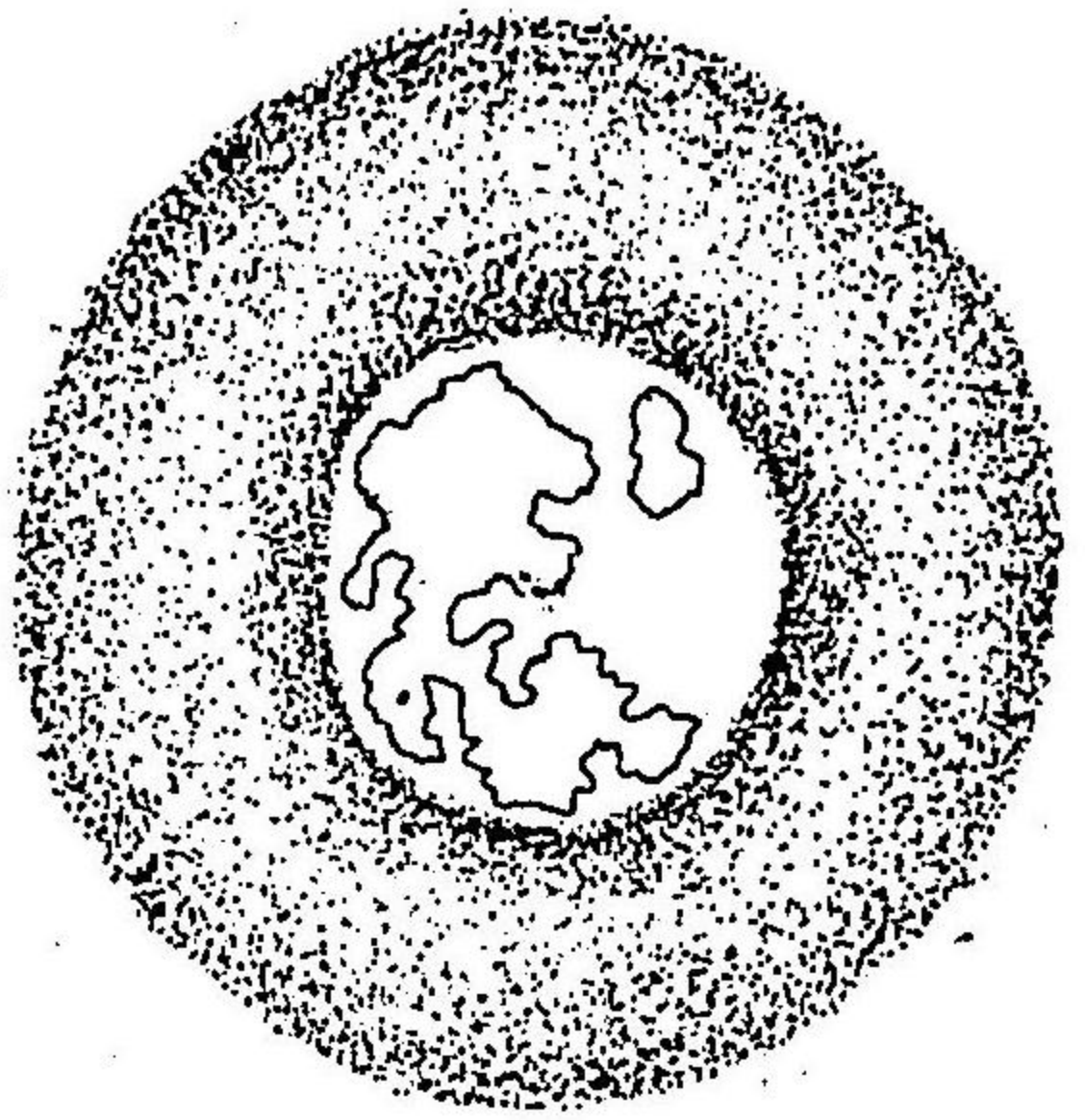
第六 天地間動物、皆其生ヲ、遂クルコトヲ得ルハ、太陽
 アルヲ以テノ故ナリ、太陽ノ熱ハ、水ヲ煖メテ、其氣帶ニ、陸
 地ヲ環ルガ故ニ、動物、皆コレガタメニ生育ス、モシ熱ナ
 キトキハ、其水盡、海中ニ集リ、陸地ノ物、生ヲ遂クルコトヲ
 得ズ、○太陽ハ、獨其熱ノニ、用ヲ為スニアラズ、又光アリテ、

諸色ヲ生ジ、萬物ヲシテ、文彩ヲナサシム、若シ太陽ナキ時ハ、
 木葉花丹、皆色ヲナスコト能ハズ、○太陽ノ熱ハ、其益極メ
 テ博シ、地ヲ暖テ、草木ヲ生長シ、河海ノ水ヲ暖メ、其氣ヲ蒸
 騰セシメテ、雲ヲ生ジ、雨露ヲ降シ、草木ニ灌溉シ、又空氣ヲ
 暖メ、膨脹セシメテ、風ヲ起シ、其氣ヲ交換シ、人畜呼吸ノ養
 ナナス、若シ太陽無キトキ、地モ草木ヲ生ズルコト能ハズ、假令
 草木ヲ生ズトモ、雨露ノ養ヲキトキハ、成長シテ、花ヲ開キ、
 實ヲ結ブコト能ハズ、○草木枯レ盡キテ、果穀ヲ得ザルト
 キハ、人畜モ、亦生活スルコト能ハズ、故ニ太陽ノ光ト熱ト
 ハ、萬物其惠ヲ被ラザル者ナシ、

第七地球ノ周圍ヲ包ミテ、萬物ノ内外ニ、充滿スル者ヲ空氣

ト云フ、其高サ凡二十餘里、下ハ濃厚ニシテ、上ハ稀薄ナリ、
 ○空氣ハ、其色薄クシテ、透明ナルヲ以テ、人目ニ觸レズト
 雖、其氣充滿セザル所無ク、草木此中ニ生茂シ、人畜其中ニ
 生活ス、令扇ヲ動かセバ、風ヲ生シ、又速ニ走レバ、體ニ梳ス
 ルモノアルヲ覺ユ、是即空氣ノ、充滿セル證ナリ、○凡地球
 上ニ、生活スルモノハ、空氣ヲ呼吸シテ、其養ヲ受ケザル者
 ナシ、故ニ空氣ヲ生活物第一ノ要品トス、空氣ハ、他物ト共
 ニ、一處ニ在ルコト能ハズ、タトヘバ、硝子瓶ヲ倒ニシテ、水
 ニ突入ル、ニ水ハ瓶中ニ入ルトイヘトモ、其底ニ至ルコ
 ト能ハザル者ハ、瓶中ニ空氣アリテ、水ニ抗スルガ故ナリ、
 ○空氣ハ、其量甚輕クシテ、コレヲ水ニ比スルニ、凡八百分ノ

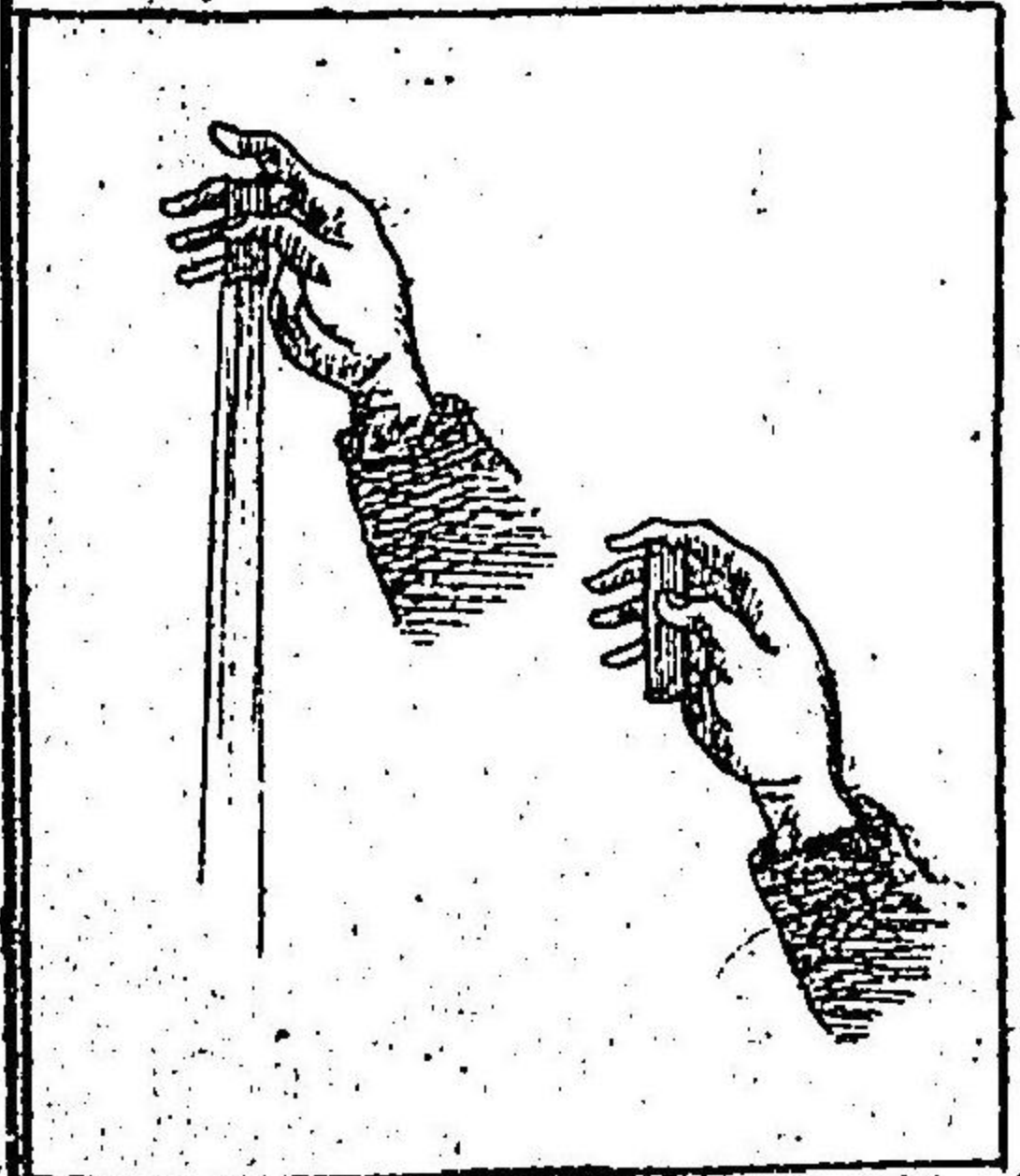
空氣ノ圖



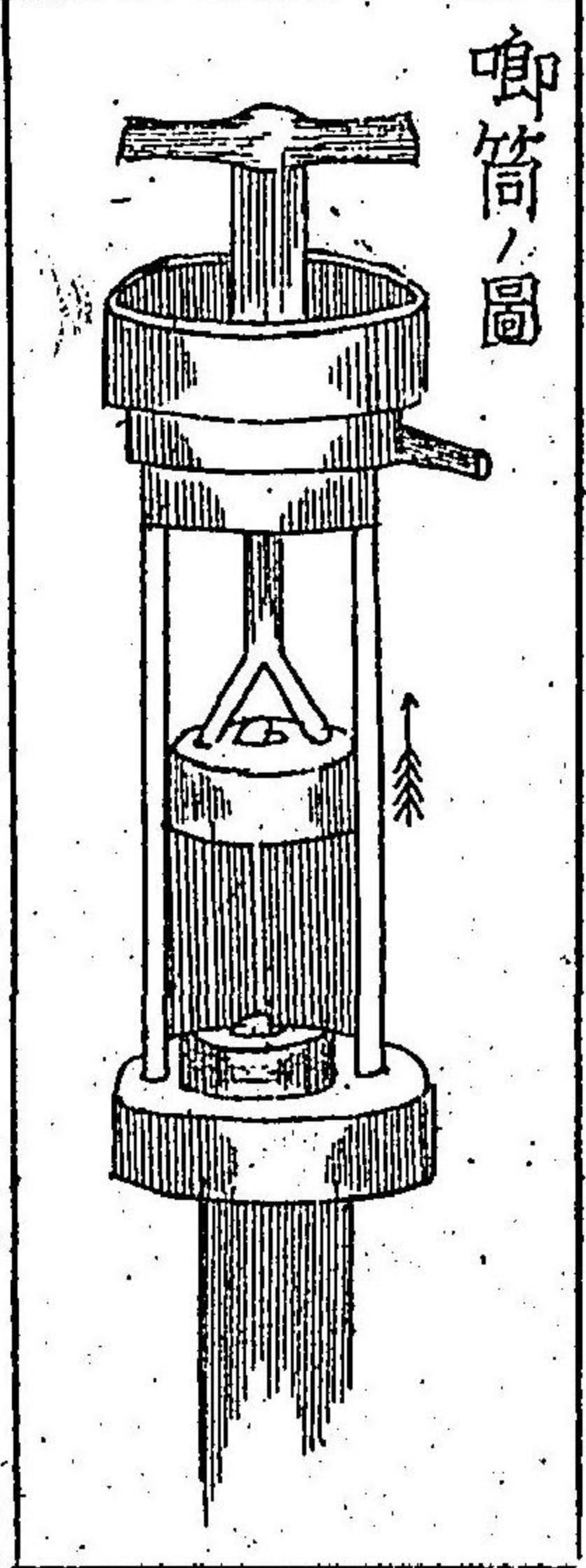
一二過ギズ然レドモ其輕キ
コト、空氣ニ愈ルモノアレバ、
能ク空中ニ飛揚ス、雲烟是ナ
リ、

第八空氣ハ、萬物ヲ上下四方
ヨリ壓塞シ、其物ニ些ノ間隙
アル時
ハ直ニ

入りテ、其中ニ填ツ、今細キ管ニ、水ヲ
滿テ、一方ノ口ヲ塞キ、急ニコレヲ倒
ニスルニ、其水流レ出ツルコト



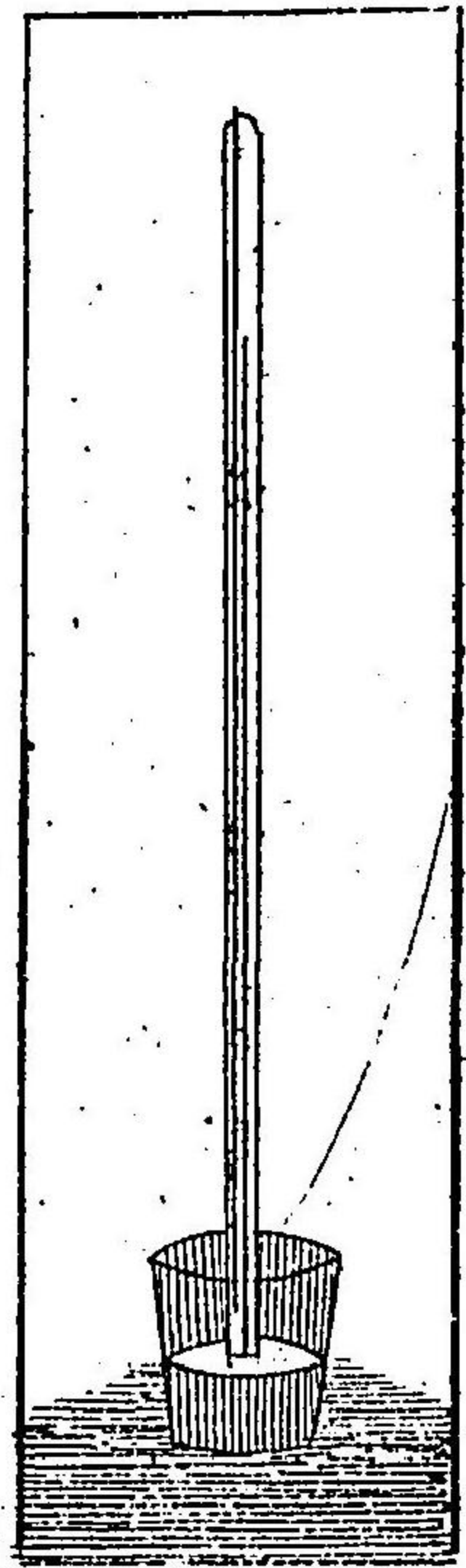
ナシ、是空氣下ヨリ、管中ノ水ヲ支フルガユエナリ、若、上ノ
口ヲ開クトキハ、管中ノ水、一時ニ流レ出、以、是空氣上ヨリ
壓シ入ルヲ以テナリ、○又硝子盃ニ、水ヲ滿テ、滯タル堅
厚ノ紙ヲ以テ、コレヲ蓋ヒ、總ニ倒ニストモ、水ハ流レ出ツ
ルコトナシ、○又管中ニ活塞ヲ置キ、管端ヲ水ニ入レテ、活
塞ヲ挽上ダレバ、水活塞ニ隨ヒテ、管中ニ上昇ス、コレ管外ノ
空氣、常ニ上ヨリ水面ヲ、壓スルヲ以テ、管下ノ水分子、コレ
ガ爲ニ推サレテ、管
中ノ空虚ナル處ニ、
入ルガ故ナリ、今世
廣ク用キル所ノ唧



筒ハ此理ヨリ出テタル者ナリ、

第九 今空氣ノ下壓スルカヲ量ラントスルニハ、先細長ノ硝子管ニ水銀ヲ滿テシ、又コレヲ水銀ヲ滿テタル鉢ノ中ニ倒入スルニ、管中ノ水

銀ハ盡流レ出テズシテ、猶管中ニ昇ルコト

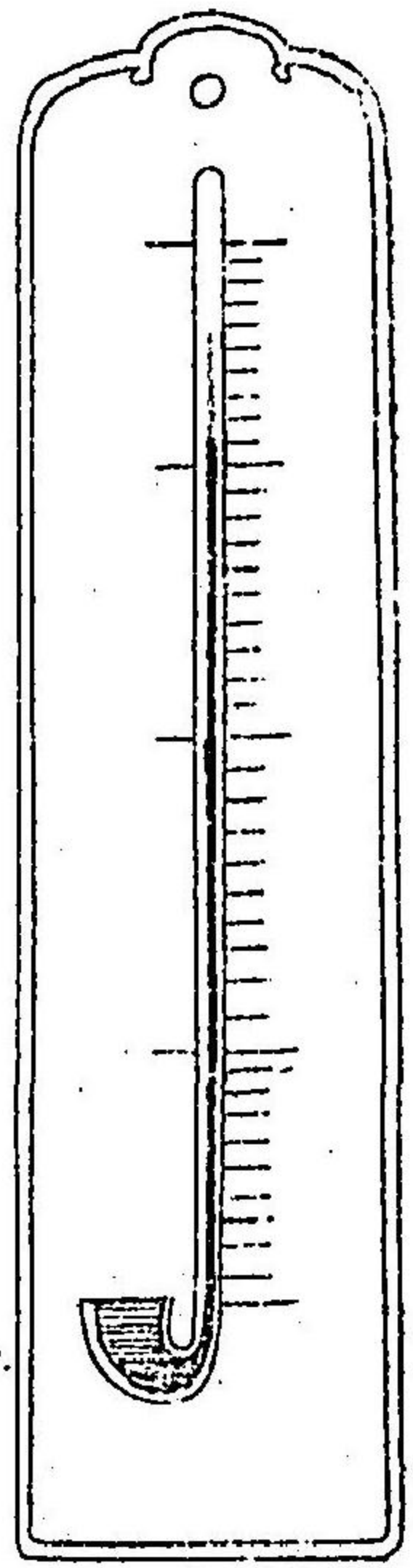


ニ尺五寸餘ナリ、故ニ空氣ノ下壓スルカハ二尺五寸餘ノ長サナル、水銀柱ノ重キト、平衡ナルヲ知ルベシ、○然レドモ、空氣ニハ時ニヨリテ淺深厚薄ノ差違アリテ、其壓力常ニ齊シキコト能ハズ、譬ヘバ、海潮ノ進退アルガ如シ、故ニ管中ニ昇タル水銀ノ高サモ、常ニ同ジキコト能ハズ、

又空氣中ニ一處ノ稀薄ナル部分ヲ生ズル時ハ、近傍ニア
ル、濃厚ノ空氣コレニ向ヒ來リ、動搖シテ、風ヲ起ス、是風ハ
空氣ノ運動スルモノナレバナリ、故ニ空氣中ニ於テ、急ニ
稀薄ナル所ヲ生ズレバ、空氣ノ運動モ、亦急ナリ、其運動急ナ
ル時ハ、疾キ風ヲ生ジ、徐ナル時ハ、緩キ風ヲ生ズルナリ、○空
氣ノ厚重ナルトキ、雲高ク浮ブヲ以テ、雨ナシ、空氣稀薄ナルトキ
ハ、雲必昇ク低レ、凝リテ雨トナルナリ、○此理ニ由リテ、風
雨計ヲ作り、預風雨陰晴ノ變ヲ知ルコトヲ得ルナリ、其法
右莖ハ、細ク長クシテ、左莖ハ、太ク短キ、硝子ノ曲管中ニ、水
銀ヲ盛リ、傍ニ度数ヲ記シ、コレヲ懸ケ置ク時ハ、空氣短キ
管ノ口ヨリ、水銀ヲ壓シテ、長キ管ニ昇ラシム、此水銀ノ高

ク昇ルヲ晴天トス、○又空氣ノ稀薄ナルトキハ、其水銀ヲ
 歴スル所ノ力、
 弱キユエニ、長
 キ管ノ水銀漸
 降り來ルナリ
 コレヲ以テ水銀ノ昇ク低ル、トキハ、烈風或ハ陰雨アル
 コトヲ知ルナリ、

風雨計ノ圖



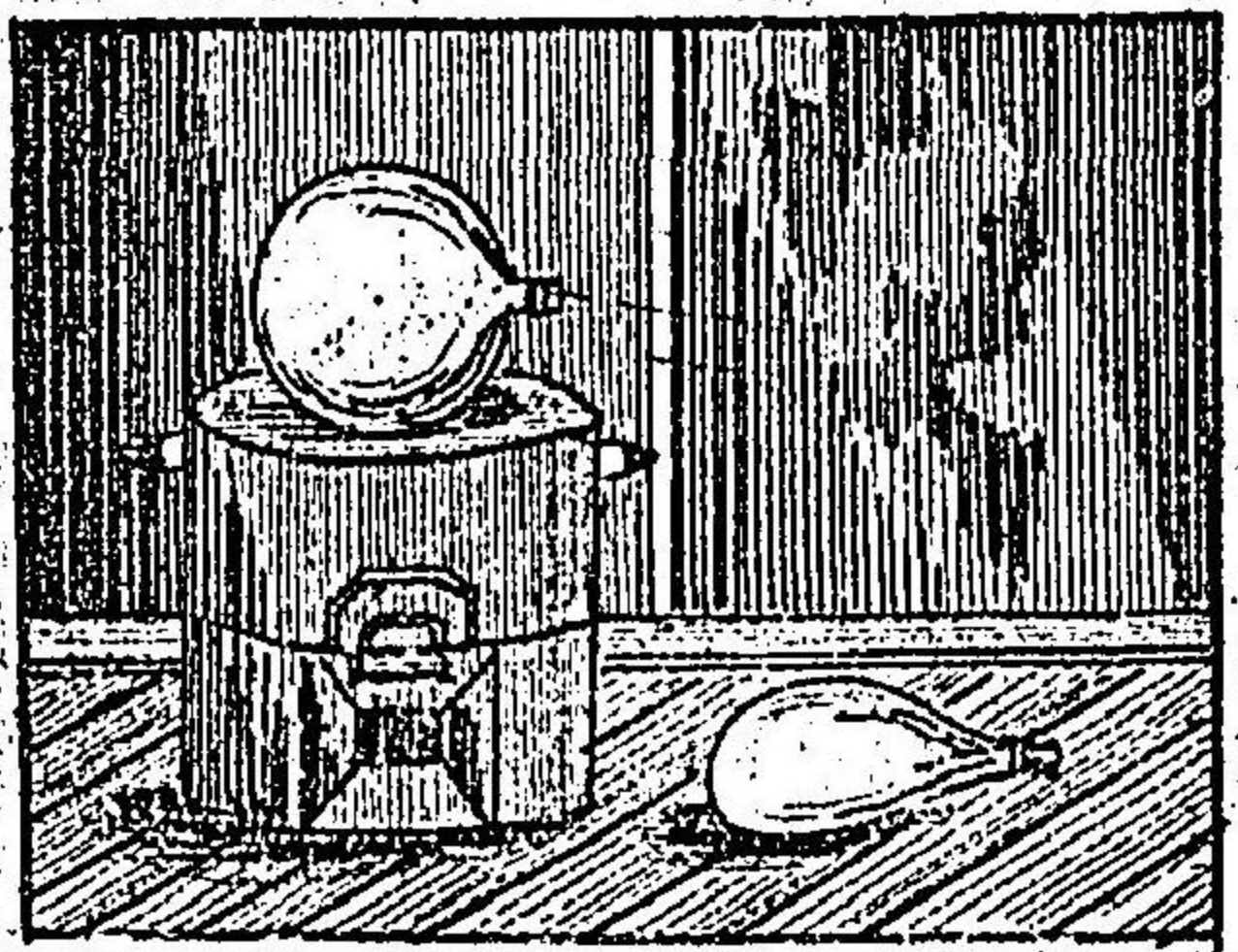
第十空氣ノ下歴スル力ハ、二尺五寸餘ノ長アル、水銀柱ト
 平衡スルヲ以テ、其力ヲ算スルニ、一寸四方ヲ歴スルハ凡
 二貫五百二十及アリ、人ハ、此強キカアル、空氣ノ中ニ奔走
 シテ、其重キヲ覺エザルハ、人ノ體中ニモ、亦空氣アリテ體

外ノ氣ト、相抗シ、互ニ平衡スル故ナリ、譬へハ、魚ノ水中ニ
 在リテ、體中ノ水ト、體外ノ水ト、相抗シ、其重キヲ覺エザル
 ガ如シ、今竹筒ノ上ロヲ蓋フニ、平ナル紙ヲ以テシ、若、下口
 ヨリ吸フトキハ、紙ノ蓋必内ニ凹ムナリ、コレ筒中ノ氣減
 シテ、筒外ノ氣ニ、抗シ難キガ故ナリ

第十一凡空氣ハ、熱ヲ得レバ、膨脹シ、冷ナレバ、収縮スルコ
 ト、他物ニ比スレバ、尤甚シ、今厚紙ノ袋ノ中ニ、半、空氣ヲ入
 レテ、其口ヲ緊シテ、束子、火上ニ置クトキハ、熱ヲ得ルニ隨
 ヒ、漸々膨脹シ、甚シキニ至レバ遂ニ破裂ス、是其證ナリ、○
 又吸角子ノ中ニ、木綿一片ヲ置キ、コレニ火ヲ點スレバ、角
 子中ノ空氣、忽膨脹シテ溢レ出ツ、此時角子ノ口ハ、人體ニ

貼ツクルコト、少時ナレバ、角子中氣、再令ニナリ、収縮スルヲ以テ、外氣其中ニ、入ラントシ、コレヲ壓スルコト、甚強シ、此故ニ、角子ハ人體ニ吸著キウキヨクシテ、容易ニ離ルコトナシ、是モ亦其證ナリ、

○今夫、地面ノ熱ハ、各處同ジカラス、一處極メテ、熱スルトキハ、其地ノ空氣膨脹シテ、輕クナリ、高ク浮ブ此トキ、近傍ノ冷地ニ、在ル所ノ空氣ハ、其厚重ナルヲ以テ、急ニ、空氣ノ輕浮セル熱地ニ突キ入ラントシテ、此地ヨリ彼地ニ運動ス、是風ノ起ル所以ナリ、故ニ風ハ、空氣ハ、冷熱均シカラザルヨリ、生ズルモノト知ルベシ、○タトハ、一室ノ

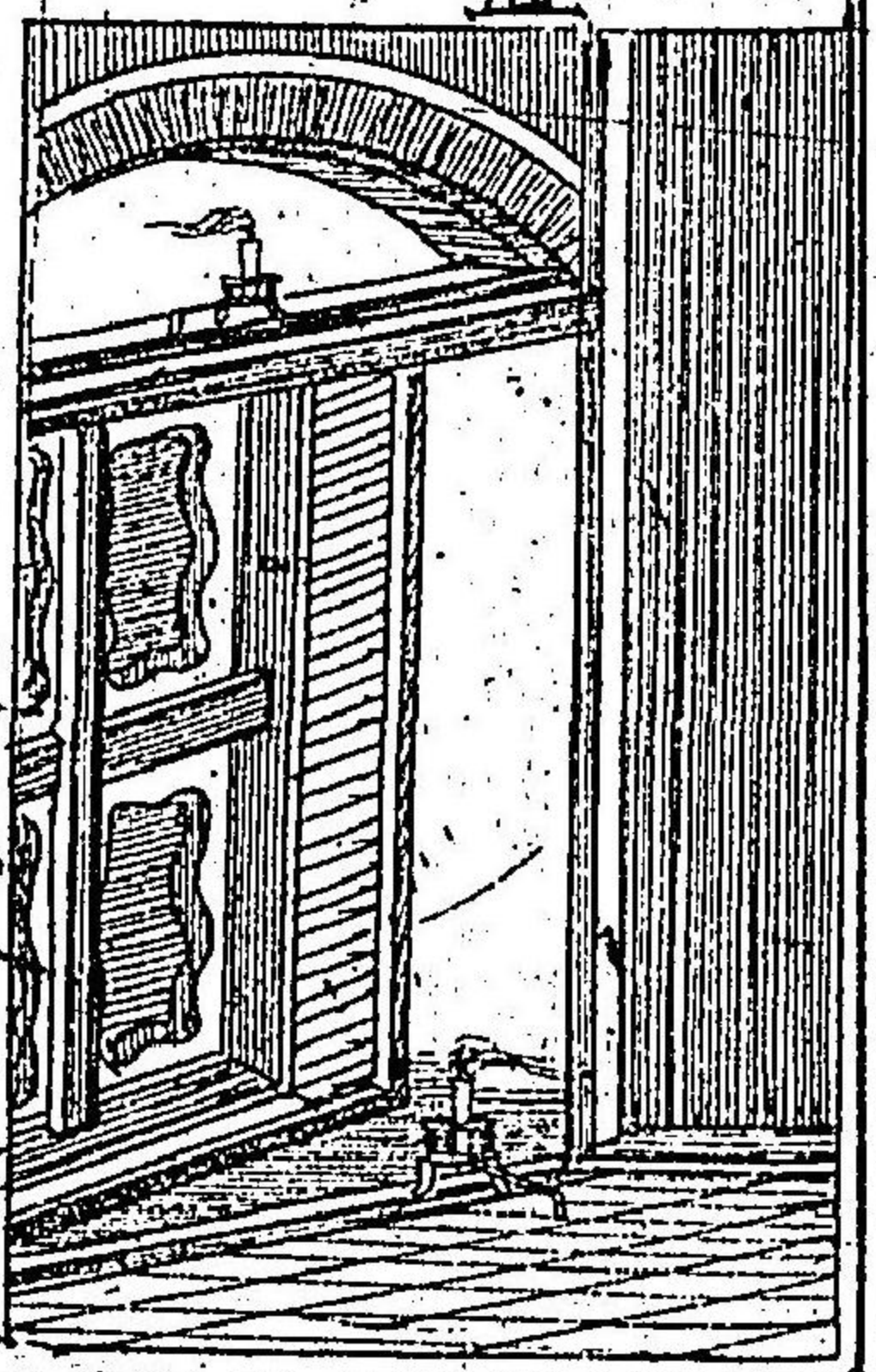


英カ

内ヲ煖タメ、鴨柄ト、敷居ノ處ニ、各空隙ヲ開キ、燭火ヲ、上隙ニ置クトキハ、其焰外ニ走リ下隙ニ置クトキハ、其焰内ニ向フ、コレニヨリテ、熱シタル空氣ハ、輕クナリテ、高ク浮ビ、冷ナル空氣ハ、重クシテ、下ヨリ入り、互ニ交換スルノ、理ヲ知ルベシ、

○故ニ、風爐ノ下邊ニ、必孔ヲ穿テ、空氣ヲ通ゼシムモ、空氣通ゼザルトキハ、火隨ヒテ消滅ス、是熱シタル空氣上昇シテ、缺乏スレドモ、コレヲ補フ、冷氣ナケレバナリ、

○赤道ノ下ハ、太陽ノ熱、常ニ強キヲ以テ、空氣輕浮スル故、南北ノ冷ナル空氣、此地ニ向ヒテ、突キ入り、其空氣缺ヲ補ハ



ントスルヲ以テ赤道以北ノ地ハ常ニ北風多ク赤道以南ノ
 地ハ常ニ南風多シ○風ノ寒暖アルハ觸レ來ル地ノ寒暖
 ニ由レルナリ北風ノ寒キハ北方寒帶ノ地ニ觸レ來ルニ
 由リ南風ノ暖ナルハ南方熱帶ノ地ニ觸レ來ルニ由リテ
 ナリ赤道以北ノ地ハ常ニ北風多シト雖夏ハ多ク南風吹
 ク是冬ハ太陽南ニ行キテ海上ハ陸地ヨリ暖ナル故ニ陸
 地ノ冷氣海上ニ向ヒテ移リ北風トナレドモ夏ハ太陽北
 ニ行キテ陸地ハ海上ヨリモ暖ナル故ニ海上ノ冷氣陸地
 ニ向ヒテ移ルヲ以テ多ク南風トナレルナリコレヲ常風
 トイフ然レドモ陰雨ノ候ニ隨ヒテ間此方向ヲ變ズルコ
 トアリ○海濱ノ風曉アサハ岸ヨリ海ニ吹キ夕ユフニハ海ヨリ岸

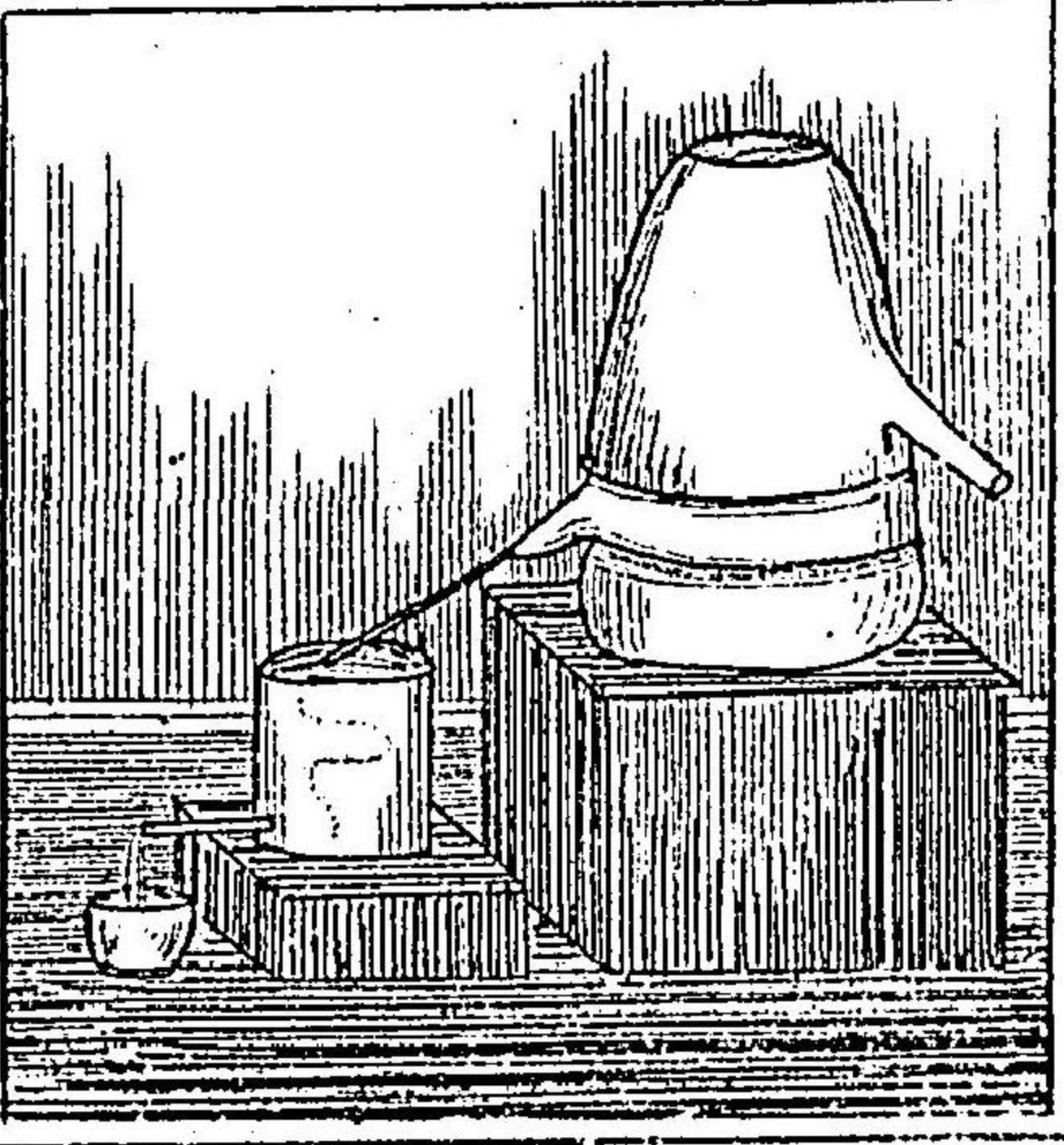
二吹ク者ナリ凡テ陸地ハ太陽ノ熱ヲ得ルコト早キ故ニ
 熱ヲ失フコトモ亦早シ海水ハ太陽ヲ返照シテ其熱ヲ得
 ルコト晚ヨソキユエニコレヲ失フコトモ亦晚シ是ヲ以テ夜
 間ハ陸地其熱ヲ失ヒテ冷ナルコト海上ヨリ早キニヨリ
 テ晨アサハ其風必海ニ向ヒテ吹キ夕ニハ陸地既ニ熱ヲ得テ
 海上ノ熱ハ未陸地ノ如クナラザル故ニ其風必陸ニ向ヒ
 テ吹クナリ○總テ風ハ冷地ヨリ熱地ニ向ヒ來リ既ニ熱地
 ニ至レハ膨脹シテ輕クナリ高ク浮ビテ高處ヨリ再冷地
 ニ回ルヲ以テ常ニ循環シテ止ムトキナシ時アリテ地上
 ノ風ト浮雲ノ行ク所ト其方向ヲ異ニスルヲ見ルコトヲ
 リ是ヲ以テ風ノ循環シテ止ム時ナキコトヲ知ルベシ

第十二 雨ハ、河海、或ハ地上ヨリ、水氣ノ、空中ニ昇リ、凝リテ、
 點滴ナリ、再降リ來ルモノナリ、○總テ、水ハ流動ノ體ヲ以
 テ常ト為スト、雖熱ニ遇フトキハ、變ジテ氣狀トナリ、蒸シ
 テ、上ニ昇ルモノナリ、若、冷熱相均シケレバ、流動ノ體ニ復
 シ、又熱ヲ失フコト、多ケレバ、凝リテ固結ノ物トナル、水是
 ナリ、○河海、或ハ地上ノ水、太陽ノ熱ヲ受ケ、空中ニ蒸騰ス
 ルコト、猶、鑪チ火上ニ置ケバ、其中ニ在ル所ノ水、火ノ熱ス
 ルニ從ヒテ、漸々蒸騰スルガ如シ、○蒸氣ハ、透明ニシテ、
 色ナキ者ユエ、其熱ヲ得ルコト、多キ間ハ、空中ニ充滿スト、
 雖、コレヲ見ルコト、能ハズ、然レトモ、熱ヲ失フニ從ヒテ、相
 集リ雲トナル、雲ハ、是、蒸氣ノ少シク、冷タルモノニシテ、其

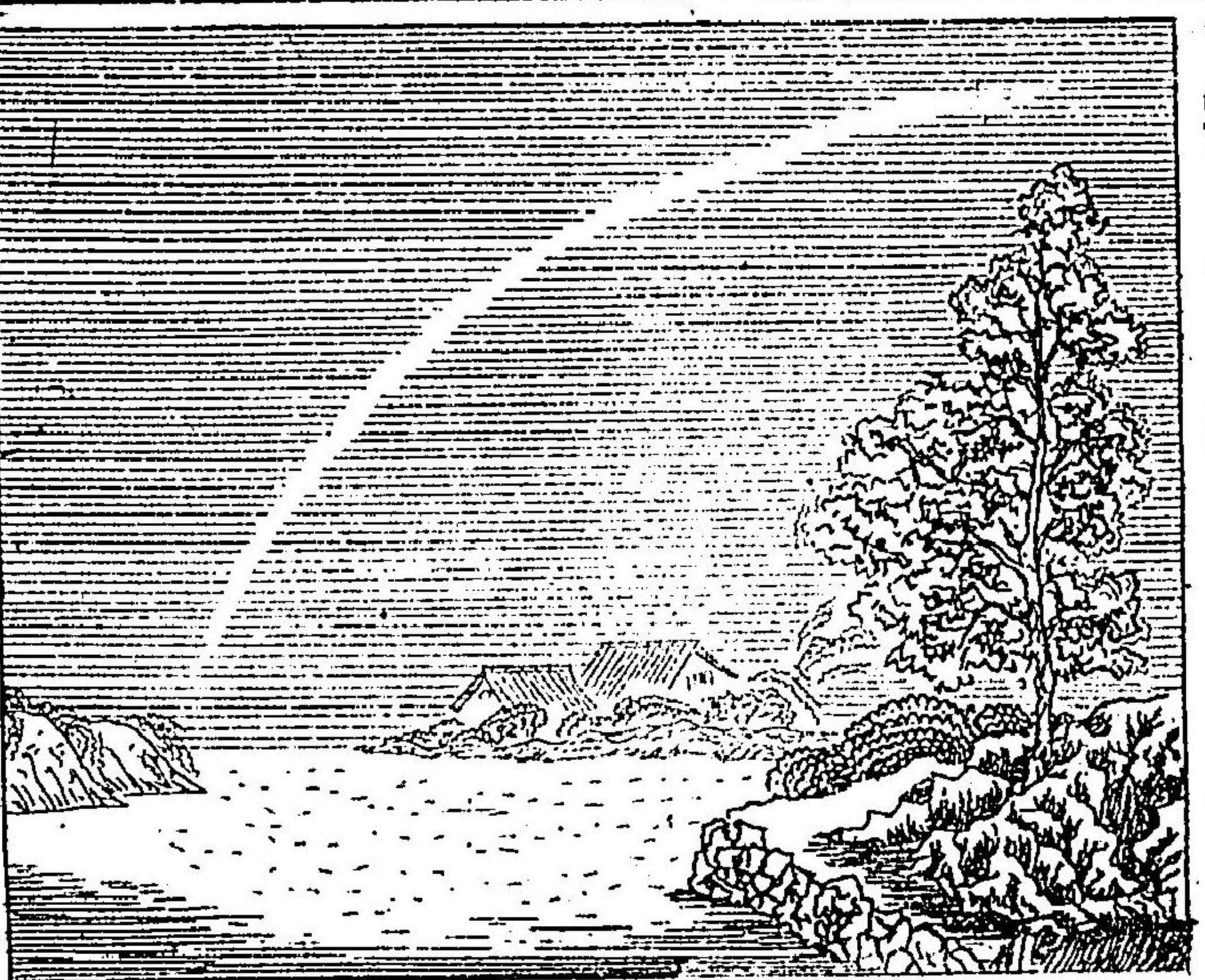
熱ヲ失フコト、甚シキトキハ、凝リテ流動ノ體トナリ、地ニ
 落ツルモノ、即雨ナリ、○地上ノ水、又ハ杯盤ノ水モ、久シキ
 ヲ經レバ、漸消滅ス、世人、コレヲ呼ビテ、乾クトイフ、然レド
 モ、此水ハ、消滅スルニアラス、蒸氣トナリテ、空中ニ飛散ス
 ルナリ、故ニ熱ヲ失フトキハ、必再凝リテ、水トナル、今暖ナ
 ル室中ニ、冷物ヲ入ル、時ハ、其周圍ヨリ、露ノ滴ル、ヲ見
 ル、是、室内ニ飛散スル、蒸氣ノ、其冷ナルニ、觸レテ、忽熱ヲ失
 ヒ、再凝リテ、流動體トナレムモノナリ、○今蒸溜罐ヲ以テ、
 子蒸溜スルハ、其理、全ク雨ト内ジ、又罐中ノ水ノ、蒸騰スル
 ハ、河海ノ水ノ、空中ニ満ルガ如シ、又罐ノ蓋ニ凝リテ、水ニ
 ナリ、滴リ落ツルハ、恰空中ニ満チタル、蒸氣ノ、雨トナリテ、

降ルカ如シ、○日中ニ蒸騰スル水
氣ノ夜間ニ至リ熱ヲ失ヒ草木等
ニ觸レテ凝リタル者ヲ露トイフ、
露又寒ニ遇ヒテ冰リタル者ヲ霜
トイフ、○水氣ノ空際ニ在リテ熱
ヲ失ヒ雲トナリ、未滴リ落チザル
中ニ凝リタル者ヲ雪トイフ、是水氣ノ未タ雨トナラザル
ニ、俄ニ熱ヲ失ヒタル者ニシテ既ニ雨トナリタル後ニ凝
リテ降ル者ハ、即霰ナリ、

第十二 太陽ノ熱河海ノ水ヲ蒸シテ室中ニ騰ラシムルニ、
夏ハ殊ニ多クシテ其凝ルコト速ナラス故ニ空際ニ集リ

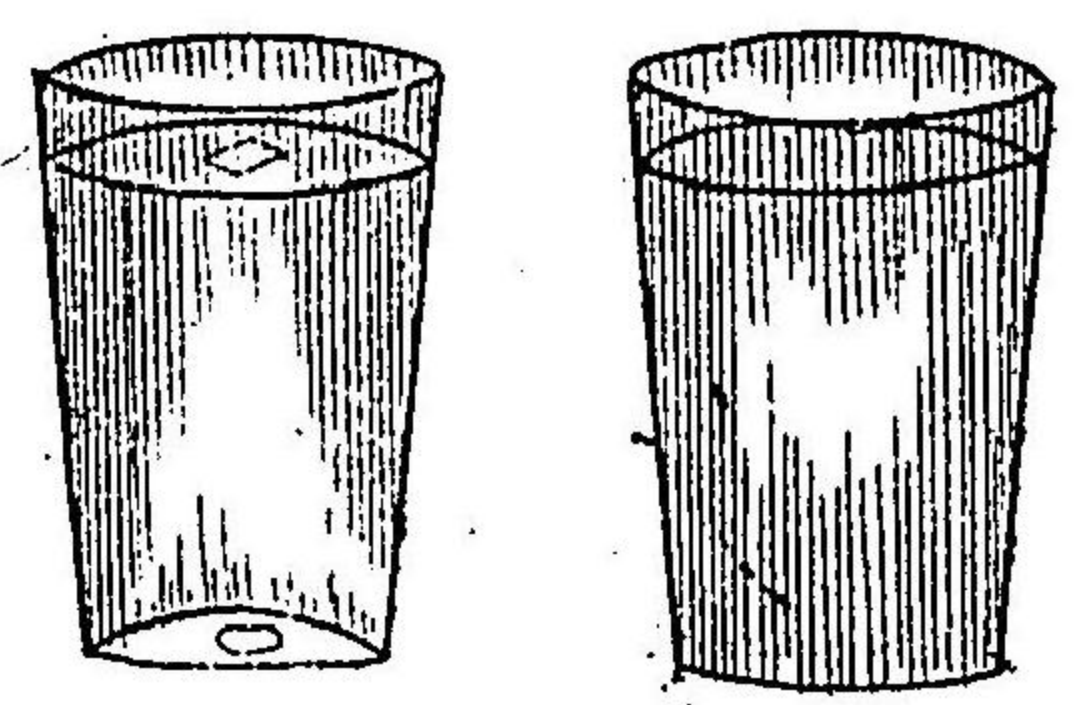


テ、雲トナリ雨トナル、是夏ノ雲雨多キ所以ナリ、若此水氣



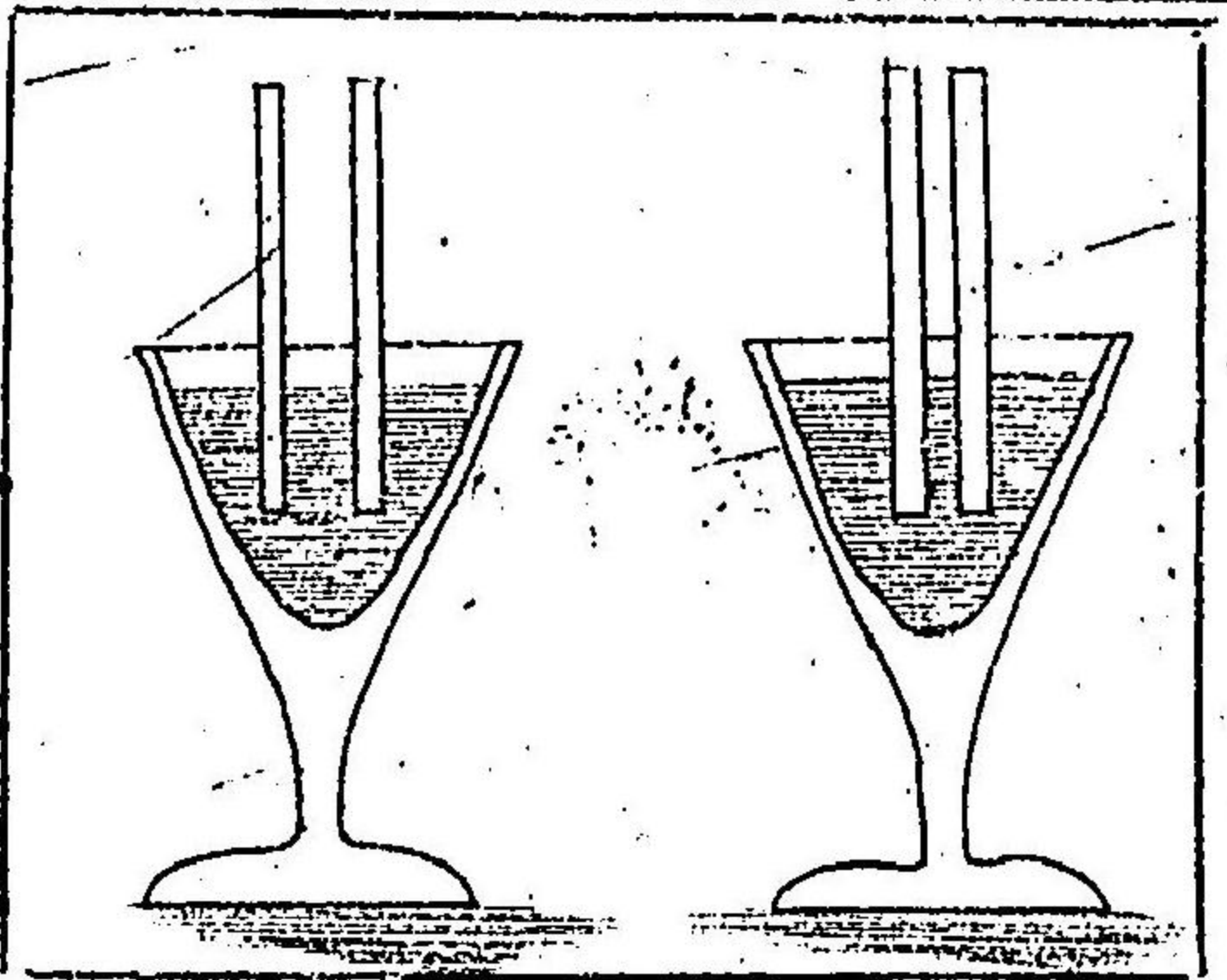
レニ次グ、次ハ青色、次ハ紺色、次ハ紫色ナリ、○水ハ動植物

尚地ニ近キ處ニ在リテ大氣
其熱ヲ失フニ因リ凝リテ、細
分子トナル時ハ、霧ト爲ル、故
ニ霧ハ多ク、且、及水邊ヨリ
生ズルナリ、○水氣ハ多ク蒸騰
シテ太陽ノ光ニ映ズル時ハ、
虹トナル、虹ニハ其色セツアリ、
上ハ赤色ニシテ、次ヲ柑色ト
ス、黃色コレニ次ギ、綠色又コ



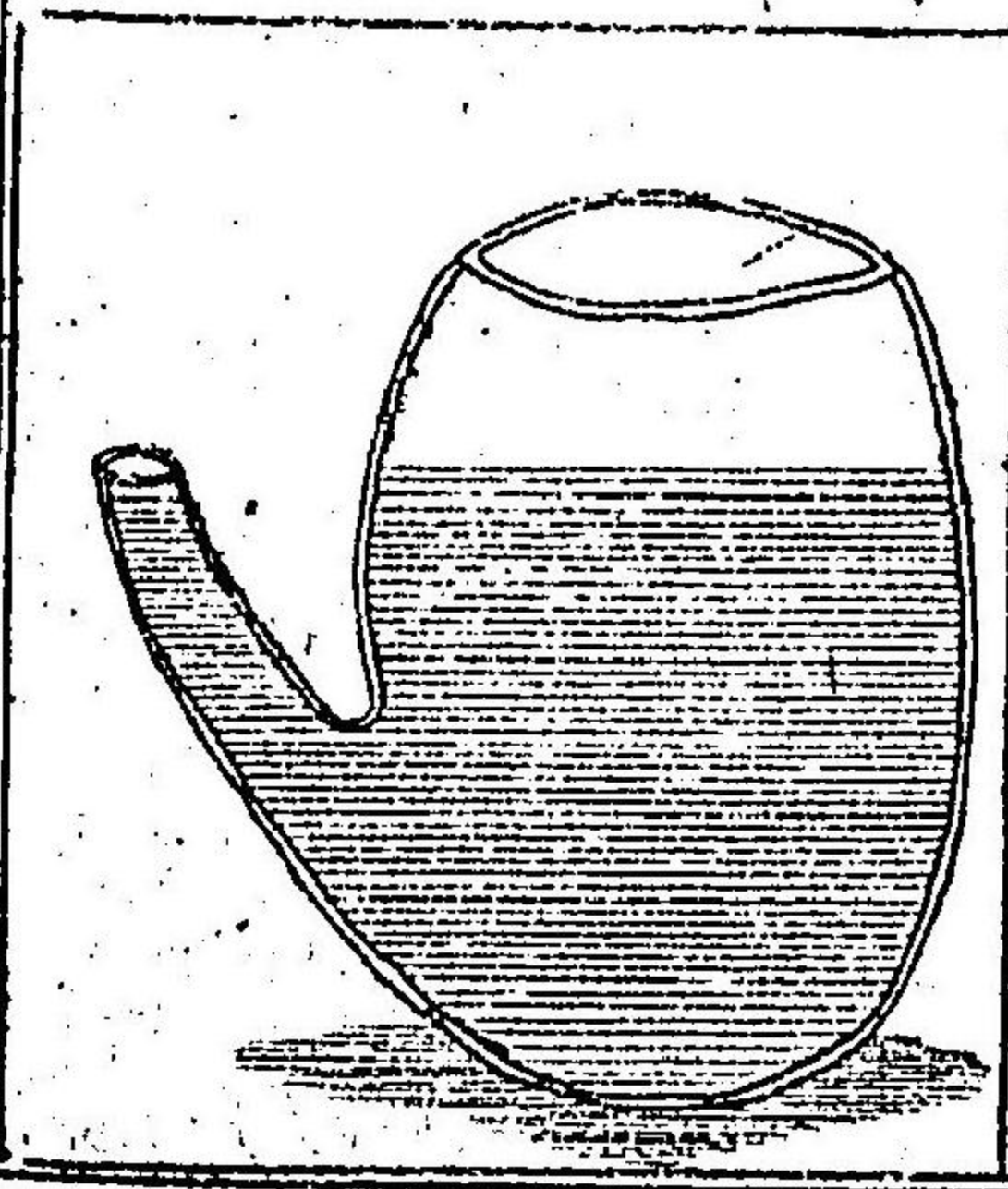
ノ生育スル源ニシテ飲食モ亦水ニ資ラサル者ナシ○牛酪モ水無キ時ハ得ルコト能ハズ何トナレバ牛ハ唯水ヲ飲ムノミナラズ又草ヲ食フ草モ水無ケレバ長ズルコト能ハザレバナリ

第十四水ハ流動シテ散シ易キ者ナリト雖其點滴ノ細ナル者ニ至ルマデ亦相吸フノカアリコレヲ水分子ノ凝聚カトイフ○今草上ノ露點々相集リテ一滴トナリ其形球ノ如ク又乾キタル地上ニ水ヲ灑グトキハ其點滴ノ細ナル者相集リテ圓形ヲナス是皆相吸フノカアル故ナリ○



極メテ細キ鐵鍼ヲ能ク拭ヒ乾カシテ徐ニ水上ニ置ケバ浮ビテ沈マズ是體質甚輕ク水ノ凝聚カヲ、懸シ開キテ入ルコト能ハザルヲ以テナリ金石ノ類ハ體質甚重キ故ニ水ニ投ズレハ忽沈ムト雖コレヲ研磨シテ小片トナス時ハ能ク水上ニ浮ブモ亦此理ナリ○然レドモ水ハ互ニ相引クノミナラズ亦他物ト相引クノカアリ假如ハ硝子ノ細管ヲ水中ニ突キ入レテコレヲ擧グルニ其水管中ニ留マリテ落チズ是水ト管ト互ニ相引クノカアルニ由リテナリ但管口細小ナレバ引カ多ク粗大ナレバ引カ少ク

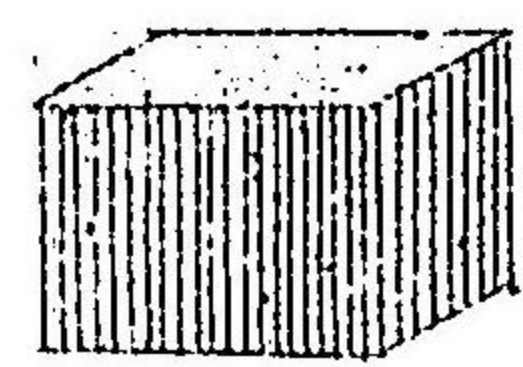
其理ハ、水ノ分量ニ比較スルニ、其口ノ周邊、水ト接スル所
 ハ、多少ヲ異ニスレバナリ、○水ノ外、油、酒、水銀等ノ類モ亦
 流動物トイフ、水ト性ヲ同ジクス、其熱度ヲ覺ゼザレバ、増
 減スルコト極メテ少シ、○静水ノ表面ハ、一樣ニ平ニシテ、
 側ツコトナシ、今一壺ニ水ヲ滿タシメ平ニ置キテ静ニス
 ル時ハ、壺中ノ水面モ、嘴ノ水面モ、高下相齊シ、又一管ヲ壺中
 ニ挿入スルニ、管中ノ水面モ、必壺中
 ノ水面ト、一樣ニ平ナリ、是故ニ、竈ノ
 水ノ、地中ヲ通り、再高キ處ニ昇ルモ、
 皆水源ト、高下ノ平均ヲナスナリ、水
 ハ、上下四面ヲ歷スル、其重サ皆同シ



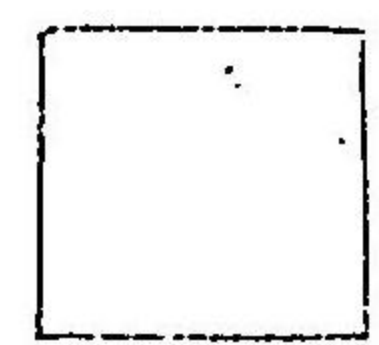
コレヲ水ノ壓力トイフ、今皮囊中ニ、水ヲ十分ニ滿タシムル
 トキハ、鼓脹シテ、一樣ニ強シ、是水ノ壓力ハ、上下四面皆同
 シキ度ナレバナリ、

第十五爰ニ、イヨリ、ロニ達シタル、直線アリ、此線ヲ三個人
 同シ部分ニ分チ、一ニ、符ヲ施シテ、イヨリ、ロニ至ルマデ
 チ、三寸トシ、イヨリ、一ニ、至ルマデチ、一寸トシ、一ヨリ、二ニ、至
 ルマデチ、一寸トシ、二ヨリ、ロニ至ルマデチ、一寸トス、○又
 別ニ、イヨリ、ロノ符ヲ施シ、イヨリ、一ニ至ルマデチ、五分トス、即一
 寸ヲ二分セル、其一ナリ、又イヨリ、ロニ至ルマデハ、一寸ヲ四
 分セル、其一ニシテ、即二分五釐ナリ、分十ヲ一寸トシ、寸十ヲ
 一尺トス、コノ長サアル、直條ヲ造リテ、物ノ長、厚、廣ヲ、度ル具

立方體ノ圖

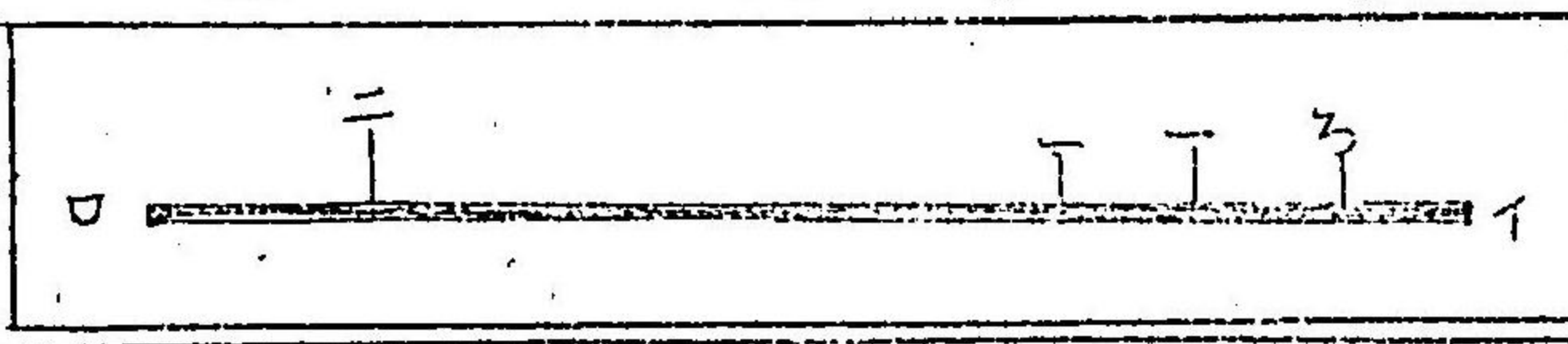


表面ノ圖



トス、コレヲ尺度ト云フ、○總テ、物體ノ容積ヲ度ルニハ、此具ヲ至用トス、物體ノ容積中、地上ヨリ直立スル向キヲ、厚トイヒ、

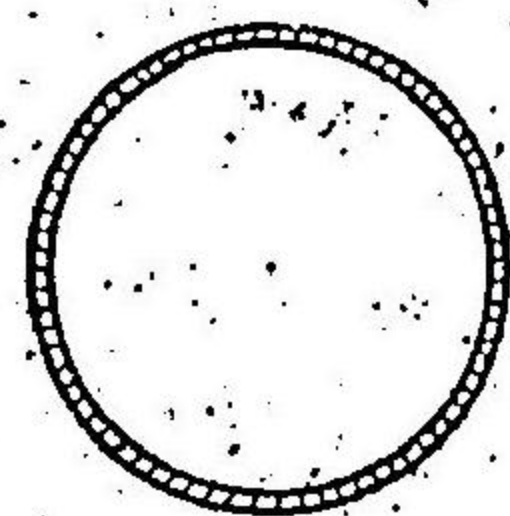
又高トイフ、地上ト並行スル向キヲ、長トイヒ、又廣ト云フ、但、長ハ較長キ方ニシテ、廣ハ較短キ方ナリ、長、廣、厚アルモノヲ、立法體トイフ、表面ハ、外方ニ顯レタル部分ナイフ、床ハ人ノ踏ム處ヲ、表面トシ、机ハ、書ヲ載スル處ヲ、表面トス、○表面ハ、長ト廣トアリテ、厚ナルモノ無シト雖、物體ニハ、皆長廣厚アリ、○表面ノ中、若テ寸法ヲ示ストキハ、コレヲ面積トイフ、



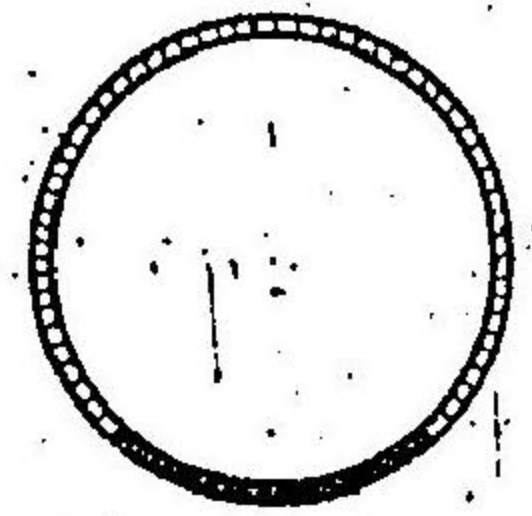
線ノ圖

○點ハ全ク想像ノモノニテ、長廣共ニ無シ、點ノ集リ續キタルモノヲ、線トイフ、故ニ線ハ、只長ノミニシテ、數條ヲ聚ムト雖、厚廣ヲナサズ、此ノ如キ線ヲ、想像線トイフ、又糸ノ如キ、

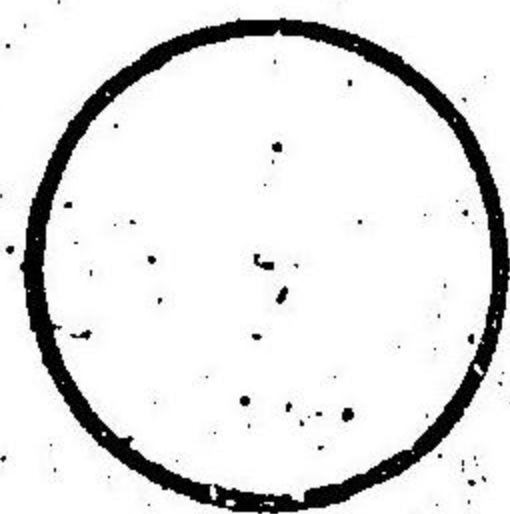
直徑ノ圖



弧線ノ圖



圓周ノ圖



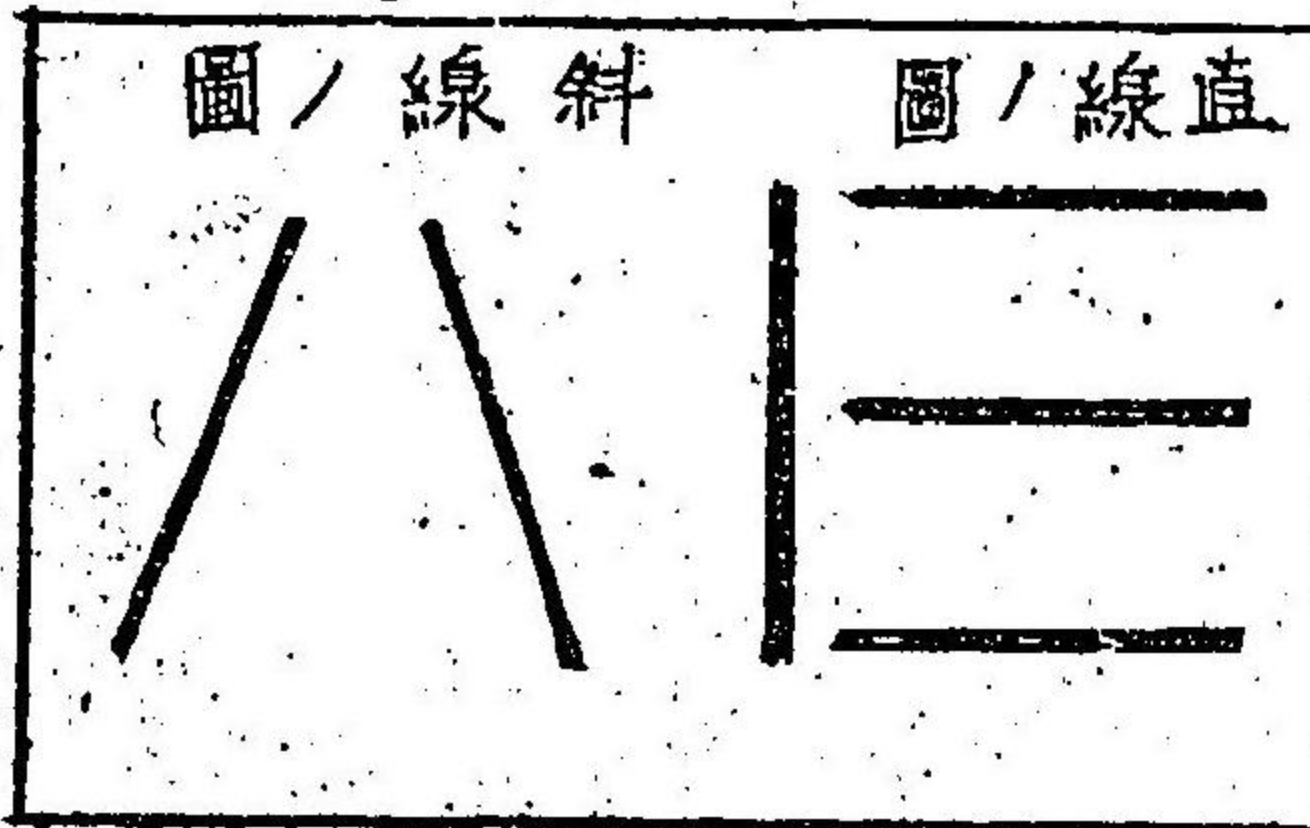
實體アルヲ、眞線ト云フ、○表面及

物體ノ正中ナル處ヲ、中心又ハ中點トイフ、中點ヲ通りタル線ヲ、中徑又ハ直徑トイフ、○圓キ、表面ノ外邊ヲ圓周トイヒ、圓周二アル線ヲ環トイヒ、環ノ一片ヲ弧線トイフ、
第十六線ニ、數個ノ種類アリ、地面ト並ビタルヲ、地平線ト

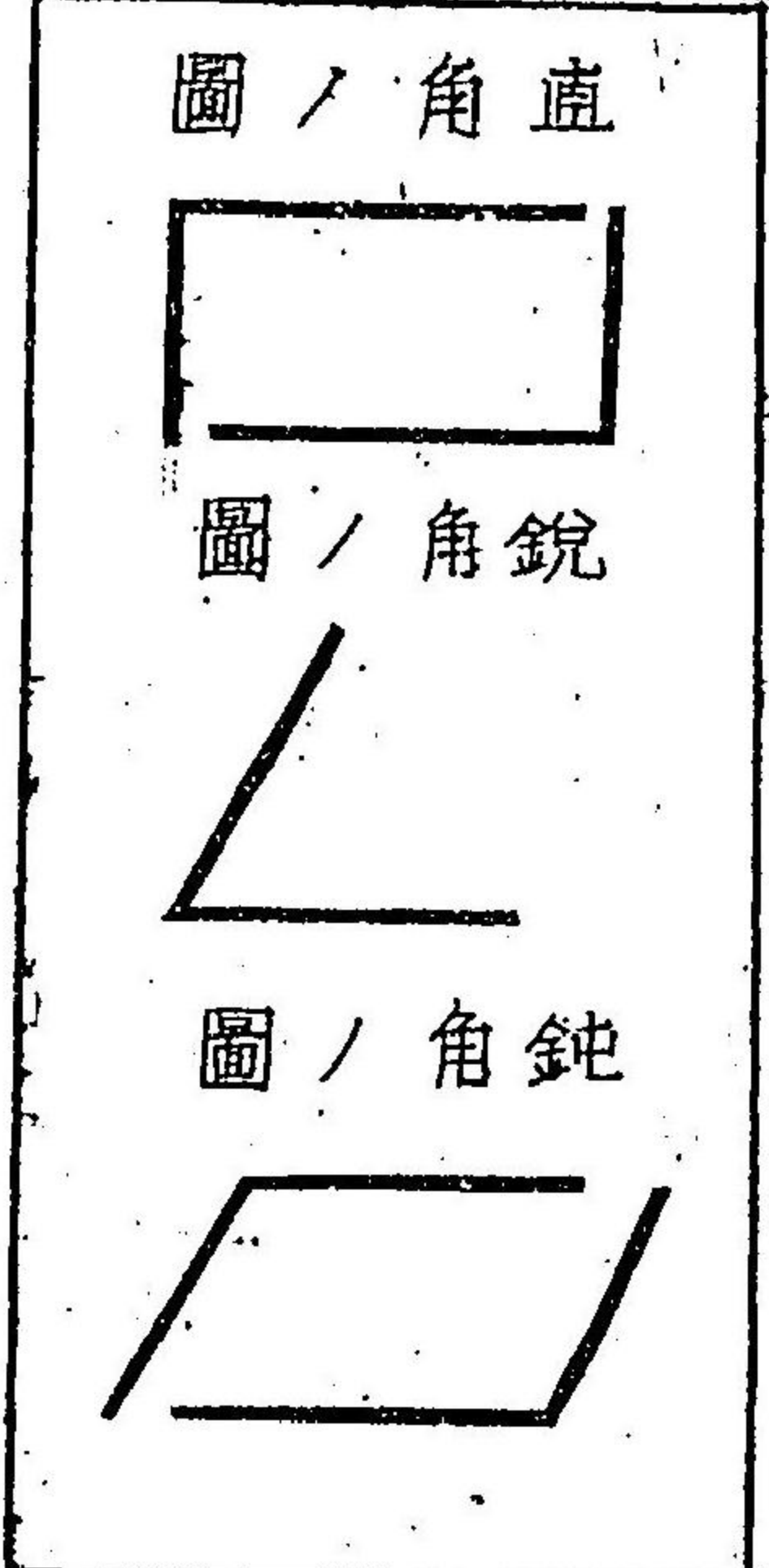
イフ、モシ正直ナル棒ヲ、水回ニ浮ブルトキ
 ハ、此棒ノ向フ所即地平線ノ位置ナリ、○地
 球ノ中心ニ、對シタル線ヲ、縦線又ハ鉛線ト
 イフ、モシ正直ナル棒ヲ、地上ニ立テ、或ハ糸
 ニ錘ヲ懸ケテ、コレヲ垂ル、トキハ、此棒及
 糸ノ向フ所、縦線即鉛垂線ノ位置ナリ、地平



線ニモアラズ、縦線ニモアラザル正
 直線ヲ、斜線トイフ、○一直線、各其
 向ヲ異ニシテ、種々ニ連續スルナ
 折線トイフ、○線中ノ各點位置ヲ
 同シクセズシテ、各曲リタルヲ、曲



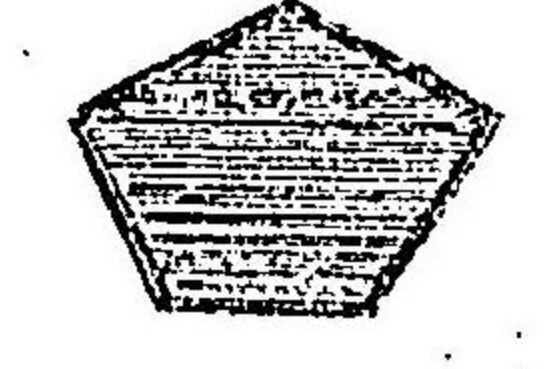
線トイフ、○直線曲線ノ別ナク、二線相並ビテ、其間ノ距離
 始終同シ度ニアルヲ、並行線トイフ、○曲線ニ、數種アリ、波
 ノ運動スルガ如ク、上下ニ凸凹
 スルヲ、波線トイフ、螺旋狀ニ卷
 ズタルヲ、螺線トイフ、○二線以
 上ノ、互ニ會合スル處ニ、生スル角度ニ、三種アリ、直角、銳角、
 鈍角ナリ、直角ハ、鉛直ノ
 向ニ於テ、互ニ相合フ者
 ニシテ、正ニ九十度ナリ、
 故ニ直角四個ニテ、三百



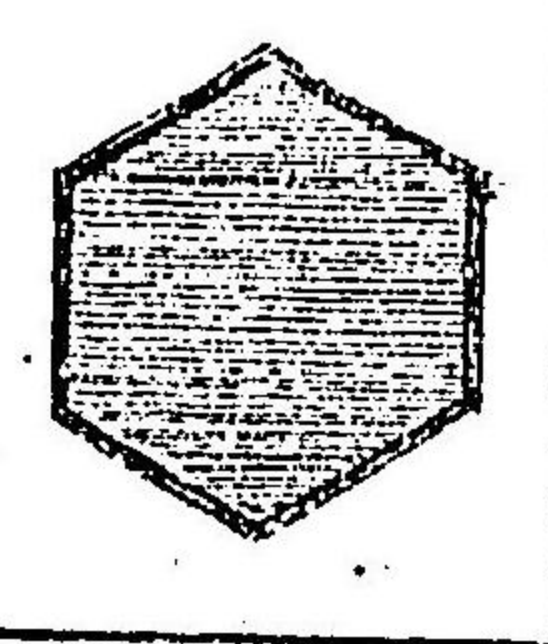
六十度トナル、方形ノモノ、是ナリ、銳角ハ、直角ヨリ尖リタ

ル者ニシテ、九十度以下ノ、鈍角ナリ、鈍角ハ直角ヨリ廣キ者ニシテ、九十度以上ノ、鈍角ナリ。○方形ハ、四角皆九十度ノ、角度ナル面ナリ、三角ハ、銳角ヨリ成リタル面ニシテ、五角、六角等ハ、鈍角ヨリ成リタル面ナリ。○表面ニ、

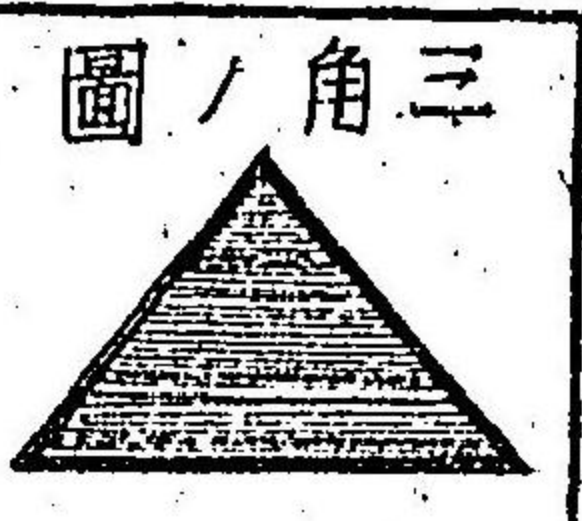
圖ノ角五



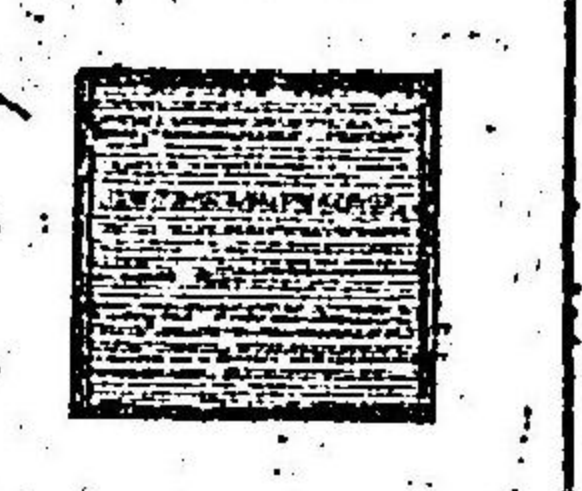
圖ノ角六



三角、四角、五角、六角等アリ、又其角度ニ、直角ナル者アリ、銳角、鈍角ナル者アリ、或ハ諸角皆

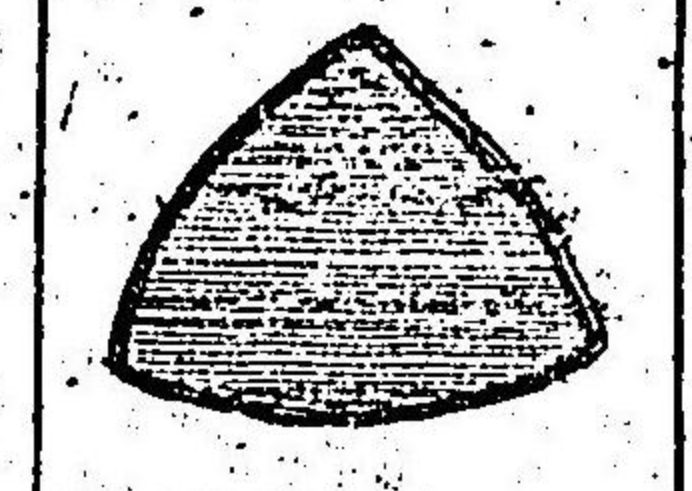


圖ノ角四



同ジキ者アリ、或ハ諸角各異ナル者アリ、皆同ジキヲ、正角トイヒ、各異ナルヲ、不等角トイフ。○二線以上ノ、曲線ヲ集合セル角ヲ、弧角トイヒ、其三角ナ

圖ノ角三弧



ルモノヲ、弧三角トイフ。

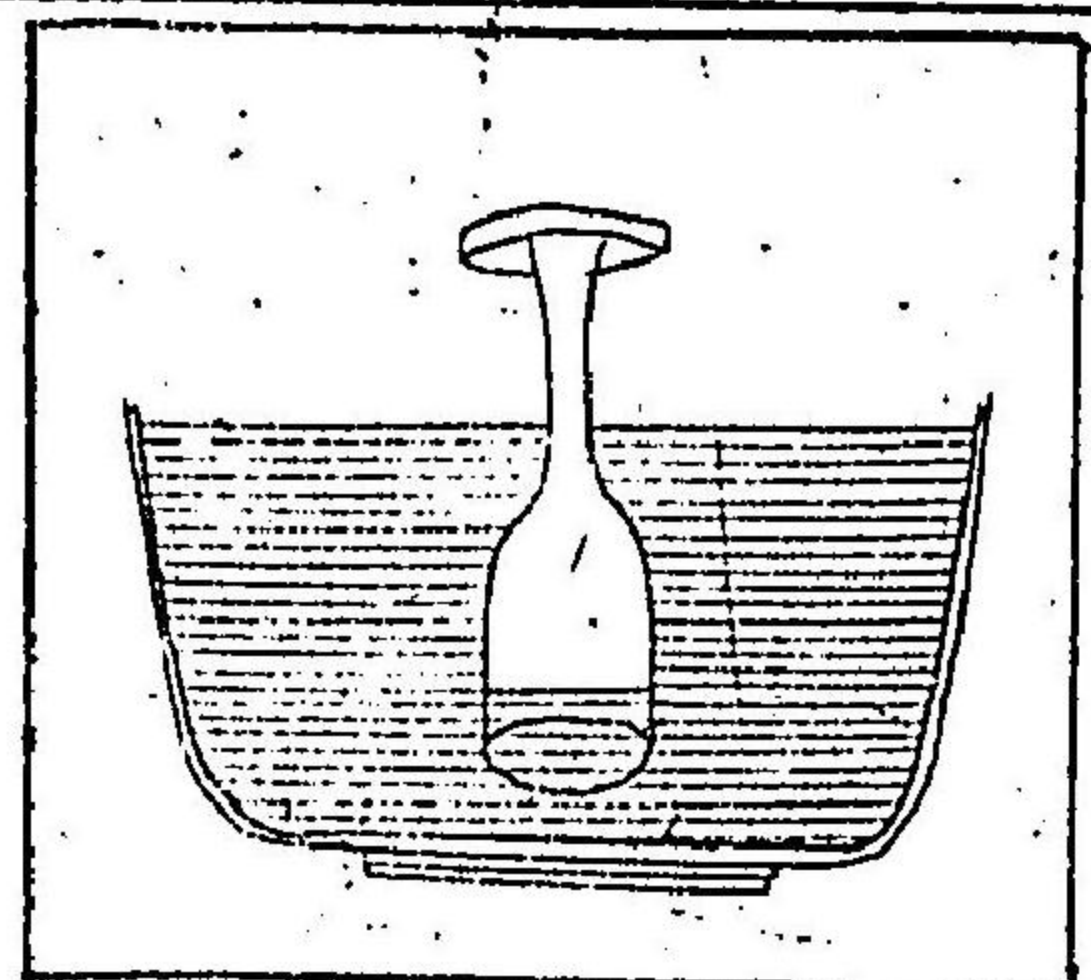
第十七 物體ハ、長、廣、厚ノ、三ノ者ヲ備ヘテ、人ノ耳目、口、鼻、及肌ニ觸レ、知覺スベキモノ、皆是ナリ。此物體ハ、本數千ノ小分子ヨリ成リ、而シテ、其分子ノ量、各同ジカラズ、故ニ、其容積同ジト雖、含ム所ノ分子ニハ、各多少アリ、譬ヘハ、鉛ノ分子ハ、水ノ九倍ニシテ、黄金ノ分子ハ、水ノ十九倍ナルガ如シ、カク同ジ容積中ニ含ム所ノ分子ニ、多少ノ差アルニ由リテ、物質ニモ、亦疎密輕重ノ異ナルアリ、分子ヲ含ムコト、多キモノハ、其質密ニシテ、其量重ク、分子ヲ含ムコト、少キモノハ、其質疎ニシテ、其量輕シ。○此分子ニ多少アルハ、即物ノ質ニシテ、分子互ニ相引クノ力ニ、強弱アル由リテナリ。

第十八物體一種ノ分子ヨリ成リタルモノヲ單成物トイフ、鉛、黃金、銅、錫、銀、鐵等ノ類是ナリ、二種以上ノ分子ヨリ成リタルモノヲ合成物トイフ、水、空氣、鹽、砂糖ノ類是ナリ、○物體ニ三種アリ、凝體、流體、氣狀體ナリ、凝體ハ其分子互ニ固著シ、全體ヲ動カスニアラザレバ、其分子ヲ動カスコト能ハズシテ、通常ノ氣候ニハ、其形ヲ變ゼザルモノナリ、木、石、金類是ナリ、流體ハ體中ノ分子互ニ相引クトイヘドモ、其分子ヲ動カシ得ルコト易クシテ、通常ノ氣候ニモ、流動スルモノヲ云フ、水、酒、油ノ類是ナリ、氣狀體ハ體中



ノ分子相引クノ力甚微ニシテ、浮動スル者ヲイフ、空氣、烟ノ類是ナリ

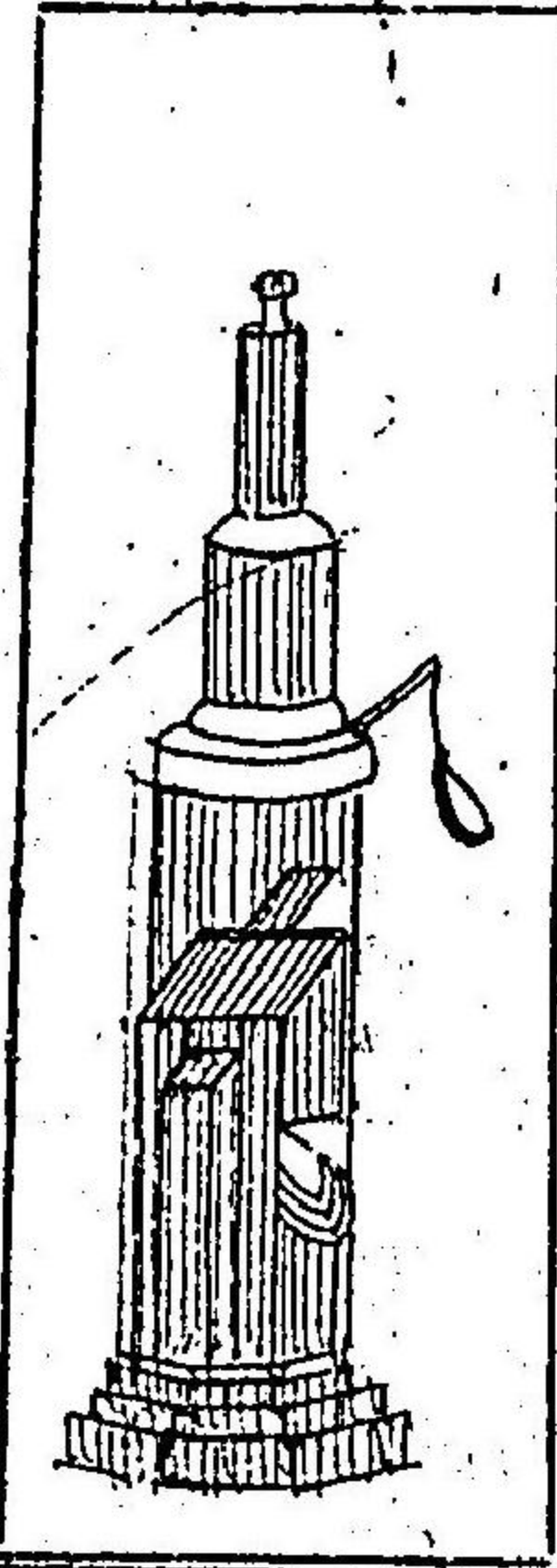
第十九凡テ物體ノ性ニニアリ、通有性、特有性トイフ、其通有性ヲ分テ十一種トス、碍性、容性、形狀、可分性、氣孔性、無盡性、慣性、運動性、引力、性、壓搾性、膨脹性、是ナリ、モシ物此性ハ一ヲ缺クトキハ、其固有ノ體ヲ保ツコト能ハザルモノナリ、○碍性ハ一定ノ所ヲ占メテ、他物ノ其所ニ入ルコトヲ許ササル性ヲ云フ、○今空氣ヲ滿タシメタル壺ヲ倒ニシテ、水中ニ入ル、二、壺中ニ水ノ入ルコト能ハザルハ空氣其中ニ滿テタルユエナリ、コレヲ空氣ノ碍性トイフ、○又二枚ノ板ヲ合スニ方リテ中間ニ一小石ヲ夾ム



トキハ、此板互ニ密著スルコト能ハズ、是
 小石ノ碍性ナリ、然レドモ、一升ノ食鹽ヲ
 一升ノ水中ニ入レテ、溶解スル時、此水ニ
 升トナルコトナクシテ、食鹽ト水ト合セ
 ルニ、似タリト雖、其實ハ、合セルニアラズ、
 食鹽皆溶解シテ、水中ノ分子間ノ空隙ニ入レルナリ、コレ
 ナ氣孔性トイフ、譬ヘバ水ヲ砂ニ灌ダバ、其水忽砂中ニ入
 ルガ如シ、是水ト砂ト合スルニアラズ、水皆砂ノ空隙ニ入
 レルナリ、此空隙ノ大ニシテ、且多キヲ、稀疎ノ體トイヒ、小
 ニシテ、且少キヲ、稠密ノ體トイフ、○稠密ノ體ハ、體中ノ分
 子、密著シタルモノニシテ、凝定セル、容積中ニ含ミタル

分子ノ分量ヲ示ス、○稀疎ハ、稠密ノ反ニシテ、體中ニ含ミ
 タル分子ヲ、増加スルコトナクシテ、容積ヲ擴張シタルモノ
 ノタイプ、○容積ハ、填充性、又容性ト稱フ、物體ノ長廣厚ニ
 シテ、體アレハ、必容積アリ、○形状ハ、定形性、又形性ト稱フ、
 物體ノ方圓平ノ類ニシテ、容積アレハ、必形状アリ、故ニ形
 状ハ、容積ノ定限ヲ見ルベキ者ナリ、○可分性ハ、物體ノ分
 析スベキ性ニシテ、萬物皆碎キテ、粉トナスベク、切りテ片
 トナスベキ性アルタイプ、○今三分ノ量アル、黄金ヲ槌テ
 展バセハ、一寸四方ノ金箔七十枚ヲ得ベクシテ、此箔一枚
 ナ、横截スレバ、二百個ノ線ヲ得ベシ、又此線ヲ、切断シテ、二
 百個ノ小片トセバ、此一小片ハ、三分ノ量ナル黄金ノ二百

八十萬分の一ナリ、然レドモ、猶人眼ヲ以テ黄金ナルコト
 ヲ見得ベシ、○又一片ノ墨塊ボククイヲ、多量ノ水中ニ溶解スレバ、
 此水總テ、墨色ニ變ズルハ、コレ墨塊ノ分子ノ、散ジタルモ
 ノナリ、○又水銀少許スモバカリヲ、鉢ニ入レテ、コレヲ綿密ニ搗ルト
 キハ、水銀散ジテ、鉢ノ裏面ニ粘着シ、只青色ノ物トナル、然
 レドモ、顯微鏡ケンビキョウヲ以テ、コレヲ
 見レハ、尚水銀ノ體ニシテ、粒
 ヲ皆分明ナリ、○其他香ノ、空
 中ニ散ズルモ、亦其體ノ分子ノ、空氣中ニ飛散セルナリ、○
 譬ヘバ、一個ノ麝香ジヤカクヲ空氣中ニ置クニ、二十年間、香ヲ發
 ツトイヘドモ、其分量ヲ減スルコト、極メテ少ナシ、是麝香



ノ可分性、他物ヨリ大ナレバナリ、○病毒ニモ、亦皆可分性
 アリテ、其分子飛散シ、他人ノ皮膚ヨリ侵入ス、是傳染病ナ
 リ、○無盡性ハ、物體ノ形狀、光色及性質、水火ノ爲ニ變化ス
 トイヘドモ、元質ハ、滅盡スルコトナク、必存スルモノヲ云
 ス、譬ヘハ、水ヲ煮テ蒸沸セシメ、或ハ日光ニ曝シテ乾カシ
 ムルトキ、其水散シテ、氣狀トナリ、消滅ストイヘドモ、必空
 氣中ニ浮遊シ、終ニ雲霧トナリ、雨雪トナリテ、地ニ落チ、川
 流ヲナスカ如シ、○薪炭ノ類モ、亦燔燒ヲ受ケテ、消
 滅スルニ似タリト雖、其實ハ、盡クルニアラズ、一部分ハ、烟
 又水氣トナリテ、蒸散シ、一部分ハ、灰及鹽トナリテ、後ヲ留マ
 ルナリ、○凡テ物體ハ、水火ノ爲ニ其形ヲ變シ、在

ル所ノ部分、悉分析ストイヘドモ、其分量ハ減ズルコトナク、又其性質ハ、絶テ變化スルコトナシコレヲ無盡性ト云フ、○物體ノ慣性トハ、或ハ止マリタル物體ヲ動カシ、或ハ動ケル物體ヲ止ムルトキ、遽ニ動止セザルモノヲ、物體ノ慣性トイフ、凡テ他ヨリ附加スルカナキトキハ、止マリタル物體自動クコト能ハス、又動ケル物體、自止マルヨト能ハザルナリ、其他ヨリ附加スルカトイフハ、或ハ人馬コレヲ動カシ、或ハ地球ノ引カコレヲ吸收スルノ類ナリ、其他カニ因リテ動クベキ



性ヲ運動性、又可動性ト稱ス、○引力性ハ、萬物互ニ相引クカヲイフコレヲ大ニシテハ、日月星辰、地球等、空中ニ麗クガ如キ、小ニシテハ、ヨウキキ拋石、テキキ擲球、地面ニ引ルハ、カ如キ、是ナリ、○萬物總テ此カナキハナシ、又コレヲ重力ト稱ス、
第二十 特有性ハ、前ト異ニシテ、此ニアリト雖、彼ニナク、特ニ其物ニノミ有ル性ヲイフ、コレヲ分チテハ、種トス、所謂粘著、ネリ堅硬、カタク柔軟、カタク韌力、カタク發張、ハル碎脆、サイ應袖、オウ凝聚ナリ、○彈力ハ、物體ノ容積ヲ壓縮シ、或ハ擴張セシメテ、コレヲ放ツトキハ、物體再以前ノ容積ニ復スルノカヲイフ、今弓ヲ曲ゲテ後、コシヲ放ツニ、又前ノ形ニ復スルハ、弓ノ彈力ナリ、彈力膠ハ、此カヲ備フルコト、甚多ク、又氣類ハ、彈力ヲ備フルコト、最

強シトス、○象牙ノ彈力ハ、甚大ニシテコレヲ壓縮シタル
後、再前形ニ復スルノ力、殆^{ホトト}壓搾ニ費ヤシ、カニ同^シ。○受
展性ハ、錳^{ツイ}銀^ネ或ハ壓搾シテ、コレヲ展ブレバ、容積ノ擴張ス
ル性ヲイフ

○黄金、銀、鐵、銅ノ諸金屬皆此性ヲ有ス
其中ニ黄金ヲ最トス然レドモ、鑛屬盡此性質ヲ備フルニ
非ルナリ○碎脆ハ、受展ノ反ニシテ、破碎スベキ性ナリ堅
硬ノ物體ハ、多ク此性ヲ備ス、硝子等コレナリ○應袖ハ、引
キテ線ト爲スベキ性ニシテ、諸金屬ハ皆此性アリ、殊ニ白
金ヲ以テ最トス故ニ白金ノ線ハ、蜘蛛^{チクモ}細ヨリ、細ク引キ延
ハスコトヲ得ヘシ○凝聚ハ、物體ノ分子互ニ相聚ルカヲ
云フ、其聚ルノ疎密ニ因リテ、硬脆ノ別アリ、輕重ノ別アリ、

○凝聚カノ強クシテ、他物分子間ニ入り難キ、堅^キ硬^クナル、金
石ノ類皆此カヲ有ス、金剛石ノ如キ、其最ナリコレヲ堅性
トイフ○其著スルコト、甚密ニシテ、凝聚カノ強キモノハ、
諸金屬中、鐵ヲ以テ第一トス、流動物ニモ亦此性アリ、但浮
氣體ハ此性ナク、却テ相反^{ハン}撥^{ハク}スルノカアルノミ、故ニ特有
ノ一性トス○又凝聚ノ致ス所トイヘドモ、鯨鬚ノ如ク屈
曲スベクシテ、毀壞^キシ難キ、柔^キ韌^ク性トイフ○又異性ノ物
ニシテ、相聚スル者アリ、米糊^{ベイコ}ノ物ニ貼^テシ、水漿^{スイシヤウ}ノ器物ニ
著^クカ如キ、是ヲ粘着性ト云フ

小學讀本卷之四終

神原芳野 校

明治九年九月十六日 翻刻御届
同 十月 出版

出版翻刻人

金三十五錢

京都府平民 石田忠兵衛

上京第五區柳町場藤本町

二百六十三番屋敷

京都府平民

遠藤平右門

下京第五區富小路三條下儿

五百四十七番屋敷

京都府平民

今井七郎衛

下京第十三區寺町通松原北町

四百九十八番屋敷

銅版製造所 下京第五區松原南町
橋本澄月堂 二男英統 再刻刀

門人 書刻刀

其藏部 松

富教芳

松本親月

小學讀本卷之四終